

明治三十二年農商務省令第三十二號耕地整理法施行規則中左ノ通改正ス  
第三十八條第二項中「方位及ヒ」トアルヲ「部分及ヒ其ノ」ト改メ第三項中「ノ方位及ヒ」トアルヲ「及ヒ其ノ」ト改ム  
第四十五條中「第六條」ノ下ニ「第十三條」ヲ加フ

### 第十三類 土地、森林 附土地收用

上卷二〇一  
三丁參看

上卷二〇六  
九丁參看

八丁參看  
上卷二〇八

上卷二〇八  
五丁參看

上卷二〇八  
八丁參看

●耕地整理法施行規則中改正 明治三十七年六月 農商務省令第八號

明治三十二年農商務省令第三十二號耕地整理法施行規則中左ノ通改正ス  
第三十八條第二項中「方位及ヒ」トアルヲ「部分及ヒ其ノ」ト改メ第三項中「ノ方位及ヒ」トアルヲ「及ヒ其ノ」ト改ム  
第四十五條中「第六條」ノ下ニ「第十三條」ヲ加フ

●國有林野法施行規則中改正 明治三十七年六月 農商務省令第九號

明治三十二年農商務省令第二十五號國有林野法施行規則中左ノ通改正ス  
第七條第三號中「主產物」トアルヲ「重要ナル產物」ト改ム

●不要存置國有林野賣拂規則中改正 明治三十六年十月 農商務省令第九號

明治三十二年農商務省令第二十七號不要存置國有林野賣拂規則中左ノ通改正ス  
第九條第二項トシテ左ノ一項ヲ加フ  
出願者特賣ノ許可又ハ契約ヲ失効ニ歸セシメタル者ナルトキハ大林區署長ハ其ノ願書ヲ却下スルコトヲ得

●國有林野及產物賣拂代金延納方 明治三十七年五月 勅令第四百六號

朕明治三十二年勅令第三百八十四號改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ公布セシム

第十三類 耕地整理法施行規則中改正 國有林野法施行規則中改正 不要存置國有林野賣拂規則中改正 國有林野及產物賣拂代金延納方 追加 (三〇三) 一一〇四ノ三



國有林野又ハ其ノ產物ノ賣拂代金ハ一口五百圓以上ナル場合ニ限り有價證券ヲ擔保トシテ提供セシメ一箇年以内ノ延納ヲ許可スルコトヲ得但シ公共團體ニ限り擔保ヲ免除スルコトヲ得前項ノ期間ハ公共團體又ハ社寺ニ對シテハ林野ニ在リテハ三箇年以内產物ニ在リテハ二箇年以内ト爲スコトヲ得擔保トシテ提供セシムヘキ有價證券ノ種類ハ農商務大臣之ヲ定ム

●國有林野及產物賣拂代金延納規則 明治三十七年六月 農商務省令第十一號

明治三十二年省令第三十號國有林野及產物賣拂代金延納規則左ノ通改正ス

上卷二〇八 八丁参考

- 國有林野及產物賣拂代金延納規則
  - 第一條 國有林野又ハ其ノ產物ノ賣拂代金ハ分割シテ之ヲ數回ニ納付セシムルコトヲ得
  - 第二條 代金延納ノ方法ヲ以テ隨意契約ニ依ル賣拂ヲ受ケント欲スル者ハ買受ノ申込ト同時ニ其ノ旨ヲ申出ツヘシ
  - 第三條 競争契約ニ依ル賣拂ニシテ代金延納ヲ許可スヘキモノナルトキハ賣拂公告ニ其ノ最長期間ヲ明示スヘシ
  - 第四條 賣拂代金ノ延納ニ付キ擔保ヲ徵收スヘキ場合ニ於テ契約保證金トシテ徵收シタル有價證券アルトキハ之ヲ擔保ニ充當ス但シ拂受人ニ於テ反對ノ意思ヲ表示シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス
  - 第五條 擔保トシテ徵收スルコトヲ得ル有價證券ハ左ノ十種トス
    - 國債證券
      - 勸業債券
      - 株式會社日本銀行株券
      - 株式會社日本勸業銀行株券
      - 株式會社日本興業銀行株券
      - 株式會社北海道拓殖銀行株券
    - 地方債證券
      - 興業債券
      - 株式會社正金銀行株券
      - 株式會社日本興業銀行株券
      - 株式會社北海道拓殖銀行株券

スヘシ

- 時價ノ低落ニ依リ擔保ノ不足ヲ生シタルトキハ前項ニ準シ之ヲ追徵スヘシ
- 第六條 拂受人契約ニ定メタル期限ニ擔保ヲ提供セサルトキハ契約ハ其効力ヲ失フ但シ不得止事由ニ因ルトキハ拂受人ノ請求ニ依リ相當ノ期間ヲ定メテ猶豫ヲ與フルコトヲ得
- 第七條 擔保ヲ提供セシメテ代金延納ヲ許可シタル場合ニ於テ賣拂物件ノ引渡ハ其ノ擔保徵收ノ後之ヲ爲スヘシ
- 第八條 擔保ハ賣拂代金完納ノ後之ヲ還付スヘシ
- 第九條 賣拂代金ノ一部ヲ納付シタルトキハ其ノ金額ニ相當スル擔保ハ之ヲ還付スルコトヲ得
- 第十條 拂受人不得止事由ニ因リ契約ニ定メタル期限ニ代金ヲ納付シ能ハサルトキハ其ノ請求ニ依リ最後ノ納期迄ノ間ニ於テ相當ノ期限ヲ定メテ其ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ猶豫期間ニ對シ法定利息ヲ徵收スルコトヲ得
- 第十一條 代金分割延納ノ方法ニ依リ擔保人契約ニ定メタル期限ニ代金ヲ納付セサルトキハ其ノ擔保品ノ全部又ハ一部ヲ賣却シテ之ヲ代金及賣却費用ニ充當スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ剩餘アルトキハ之ヲ拂受人ニ還付シ不足アルトキハ之ヲ追徵スヘシ
- 第十二條 前項ノ場合ニ於テ納期ノ未タ到來セサルモノアルトキハ賣却代金ノ剩餘ハ之ヲ金庫ニ寄托スヘシ但シ前條ニ依リ代金ノ全部ヲ一時ニ徵收スル場合ハ此ノ限ニ在ラス



明治九年六月  
第六十號達  
道路ノ制  
明治六年八月大藏省ヨリ相達候道路ノ等級ヲ廢シ更ニ別紙ノ通相定候條右分類等級各管内限詳細取調  
内務省ヘ可伺出此旨相達候事  
〔但費用ノ儀ハ追テ一般布告候迄從前ノ通相心得ヘシ〕

### ○第十四類 土木

十三年第四  
十八號布告  
ニ依リ但書  
消滅

●道路ノ制 明治九年六月  
第六十號達  
明治六年八月大藏省ヨリ相達候道路ノ等級ヲ廢シ更ニ別紙ノ通相定候條右分類等級各管内限詳細取調  
内務省ヘ可伺出此旨相達候事  
〔但費用ノ儀ハ追テ一般布告候迄從前ノ通相心得ヘシ〕

國道(十八年第一號布達ヲ以テ國道ノ等級ヲ廢ス)

- 「一等」 東京ヨリ各開港場ニ達スルモノ
- 「二等」 東京ヨリ伊勢ノ宗廟及各府各「鎮臺」ニ達スルモノ
- 「三等」 東京ヨリ各縣廳ニ達スルモノ及各府各「鎮臺」ヲ拘聯スルモノ

縣道

- 一等 各縣ヲ接續シ及各「鎮臺」ヨリ各分營ニ達スルモノ
  - 二等 各府縣本廳ヨリ其支廳ニ達スルモノ
  - 三等 著名ノ區ヨリ都府ニ達シ或ハ其區ニ往還スヘキ便宜ノ海港等ニ達スルモノ
- 里道 彼此ノ數區ヲ貫通シ或ハ甲區ヨリ乙區ニ達スルモノ



二等 用水堤防牧畜坑山製造所等ノタメ該區人民ノ協議ニ依テ別段ニ設クルモノ  
三等 神社佛閣及田畑耕耘ノ爲メニ設クルモノ

右ノ内一道ニシテ各種ヲ兼ルモノハ其類ノ重キモノニ從テ國道並縣道ノ道幅其土地ノ景況ニ據テ各地各殊ナルモノナレハ今遽ニ之ヲ一定シ實地ニ施行スヘカラスト雖モ豫メ一般ノ法則ナキ時ハ道路ヨリ生スル百般ノ事件其準據ヲ失フノ患アリ仍テ左ノ定ヲ以テ一般ノ法則ト爲シ且將來新設スル所ノ道路ハ其土地ノ便宜ニヨリ此道幅ヲ保タシムヘシ

國道

縣道 道幅四間乃至五間

里道ニ至テハ要スルニ該區ノ利便ヲ達スルニ在テ其關係スル所隨テ小ナレハ必ス之ヲ一定スルヲ要セス

橋梁ハ即チ路線ヲ互續スルモノナルヲ以テ道路ノ種類ニ隨フヲ至當トス然レトモ其幅ノ如キハ必スシモ道幅ニ隨フヲ要セス

●鎮守府ニ達スル道路ヲ國道ニ編入明治二十年七月勅令第二十八號

朕鎮守府ニ達スル道路ヲ國道ニ編入ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

東京ヨリ鎮守府ニ達スル道路及鎮守府ト「鎮臺」ト拘聯スル道路ハ自今國道ニ編入ス

七年一月太  
政官達ヲ以  
テ治水道路  
ノ事務ヲ内  
務省ニ屬ス

●國道幅員ノ制限及線路告示方明治十八年一月第一號布達

今般國道ノ等級ヲ廢シ其幅員ハ道敷四間以上並木敷濕拔敷ヲ合セテ三間以上總テ七間ヨリ狹少ナ

ラサルモノトス

但國道線路ハ「内務卿」ヨリ告示スヘシ

●修路架橋運輸ノ便ヲ興ス者ニ入費税金徵收ヲ許ス明治四年十二月布告

「治水」修路ノ儀ハ地方ノ要務ニシテ物產蕃盛庶民殷富ノ基本ニ付府縣管下ニ於テ有志ノ者其自費或ハ會社ヲ結ヒ水行ヲ疏シ嶮路ヲ開キ橋梁ヲ架スル等諸般運輸ノ便利ヲ興シ候者ハ落成ノ上功費ノ多寡ニ應シ年限ヲ定メ税金取立方被差許候間地方官ニ於テ此旨相心得右等ノ儀願出候者有之節ハ其地ノ民情ヲ詳察シ利害得失ヲ考ヘ入費税金ノ制限等篤ト取調大藏省ヘ可申出事但本文ノ趣管内無洩可相達事

●道路並木保護處分方明治六年五月第四百四十六號布告

諸道路並脇往還並木ノ儀ハ風雨寒暑ノ節行客ヲ防護スルヲ以テ猥ニ不可伐取候ニ付自今伐木願出候節ハ實況篤ト遂検査田畑ノ障礙ニ相成分ハ内務省ヘ申立許可ノ上處分可致最障礙ニ相成下枝伐透シ或ハ立枯根倒レ風折等ノ損木有之節ハ村村出願次第遂検査府縣限リ伐木差許本品入札拂下

第十四類

鎮守府ニ達スル道路ヲ國道ニ編入 國道幅員ノ制限及線路告示方 修路架橋運輸ノ便 二一〇七



上代金同省へ上納致シ跡地苗木植付等ノ儀ハ從前仕來ノ通相心得難決儀モ有之候ハハ同省へ可伺  
出事

●道路掃除規則 明治五年十月  
第三百二十五號布告

近來道路掃除ノ儀多クハ等閑ニ相成甚以不相濟事ニ候條各地方官ニ於テ厚ク注意シ追テ道路ノ制被相  
立候マテハ從前掃除請持有之道筋ハ勿論持場無之場所ハ最寄町村へ公平ニ割渡シ左ノ條目ノ通掃除可  
爲致事

- 第一條 總テ掃除請持丁場ハ風雨等ノ障リ有無ニ不拘必ス三箇月中一度充掃除可致事
  - 第二條 風雨ノ後ハ必ス其持場ヲ掃除シ溜水ハ左右溝へ導キ水溜ノ場所相減候様可致事
  - 第三條 並木根返リ風折雪折等ハ追テ其應ヨリ處分有之ト雖モ不取敢通路妨ナキ様取片付置可申事
  - 第四條 左右ニ溝渠无之道路ハ可成丈ケ道ノ兩縁ヲ低下ニシ雨水ノ捌方宜敷様可致事
  - 第五條 掃除丁場標坑往往等閑ニ致シ置候向モ有之右ハ必ス其請持丁場境ニ從是東西或ハ南北何百何  
十何町何郡何村掃除丁場ト誌シ標坑可相建事
  - 第六條 路敷往々田畑ニ切添候ヨリ並木根サシヲ失シ之カ爲メ根返ニ及ヒ易ク以ノ外ノ事ニ候以來決  
テ右様ノ所業致ス間敷事
- 右之通堅可相守候若等閑ニ差置ニ於テハ掛リ官員巡回ノ節屹度可申付事

●河川法 明治二十九年四月  
法律第七十一號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル河川法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

河川法

- 第一章 總則
- 第二章 河川ノ管理
- 第三章 河川ノ使用ニ關スル制限並警察
- 第四章 河川ニ關スル費用ノ負擔、土地所有者ノ權利義務並河川ノ管理ヨリ生スル收入等
- 第五章 監督及強制手續
- 第六章 訴願及訴訟
- 第七章 附則

河川法

第一章 總則

第一條 此ノ法律ニ於テ河川ト稱スルハ主務大臣ニ於テ公共ノ利害ニ重大ノ關係アリト認定シタル河  
川ヲ謂フ

第二條 河川ノ區域ハ地方行政廳ノ認定スル所ニ依ル

流水河川ノ區域外ニ出テテ永期ニ渉ルヘキモノト認ムルトキハ地方行政廳ハ其ノ河川ノ區域ヲ變更  
スヘシ



第三條 河川並其ノ敷地若ハ流水ハ私權ノ目的トナルコトヲ得ス

第四條 地方行政廳ニ於テ河川ノ支川若ハ派川ト認定シタルモノハ命令ヲ以テ特別ノ規程ヲ設ケタル場合ヲ除クノ外總テ河川ニ關スル規程ニ從フ

堤防、護岸、水制、河津、曳船道其ノ他流水ニ因リテ生スル公利ヲ増進シ又ハ公害ヲ除却若ハ輕減スル爲ニ設ケタルモノニシテ地方行政廳ニ於テ河川ノ附屬物ト認定シタルモノハ命令ヲ以テ特別ノ規程ヲ設ケタル場合ヲ除クノ外總テ河川ニ關スル規程ニ從フ

第五條 此ノ法律ニ規定シタル事項ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ河川ニ流入シ若ハ河川ヨリ分岐スル水流若ハ水面又ハ第一條ノ認定ヲ受ケサル河川ニ準用スルコトヲ得

第二章 河川ノ管理

第六條 河川ハ地方行政廳ニ於テ其ノ管内ニ係ル部分ヲ管理スヘシ但シ他府縣ノ利益ヲ保全スル爲必  
要ト認ムルトキハ主務大臣ニ於テ代テ之ヲ管理シ又ハ其ノ維持修繕ヲナスコトヲ得

第七條 地方行政廳ハ河川ニ關スル工事ヲ施行シ其ノ維持ヲナスノ義務アルモノトス但シ第四十三條ニ依リ通航料徵收ノ許可ヲ得タル者ヲシテ其ノ義務ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ妨ケス

第八條 河川ニ關スル工事ニシテ利害ノ關係スル所一府縣ノ區域ニ止マラサルトキ又ハ其ノ工事至難ナルトキ若ハ其ノ工費至大ナルトキ又ハ河川ノ全部若ハ一部ニ付キ大體ニ渉ル一定ノ計畫ニ基キテ施行スル改良工事ナルトキハ主務大臣ハ自ら其ノ工事ヲ施行シ又ハ其ノ工事ニ因リ特ニ利益ヲ受クル公共團體ノ行政廳ニ命シテ之ヲ施行セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ主務大臣ハ此ノ法律ニ依リテ地方行政廳ノ有スル職權ヲ直接施行スルコトヲ得

第九條 地方行政廳ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ其ノ管内ノ下級行政廳ヲシテ河川ニ關スル工事ノ一部ヲ施行セシメ又ハ其ノ維持ヲナサシムルコトヲ得

第十條 河川ノ附屬物ニシテ兼ネテ他ノ工作物ノ效用ヲナスモノアルトキハ地方行政廳ハ其ノ工作物ノ管理者ヲシテ其ノ附屬物ニ關スル工事ヲ施行シ又ハ其ノ維持ヲナサシムルコトヲ得

他ノ工作物ニシテ兼ネテ河川ノ附屬物ノ效用ヲナスモノアルトキハ地方行政廳ニ於テ其ノ工作物ニ關スル工事ヲ施行シ又ハ其ノ維持ヲナスコトヲ得

第十一條 他ノ工事ニ因リ河川ニ關スル工事ノ必要ヲ生シタルトキハ地方行政廳ハ其ノ工事ノ施行者ヲシテ河川ニ關スル工事ヲ施行セシムルコトヲ得

河川ニ關スル工事ニ因リ必要ヲ生シタル他ノ工事又ハ河川ニ關スル工事ヲ施行スル爲ニ必要ナル他ノ工事ハ地方行政廳ニ於テ併セテ之ヲ施行スルコトヲ得

第十二條 行政廳ハ河川ニ關スル工事ノ請負ヲナスコトヲ得ス

第十三條 河川ニ關スル工事ノ請負ノ制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條 地方行政廳ハ其ノ管理ニ屬スル河川ノ臺帳ヲ調製シ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

臺帳ノ調製、保管、記載事項等ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

主務大臣ノ認可ヲ經タル臺帳ニ記載セル事項ニ關シテハ反對ノ立證ヲ許サス但シ臺帳調製後其ノ事實ノ變更シタルコトヲ證スルヲ妨ケス



第十五條 地方行政廳ニ於テ河川管理ノ爲特ニ吏員ヲ置クコトヲ要スルトキハ其ノ定員、給料、手当、職務權限並其ノ費用ノ負擔者等ハ命令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

第三章 河川ノ使用ニ關スル制限並警察

第十六條 舟筏ノ通航及流水ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條 左ニ記載スル工作物ヲ新築、改築若ハ除却セムトスル者ハ地方行政廳ノ許可ヲ受クヘシ

一 流水ヲ停滯セシメ若ハ引用シ又ハ流水ノ害ヲ豫防スル爲ニ施設スル工作物

二 河川ニ注水スル爲ニ施設スル工作物

三 河川ノ區域内ニ於テ敷地ニ固着シテ施設スル工作物又ハ河川ニ沿ヒ若ハ河川ヲ横過シ若ハ其ノ床下ニ於テ施設スル工作物

第十八條 河川ノ敷地若ハ流水ヲ占用セムトスル者ハ地方行政廳ノ許可ヲ受クヘシ

第十九條 流水ノ方向、清潔、分量、幅員若ハ深淺又ハ敷地ノ現狀等ニ影響ヲ及ホスノ虞アル工事、營業其ノ他ノ行爲ハ命令ヲ以テ之ヲ禁止若ハ制限シ又ハ地方行政廳ノ許可ヲ受ケシムルコトヲ得

第二十條 左ノ場合ニ於テ地方行政廳ハ許可ヲ取消シ若ハ其ノ效力ヲ停止シ若ハ其ノ條件ヲ變更シ又ハ既ニ施設シタル工作物ヲ改築若ハ除却セシメ又ハ原形ノ回復ヲ命シ又ハ許可セラレタル事項ニ因

リテ生スル危害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ヲナサシムルコトヲ得

一 工事施行ノ方法若ハ施行後ニ於ケル管理ノ方法公安ヲ害スルノ虞アルトキ

二 河川ノ狀況ノ變更其ノ他許可ノ後ニ起リタル事實ニ因リ必要ヲ生スルトキ

三 河川ニ關スル工事ヲ施行シ又ハ許可ヲ與ヘタルモノノ外ニ工事、使用若ハ占用ヲ許可スル爲ニ必要ナルトキ

四 此ノ法律ニ基キテ發スル命令ノ規程ニ依リ必要ヲ生スルトキ

五 法律、命令ニ違背シタルトキ

六 公益ノ爲必要アルトキ

第二十一條 本章ノ規程ニ依リ與ヘタル許可ニ依リテ生スル權利義務ハ地方行政廳ノ許可ヲ受クルニ

非サレハ之ヲ他人ニ移スコトヲ得ス

第二十二條 法律命令若ハ許可ノ條件ニ違背シタル者ハ行政廳ノ命スル所ニ從ヒ其ノ違背ニ因リテ生

シタル事實ヲ更正シ且其ノ因リテ生スル損害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ヲナスヘシ

第二十三條 洪水ノ危險切迫ナルトキハ地方行政廳又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏ハ其ノ現場ニ於テ直

ニ防禦ノ爲ニ必要ナル土地ヲ使用シ土砂、竹木其ノ他ノ材料、車馬其ノ他ノ運搬具及器具等ヲ使用

若ハ徵收シ又ハ其ノ現場ニ在ル者ヲ使役シ又ハ家屋其ノ他ノ障害物ヲ破毀スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ地方行政廳又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏ハ其ノ管内ニ於テ夫役ヲ命シ又ハ下級公

共團體ニ命シテ土地、材料、運搬具、器具及夫役ヲ供セシメ又ハ市町村長其ノ他ノ市町村吏員等ヲ

指揮シテ必要ナル處分ヲナサシムルコトヲ得

地方行政廳ハ其ノ管内ノ下級公共團體ニ命シテ豫メ洪水防禦ノ爲必要ナル準備ヲナサシムルコトヲ

得



第四章 河川ニ關スル費用ノ負擔、土地所有者ノ權利義務並河川ノ管理ヨリ生スル收入等

第二十四條 河川ニ關スル費用ハ府縣ノ負擔トス

主務大臣ニ於テ第六條但書ニ依リ河川ノ管理若ハ其ノ維持修繕ヲナス場合ニ於テハ國庫ニ於テ其ノ費用ノ全部若ハ一部ヲ負擔スルコトヲ得

第一項費用ノ範圍ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依ル

第二十五條 通航料徴收ノ許可ヲ受ケテ施設シタル工作物ノ爲ニ要スル費用ハ其ノ徴收期間許可ヲ受ケタル者ノ負擔トス

第二十六條 河川ノ改良工事ニ要スル豫算費用ニシテ其ノ府縣内ノ地租額十分ノ一ヲ超過スルトキハ

其ノ超過額ノ三分ノ二以内ヲ國庫ヨリ補助スルコトヲ得但シ地租額ヲ超過スル部分ニ付テハ其ノ超過額ノ四分ノ三以内ヲ補助スルコトヲ得

災害ニ因リ必要ヲ生シタル工事ニ要スル費用ハ前項ニ依ルノ限ニ在ラス

工事費用精算ノ上豫算ヨリ減スルコトアルモ既ニ與ヘタル補助金ハ之ヲ還付セシメサルコトヲ得

第二十七條 第八條ニ依リ主務大臣ニ於テ工事ヲ施行スル場合ニ於テハ府縣ハ前條ノ規程ニ準シテ其ノ豫算費用ヲ負擔シ國庫ハ其ノ殘額ヲ負擔スヘシ

前項ノ場合ニ於テ府縣ノ負擔スヘキ金額並不足額ノ補充及殘餘金ノ處分等ハ主務大臣之ヲ定ム

第二十八條 第八條ニ依リ主務大臣ニ於テ工事ヲ施行スル場合ニ於テハ府縣ハ其ノ負擔スヘキ豫算金額ヲ國庫ニ納付スヘシ

第二十九條 地方行政廳ハ其ノ管内ノ下級公共團體ヲシテ河川ニ關スル費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第三十條 河川ノ附屬物ニシテ兼ネテ他ノ工作物ノ效用ヲナスモノアルトキハ其ノ工作物ノ管理者タル行政廳ノ直接ニ管轄スル公共團體若ハ管理者タル私人ヲシテ其ノ附屬物ニ關スル費用ノ全部若ハ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第三十一條 營業ノ結果ニ因リ特ニ河川ニ關スル工事ノ必要ヲ生セシムルモノアルトキハ其ノ營業者ヲシテ其ノ費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第三十二條 河川ニ關スル工事ニシテ他ノ工事ニ因リ必要ヲ生シタルモノナルトキハ其ノ費用ハ工事ノ必要ヲ生シタル程度ニ於テ其ノ原因タル工事ノ費用負擔者ヲシテ之ヲ負擔セシムルコトヲ得河川ニ關スル工事ニ因リテ必要ヲ生シタル他ノ工事ノ費用ハ其ノ工事ノ管理者タル行政廳ノ直接ニ管轄スル公共團體若ハ管理者タル私人ノ負擔トス但シ命令ノ定ムル所ニ從ヒ河川ニ關スル費用ノ内ヨリ其ノ費用ノ全部若ハ一部ヲ補助スルコトヲ妨ケス

第三十三條 河川ニ關スル工事ニシテ他ノ府縣若ハ他府縣内ノ公共團體ニ於テ著シク利益ヲ受クルモノナルトキ又ハ河川ニ關スル工事若ハ其ノ維持ニシテ主トシテ他府縣内ノ住民ノ河川ノ使用ニ因リ必要ヲ生スルモノナルトキハ其ノ府縣若ハ其ノ府縣内ノ公共團體ヲシテ其ノ費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第三十四條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ノ命シタル事項ヲ遵守スル爲ニ



要スル費用ハ特別ノ規程ヲ設ケタル場合ヲ除クノ外其ノ命ヲ受ケタル者ノ負擔トス

第五十二條ニ依リ主務大臣若ハ地方長官ニ於テ義務者ノ履行スヘキ事項ヲ自ラ執行シ若ハ第三者ヲシテ執行セシメタルカ爲ニ要シタル費用ハ其ノ義務者ヨリ之ヲ追徴スルコトヲ得

第三十五條 公共團體ハ河川ニ關スル工事若ハ費用ノ爲寄附ヲナスコトヲ得

第三十六條 公共團體ハ河川ニ關スル費用ニ付キ私人若ハ其ノ區域内ノ下級公共團體ニ補助ヲナスコトヲ得

第三十七條 公共團體ハ河川ニ關スル費用ニ付キ利害關係ノ厚薄ヲ標準トシテ其ノ區域内ニ於テ不均一ノ賦課ヲナスコトヲ得

第三十八條 河川ニ關スル工事ノ爲必要ナルトキハ地方行政廳ハ管内ノ土地若ハ森林ノ所有者ニ命シ補償金トシテ時價相當ノ金額ヲ下付シテ其ノ所有ニ係ル土石、砂礫、芝草、竹木及運搬具ヲ供給セシムルコトヲ得但シ時價ニ關シテ協議整ハサルトキ又ハ所有者不明ナルトキ若ハ其ノ所在不明ナルトキハ地方行政廳ハ相當ト認ムル金額ヲ供託シテ本條ノ供給ヲナサシムルコトヲ得

第三十九條 河川ニ關スル工事ノ爲必要ナルトキハ地方行政廳ハ其ノ堤外地ニ立入り又ハ其ノ土地ヲ材料置場等ニ供シ又ハ已ムヲ得サルトキハ其ノ土地ニ現在スル建設物其ノ他ノ障害物ヲ除却スルコトヲ得

堤外地ニ非サル沿岸若ハ沿堤土地ニ關シテハ其ノ地先ニ施行スヘキ工事ノ爲必要ナル場合ニ限り前項ヲ適用スルコトヲ得

前二項ノ適用ニ依リ損害ヲ受ケタル所有者ハ使用若ハ除却ノ後三箇月以内ニ府縣ニ對シ補償金ヲ請求スルコトヲ得

第四十條 第二十三條第一項ノ處分ニ因リ著シク損害ヲ受ケタル者アルトキハ地方行政廳ハ其ノ管内ノ市町村、町村組合若ハ水利組合ニ命シテ其ノ物件ノ價額ヲ補償セシムルコトヲ得其ノ價額ハ行政廳之ヲ定ム

前項補償ノ手續ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十一條 法律、命令若ハ許可認可ノ條件ニ違背シタル工事、設備、使用、占用若ハ工作物ノ管理ニ因リ損害ヲ受ケシメタル者ハ其ノ損害ヲ賠償スヘシ

前項ニ依リ行政廳ニ於テ下付スヘキ賠償金ハ其ノ行政廳ノ直接ニ管轄スル公共團體ノ負擔トス

第四十二條 流水ヲ停滯シ若ハ引用スル爲ノ工作物ノ施設其ノ他河川ノ使用若ハ占用ヲ許可スルトキハ其ノ管理者、使用者若ハ占用者ヨリ使用料若ハ占用料ヲ徵收スルコトヲ得

本條ノ使用料若ハ占用料其ノ他河川ヨリ生スル收入ハ府縣ニ歸ス

第四十三條 地方行政廳ハ私人若ハ其ノ管内下級公共團體ニ於テ舟筏ノ便ヲ謀ル爲新築若ハ改築工事ヲ施行スル場合ニ限り舟筏ヨリ通航料ヲ徵收スルコトヲ許可スルコトヲ得但シ其ノ年限ハ當初許可シタル時ヨリ三十箇年ヲ超過スルコトヲ得ス

通航料ノ徵收ヲ停止スヘキ場合ニ於ケル補償其ノ他通航料ノ制限等ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム



第四十四條 河川敷地ノ公用ヲ廢シタルトキハ地方行政廳ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ之ヲ處分スヘシ但シ此ノ法律施行前私人ノ所有權ヲ認メタル證跡アルトキハ其ノ私人ニ下付スヘシ

第四十五條 河川附近ノ土地若ハ工作物ノ所有者ハ命令ノ規程ニ依リ行政廳ノ命スル所ニ從ヒ其ノ土地ノ缺壞若ハ土砂流出ヲ豫防スル爲又ハ其ノ工作物ノ河川ニ及ホス損害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ノ全部若ハ一部ヲナシ又ハ其ノ費用ノ全部若ハ一部ヲ負擔スルノ義務ヲ有ス

第四十六條 河川ニ土砂ヲ流出スルノ虞アル土地ノ所有者ハ行政廳ニ於テ其ノ土地ニ竹木芝草ヲ植附ケ若ハ培養シ又ハ其ノ他土砂扞止ノ設備ヲナシ若ハ之ヲ維持スルコトヲ拒ムコトヲ得ス前項ニ依リ植附タル竹木芝草ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ其ノ土地所有者ヲシテ收益ノ全部若ハ一部ヲ取得シテ之ヲ培養スルノ義務ヲ負ハシムルコトヲ得

土砂扞止ノ爲ニ要スル土地ハ行政廳ニ於テ土地收用法ニ依リ之ヲ收用スルコトヲ得  
第一項土地ノ區域ハ地方行政廳ニ於テ豫メ之ヲ告示スヘシ

第四十七條 此ノ法律ヲ以テ定メタルモノノ外尙河川附近ノ土地、家屋若ハ其ノ他ノ工作物ニ關シ河川ノ公利ヲ増進シ又ハ公害ヲ除却若ハ輕減スル爲ニ必要ナル制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十八條 河川若ハ河川附近ノ土地ニ關シテ規定シタル事項ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ河川ノ通スル工事ニ因リ新ニ河川トナルヘキ區域若ハ其ノ附近ノ土地ニ之ヲ準用スルコトヲ得

第五章 監督及強制手續

第四十九條 主務大臣ハ河川ニ關スル行政ヲ監督ス

地方長官ヲシテ第一次ニ於テ監督セシムヘキ事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

此ノ法律ニ規定シタル事項ニシテ主務大臣若ハ地方長官ノ認可ヲ要スルモノハ命令ヲ以テ之ヲ定ム  
第三十五條及第三十六條ニ規定シタル事項並此ノ法律ニ依リ行政廳ニ付與シタル職權ニ關シテハ命令ヲ以テ制限ヲ設クルコトヲ得

第五十條 他ノ府縣若ハ他ノ府縣内ノ公共團體ヲシテ費用ヲ負擔セシムル爲ニ必要ナル手續ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十一條 主務大臣ハ地方行政廳ニ命シテ河川ニ關スル工事ヲ施行セシメ又ハ河川ノ區域及其ノ附屬物ノ認定若ハ臺帳ノ更正ヲナサシメ其ノ他此ノ法律ニ規定シタル地方行政廳ノ職權ヲ施行セシムルコトヲ得

第五十二條 義務者ニ於テ此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依ル義務ヲ履行セス若ハ之ヲ履行スルモ必要ノ期限内ニ終了スルノ見込ナキトキ又ハ其ノ履行ノ方法宜ヲ得サルトキハ主務大臣若ハ地方長官ハ自ラ之ヲ執行シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ執行セシムルコトヲ得

第五十三條 私人ニ於テ此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依ル義務ヲ怠ルトキハ主務大臣若ハ地方長官ハ一定ノ期限ヲ示シ若期限内ニ履行セサルトキ若ハ之ヲ履行スルモ不充分ナルトキハ千圓以内ニ於テ指定シタル過料ニ處スルコトヲ豫告シテ其ノ履行ヲ命スルコトヲ得

第五十四條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シ納付セシメタル保證金ハ行政廳ニ於テ直ニ其ノ納付ノ目的又ハ過料ニ充用スルコトヲ得



前項保證金ハ他ノ債權ノ爲ニ差押フルコトヲ得ス

第五十五條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ私人ニ於テ負擔スヘキ費用及過料ハ此ノ法律ニ於テ特ニ民事訴訟ヲ許シタル場合ヲ除クノ外行政廳ニ於テ國稅滯納處分法ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得

前項ノ費用及過料ニ付キ行政廳ハ國稅ニ次キ先取特權ヲ有スルモノトス

此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ公共團體ニ於テ負擔スヘキ費用ニ關シテハ此ノ法律ニ於テ特ニ民事訴訟ヲ許シタル場合ヲ除クノ外主務大臣若ハ地方長官ハ必要ナル場合ニ於テハ金額ヲ定メテ之ヲ其ノ豫算表ニ掲ケ其ノ他必要ナル處分ヲ指揮シ直ニ其ノ金額ヲ支出セシムルコトヲ得

第五十六條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ニ付與シタル職權ハ行政處分ニ依リ之ヲ強制スルコトヲ得

行政廳ノ許可若ハ認可ニ附シタル條件ニ關シテモ亦本條及前條ヲ準用ス

第五十七條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ於テ規定シタル事項ニ關シテハ河川視察ノ職務ヲ有スル官吏ヲシテ命令ノ定ムル所ニ從ヒ警察官ノ職權ノ全部若ハ一部ヲ執行セシムルコトヲ得

第五十八條 此ノ法律ニ規定シタル私人ノ義務ニ關シテハ命令ヲ以テ二百圓以内ノ罰金若ハ一年以下ノ禁錮ノ罰則ヲ設クルコトヲ得

第六章 訴願及訴訟

第五十九條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ主務大臣若ハ地方行政廳ノナシタル處分ニ對シテ不服アル私人若ハ公共團體ハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得

此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令若ハ地方行政廳ノ委任ニ依リ下級行政廳ノナシタル處分ニ對シテ不服アル私人若ハ公共團體ハ地長長官ニ訴願シ地方長官ノ裁決ニ不服アル者ハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得

此ノ法律ニ依リ行政訴訟ノ提起ヲ許シタル場合ニ於テハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス

第六十條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シ行政廳ノ違法處分ニ依リ權利ヲ毀損セラレタリトスル私人若ハ公共團體ハ前條ニ依リ訴願ノ裁決ヲ經タル後行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ主務大臣若ハ地方行政廳ノ處分ニ對シテハ直ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第六十一條 第四十一條第一項ニ依リ損害賠償ヲ請求スル私人若ハ公共團體ハ損害ヲ受タル日ヨリ三箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

法律、命令若ハ許可認可ノ條件ニ違背シタルヤ否ヤニ付キ爭アルトキハ前數條ノ手續ニ依リ其ノ違背シタリトノ事實確定シタル後ニ非サレハ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ前項ノ期間ハ確定ノ日ヨリ起算スルモノトス

第六十二條 第三十八條若ハ第三十九條ニ依リ下付スヘキ補償金額ニ對シ不服アルトキハ行政廳ニ於テ補償金額ノ通知ヲナシタル日ヨリ六箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ第三十九條ノ場



合ニ於テ補償金請求ノ後三箇月以内ニ其ノ金額ノ通知ナキトキハ其ノ期限經過後六箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第六十三條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シテハ本章ノ規程ニ依リ特ニ許シタル場合ヲ除クノ外訴訟ヲ提起シ又ハ行政訴訟ニ對シ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

第七章 附則

第六十四條 此ノ法律ノ全部若ハ一部ヲ施行スヘキ區域及時期ハ主務大臣之ヲ定ム

此ノ法律ヲ施行スル爲ニ必要ナル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十五條 河川ノ臺帳ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ二箇年以内ニ之ヲ調製スヘシ

第六十六條 災害土木費負擔ニ關スル慣例「及外國人居留地内ニ於ケル河川ニ關スル慣例」ハ此ノ法律ヲ以テ變更スルノ限ニ在ラス

●河川法第九條ニ依レル命令三十二年五月 內務省令第十六號

河川法第九條ニ依レル命令左ノ通之ヲ定ム

第一條 府縣知事ニ於テ下級行政廳ヲシテ河川ニ關スル工事ヲ施行セシメ又ハ其ノ維持ヲ爲サシムルニハ其ノ行政廳ハ河川ニ就キ直接ニ利害ノ關係ヲ有スル公共團體ノ行政廳タルコトヲ要ス

第二條 府縣知事ニ於テ下級行政廳ヲシテ河川ニ關スル工事ヲ施行セシメ又ハ其ノ維持ヲ爲サシムルトキハ土木監督署ヲ經由シ内務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス其ノ變更廢止ヲ爲ストキ亦同シ

●河川法第四十條ニ依レル補償ノ手續三十二年七月 內務省令第三十六號

河川法第四十條ニ依レル補償ノ手續左ノ通之ヲ定ム

第一條 府縣知事ニ於テ河川法第四十條ニ依リ市町村、町村組合若ハ水利組合ニ補償ヲ命スルトキハ補償スヘキ物件ノ種類、員數及補償金額並ニ其ノ支拂期限ヲ定メ補償金ヲ受取ルヘキ者ノ氏名、住所ト共ニ之ヲ其ノ市町村、町村組合若ハ水利組合ニ通知スヘシ

第二條 府縣知事ニ於テ前條ノ通知ヲ爲シタルトキハ同時ニ前條ニ依リ定メタル事項ヲ補償金ヲ受取ルヘキ者ニ通知スヘシ

●河川法第四十三條第二項ニ依レル命令明治三十三年五月 內務省令第二十八號

河川法第四十三條第二項ニ依レル命令左ノ通之ヲ定ム

第一條 府縣知事ニ於テ河川法第四十三條ニ依リ通航料ノ徵收ヲ許可スルトキハ其ノ金額及徵收期間ヲ定ムヘシ

第二條 通航料ノ金額及其ノ徵收期間ハ原資及其ノ利子ノ償還ヲ標準トシテ之ヲ定ムルコトヲ要ス

第三條 公益ノ爲メ必要アルトキハ府縣知事ハ通航料徵收ノ許可ヲ取消シ又ハ其ノ効力ヲ停止シ若ハ其ノ條件ヲ變更スルコトヲ得

第四條 通航料徵收ノ許可ヲ取消シタル者ノ申請ニ依リ府縣ニ於テ補償金ヲ下付スルコトヲ得

前項ノ補償金額ハ原資ノ未償還額ヲ超過スルコトヲ得ス

第五條 通航料徵收許可ノ効力ヲ停止シ若ハ其ノ條件ヲ變更シタルニ因リ其ノ收入ノ減少シタルトキ又ハ更ニ新築若ハ改築ヲ爲シタルトキハ府縣知事ニ於テ通航料ノ増額及徵收期間ノ伸長ヲ許可スルコトヲ得

第六條 通航料ハ左ニ掲ケタル舟筏ヨリ之ヲ徵收スルコトヲ得ス

- 一 河川ノ視察其ノ他公務ノ爲メ通航スル船舶
- 二 行政廳ノ使用スル船舶
- 三 國及府縣以下ノ公共團體ノ所有ニ屬スル筏
- 四 自家耕作ノ肥料ヲ積載スル船舶
- 五 府縣知事ニ於テ特ニ定メタル舟筏

第十四類 河川法第九條ニ依レル命令 河川法第四十條ニ依レル補償ノ手續 河川法第四十三條 第二項ニ依レル命令



第七條 通航料徴收ノ許可ニ依リテ生スル權利義務ハ府縣知事ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ他人ニ移スコトヲ得ス  
 第八條 左ニ掲ケタル各號ニ該當スル者ハ五圓以下ノ罰金ニ處ス  
 一 許可ノ効力停止期間内ニ通航料ヲ徴收シタル者  
 二 第六條ノ規定ニ違背シタル者

●河川法第四條第二項ニ依レル特別ノ規定明治三十五年六月 内務省令第十六號

河川法第四條第二項ニ依レル特別ノ規定左ノ通之ヲ定ム  
 第一條 河川ノ附屬物カ府縣ノ境界ニ係ルトキハ關係府縣知事ノ一ニ於テ其附屬物ノ全部又ハ其一部ヲ管理スルコトヲ得  
 第二條 前條ノ場合ニ於テハ關係府縣知事協議ノ上管理ヲ爲スヘキ附屬物及其管理者ヲ定メ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ  
 前項ノ協議調ハサルトキハ内務大臣ノ指揮ヲ受クヘシ  
 管理ヲ爲スヘキ附屬物及其管理者確定シタルトキハ關係府縣知事ハ之ヲ告示スヘシ  
 第三條 管理者タル府縣知事ハ其附屬物ニ關スル工事ヲ施行シ其維持ヲ爲スノ義務アルモノトス  
 第四條 本令ノ規定ニ依レル河川ノ附屬物ニ要スル費用ハ其管理者タル府縣知事ノ管轄スル府縣ノ負擔トス  
 前項ノ費用ニ付テハ他ノ關係府縣ヲシテ其一部ヲ負擔セシムルコトヲ得此場合ニ於テハ明治三十二年内務省令第二十二號ノ規定ヲ準用ス  
 第五條 本令ノ規定ニ依レル河川ノ附屬物ヨリ生スル收入ハ其管理者タル府縣知事ノ管轄スル府縣ニ歸ス  
 第六條 本令ノ規定ニ依レル河川ノ附屬物ニ付テハ各關係府縣知事ニ於テ其管轄區域ニ屬スル部分ノ河川臺帳ヲ調製スヘシ

●河川法第五十條ニ依レル命令三十二年六月 内務省令第二十二號

河川法第五十條ニ依レル命令左ノ通之ヲ定ム  
 第一條 府縣知事ニ於テ他ノ府縣又ハ他ノ府縣内ノ公共團體ヲシテ河川ニ關スル費用ヲ負擔セシメントスルトキハ其ノ府縣知事ニ協議ノ上負擔金額及納付期限ヲ定ムヘシ

第二條 前條ノ協議調ヒタルトキハ府縣知事ニ於テ土木監督署ヲ經由シテ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第三條 第一條ノ協議調ハサルトキハ府縣知事ニ於テ土木監督署ヲ經由シテ内務大臣ノ指揮ヲ受クヘシ

第四條 府縣知事ハ他ノ府縣又ハ他ノ府縣内ノ公共團體ヲシテ負擔セシムヘキ金額及納付セシムヘキ期限確定シタルトキハ之ヲ其ノ府縣知事ニ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタル府縣知事ハ其府縣内ノ公共團體ヲシテ負擔セシムヘキ金額アル場合ニ於テハ更ニ其ノ金額及納付期限ヲ其ノ公共團體ヲ直接ニ管轄スル行政廳ニ通知スヘシ

第五條 他ノ府縣ニ於テ期限内ニ其ノ負擔金額ヲ納付セザルトキハ府縣知事ハ内務大臣ニ其ノ旨ヲ具申スヘシ

他ノ府縣内ノ公共團體ニ於テ其ノ負擔金額ヲ期限内ニ納付セザルトキハ府縣知事ハ其ノ公共團體ヲ管轄スル府縣知事ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタル府縣知事ハ河川法第五十五條第三項ニ依リ直ニ其ノ金額ヲ支出セシムヘシ

第六條 内務大臣ニ於テ自ラ河川ニ關スル工事ヲ施行シ又ハ府縣知事ニ代テ河川ノ管理ヲ爲シ若ハ其維持修繕ヲ爲ス場合ニ於テハ他ノ府縣又ハ他ノ府縣内ノ公共團體ヲシテ負擔セシムヘキ金額及納付セシムヘキ期限ハ内務大臣之ヲ定ム

●河川ニ關スル行政監督明治二十九年六月 勅令第二百三十五號

朕河川ニ關スル行政監督ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 河川法若ハ之ニ基キテ發スル命令ニ依リ郡、市、町、村、町村組合又ハ水利組合ノ行政廳ニ於テ執行スル河川行政及府縣知事ノ命シ又ハ許可シタル事項ニ關シテハ第一次ニ於テ府縣知事之ヲ監督シ第二次ニ於テ内務大臣之ヲ監督ス

第二條 左ニ掲ケル事項及其ノ變更、停止又ハ廢止ハ内務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス但河川ニ影響スルコト小ニシテ内務大臣ニ於テ命令ヲ以テ認可ヲ要セスト規定シタルモノハ此ノ限ニアラス(三十二年勅令第二百八十七號ヲ以テ第一號中及云々ノ七字ヲ加フ)

第十四類 河川法第四條第二項ニ依レル特別ノ規定 河川法第五十條ニ依レル命令 河川ニ關スル行政監督



- 一 河川ノ支川派川及河川ノ附屬物ノ認定
  - 二 河川ニ關スル新築改築若ハ除却工事ノ施行並ニ其ノ計畫及其ノ工費豫算
  - 三 河川法第十七條第十八條及第四十三條ニ依リ與フル許可
  - 四 内務大臣ノ認可ヲ經テ許可シタル事項ニ關シ河川法第二十條ニ依ル府縣知事ノ處分
  - 五 河川法第二十九條乃至第三十二條ニ依ル費用ノ負擔方法
  - 六 河川法第三十七條ニ依ル府縣ノ不均一ノ賦課
  - 七 河川法第三十九條ニ依ル建設物其ノ他ノ障害物ノ除却
- 第三條 左ニ掲クル事項及其ノ變更、停止又ハ廢止ハ府縣知事ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス
- 一 河川法第二十二條及第四十六條第一項ニ依ル下級行政廳ノ處分
  - 二 河川法第三十七條ニ依ル下級公共團體ノ不均一ノ賦課
- 此ノ勅令ニ依リ府縣知事ノ第一次ニ監督スヘキ事項ニ關シテハ府縣知事ハ府縣合ヲ以テ其ノ認可ヲ受クヘキモノヲ定ムルコトヲ得
- 第四條 河川法第三十五條ニ依リ郡、市、町、村、町村組合又ハ水利組合ニ於テ寄付ヲナストキハ左ノ條件ヲ具備シ且府縣知事ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス
- 一 河川ニ關スル事業ニシテ寄付ヲナサントスル公共團體ノ利害ニ直接ノ關係アルコト
  - 二 寄付ヲナサントスル公共團體ニ於テ起債ノ方法ニ因ラスシテ寄付ヲナシ得ヘキコト
- 第五條 河川法第三十六條ニ依リ郡、市、町、村、町村組合又ハ水利組合ニ於テ補助ヲナストキ

ハ左ノ條件ヲ具備シ且府縣知事ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

- 一 河川ニ關スル事業ニシテ永遠ノ利益ヲ目的トシ且其ノ補助ヲ受クヘキ者ニ於テ其ノ費用ノ負擔ニ堪ヘサルコト
- 二 補助ヲナサントスル公共團體ニ於テ起債ノ方法ニ因ラスシテ補助ヲナシ得ヘキコト

●明治二十九年勅令第二百三十五號ニ依リ認可ヲ要セサルモノニ關スル件明治三十二年五月内務省令第十二號

明治二十九年勅令第二百三十五號第二條但書ニ依リ認可ヲ要セサルモノニ關スル件左ノ通之ヲ定ム

- 第一條 左ニ掲ケタル事項及其ノ變更、停止又ハ廢止ハ内務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要セス
  - 一 河川ノ附屬物ノ新築、改築又ハ除却工事ニシテ著シク河身ニ影響ヲ及ボササルモノノ施行並其ノ計畫及其ノ工費ノ豫算
  - 二 堤防ノ嵩置又ハ腹付ノ施行並其ノ計畫及其ノ工費ノ豫算
  - 三 河川法第十七條ニ掲ケタル工作物ニシテ一時ノ施設ニ係リ著シク河身ニ影響ヲ及ボササルモノノ新築、改築又ハ除却ノ許可
  - 四 河川ノ敷地又ハ流水ノ一時占用及一旦認可ヲ受ケタルモノノ繼續占用ノ許可
  - 五 河川法第三十九條ニ依ル障害物ノ除却ニシテ建築物以外ニ係ルモノ
- 第二條 堤防ニシテ其ノ對岸他府縣ニ屬スルモノ又ハ他府縣ノ管内ニ連續スルモノニ施行スル嵩置又ハ堤外ノ腹付ハ府縣知事ニ於テ土木監督署ニ協議ノ上處分スヘシ
- 第三條 第一條第一號乃至第三號及第四號繼續占用許可ノ場合ハ府縣知事ニ於テ處分ノ後直ニ土木監督署ヲ經由シ内務大臣ニ報告スヘシ

●河川法施行規程明治二十九年六月勅令第二百三十六號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ河川法施行規程ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム



河川法施行規程

第一條 内務大臣ニ於テ公共ノ利害ニ重大ノ關係アリト認定シタル河川ハ官報ヲ以テ之ヲ告示スヘシ

内務大臣ニ於テ河川法ノ全部若ハ一部ヲ施行スヘキ區域及時期ヲ定メタルトキ亦同シ

第二條 府縣知事ニ於テ河川ノ支川若ハ派川又ハ河川ノ附屬物ト認定シタルモノハ其ノ地方ノ公布式ニ依リ之ヲ告示スヘシ(三十二年勅令第二百八十六號ヲ以テ又ハ云々ノ八字ヲ加フ)

第三條 沿岸、沿堤及河川附近ノ土地ノ區域ハ府縣知事之ヲ定メ内務大臣ノ定ムル方法ニ依リ之ヲ告示スヘシ

第四條 河川法第八條ニ依リ内務大臣ニ於テ自ラ工事ヲ施行シ又ハ河川ニ關スル工事ニ因リ特ニ利益ヲ受クル公共團體ノ行政廳ニ命シテ工事ヲ施行セシムル場合ニ於テハ官報ヲ以テ其ノ工事ヲ施行スヘキ河川並ニ其ノ區域及起工年度ヲ告示スヘシ

前項ノ工事ヲ終了シタルトキハ官報ヲ以テ之ヲ告示スヘシ

第五條 河川法第六條但書ニ依リ内務大臣ニ於テ河川ノ管理又ハ維持修繕ヲナストキハ内務省直轄ノ土木事業ニ準シテ土木監督署長之ヲ行フ

第六條 河川法第三十八條ニ依リ府縣知事ニ於テ土石、砂礫、芝草、竹木及運搬具ノ供給ヲナサシメントスルトキハ少クとも五日前ニ其ノ供給セシムヘキ物件ノ種類、數量及補償金額等ヲ其ノ所有者ニ通知スヘシ

第七條 河川法第三十九條ニ依リ府縣知事ニ於テ堤外地、沿岸若ハ沿堤土地ニ立入り又ハ之ヲ材料置場等ニ供セントスルトキハ少クとも五日前ニ又之ニ現在スル建設物其ノ他ノ障害物ヲ除却セントスルトキハ少クとも十五日前ニ其ノ場所若ハ建設物等ヲ其ノ所有者ニ通知スヘシ

第八條 河川法施行前ニ確定シタル河川ニ關スル費用ノ豫算ハ河川法施行ノ爲其ノ効力ヲ失ハス前項豫算ニ依リ執行スヘキ事項ハ從前ノ規程又ハ慣習ニ依リ既ニ定リタル執行者ニ於テ之ヲ行フ

第九條 河川法施行前ニ私人ノ所有權ヲ認メタル河川ノ敷地ニシテ荒地ニアラサルモノハ從前ノ所有者若ハ其ノ相續人ノ請求ニ因リ府縣知事ハ公益ヲ妨ケサル限ニ於テ其ノ占用ヲ許可スヘシ

第十條 府縣知事ニ於テ從前ノ所有者若ハ其ノ相續人ニ前條ノ占用ヲ許可セサルトキ又ハ之ヲ禁止スルトキハ府縣ハ内務大臣ノ認可ヲ得テ相當ノ補償金ヲ下付スヘシ

公共ノ利益トナルヘキ事業ノ爲前項處分ノ必要ヲ生スルトキハ府縣知事ハ其ノ事業ノ許可ノ條件トシテ其ノ執行者ヲシテ補償金ノ全部若ハ一部ヲ負擔セシムルコトヲ妨ケス

河川ニ關スル工事ニ因リ下付ノ必要アル第一項ノ補償金ハ其ノ工事ノ豫算費用中ニ算入スヘシ  
第十一條 河川法若ハ之ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ノ許可ヲ受クヘキ事項ニシテ其ノ施行ノ際ニ現存スルモノハ河川法若ハ之ニ基キテ發スル命令ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト看做ス但其ノ施行ノ日ヨリ三箇月以内ニ府縣知事ニ於テ更ニ許可ヲ受クヘキコトヲ命シタルモノハ此ノ限ニアラス



河川法施行前許可ニ附シタル條件ハ河川法若ハ之ニ基キテ發スル命令ニ牴觸セサル程度ニ於テ効力ヲ有ス

第十二條 河川法施行前ニ許可シタル通航料ノ徵收ハ從前ノ規程ニ依ル但徵收ノ期限ヲキモノハ府縣知事ニ於テ河川法施行後三十箇年以内ノ期限ヲ定メテ之ヲ許可スヘシ

第十三條 內務大臣ハ河川法ニ規定シタル私人ノ義務ニ關シ其ノ發スル所ノ命令ニ二十五圓以内ノ罰金若ハ二十五日以下ノ禁錮ノ罰則ヲ附スルコトヲ得

府縣知事及警視總監ハ河川法ニ規定シタル私人ノ義務ニ關シ其ノ發スル所ノ命令ニ十圓以内ノ罰金若ハ拘留ノ罰則ヲ附スルコトヲ得

第十四條 河川法第四條、第五條、第十三條、第十五條、第十六條、第十九條、第四十五條及第四十六條第二項ニ依リテ發スル命令ハ府縣令ヲ以テスルコトヲ得但東京府ニ在テハ第十六條及第十九條中警察ニ係ル事項ハ警視廳令ヲ以テスルコトヲ得

●河川臺帳明治二十九年十月  
勅令第三百三十一號

朕河川臺帳ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 河川臺帳ハ帳簿及實測圖ヲ以テ組成ス

第二條 河川臺帳ニハ市町村毎ニ區別シテ左ノ事項ヲ記載スヘシ但河川ノ狀況ニ依リ內務大臣ハ其ノ記載事項ヲ省略セシムルコトヲ得

一 河川ノ敷地及堤外地ノ區域

二 河川ノ附屬物及河川ニ影響ヲ及ホスヘキ工作物ノ種類、數量、構造及位置形狀

三 河川ニ影響ヲ及ホスヘキ水流及水面ノ種類、數量及位置形狀

第三條 府縣知事ハ其ノ調製ニ係ル河川臺帳ニ付地元市參事會及町村長ノ意見ヲ徵シ且之ヲ其ノ市役所及町村役場ニ於テ七日以上ノ期限ヲ定メテ公衆ノ縦覽ニ供スヘシ但地元市町村ノ多數ナル場合ニ於テハ府縣知事ハ縦覽所ヲ指定シ其ノ所在市町村ニ鄰接スル市町村ニ限り併合縦覽セシムルコトヲ得(三十二年勅令第百六十  
七號ヲ以テ但書追加)

前項ノ場合ニ於テ利害關係者ハ縦覽期限經過後十五日以内ニ河川臺帳ニ對シ意見ヲ申立ルコトヲ得

第四條 府縣知事ハ河川臺帳ノ認可ヲ請フニ際シ前條意見書類ヲ內務大臣ニ提出スヘシ

第五條 府縣知事ハ河川臺帳ノ更正ヲナサントスルトキモ亦前二條ノ手續ヲ經テ內務大臣ノ認可ヲ請フヘシ

第六條 內務大臣ハ其ノ認可シタル河川臺帳ノ原本ヲ保管スヘシ

第七條 內務大臣ハ河川臺帳ノ原本ニ就テ正本ヲ調製シ府縣知事ヲシテ之ヲ保管セシムヘシ  
府縣知事ハ公衆ノ請求ニ依リ河川臺帳ノ正本ヲ縦覽ニ供スルノ方法ヲ設ケ其ノ地方ノ公布式ニ依リ之ヲ告示スヘシ其ノ更正ヲ爲シタルトキ亦同シ(三十二年勅令第百八  
十八號ヲ以テ本項改正)

第八條 府縣知事河川臺帳ノ認可ヲ得タルトキハ其ノ正本ニ就テ副本ヲ調製シ之ヲ所轄土木監督



署長ニ交付スヘシ其ノ更正ニ付認可ヲ得タルトキ亦同シ

第九條 府縣知事河川臺帳ノ認可ヲ得タルトキハ七日以内ニ其ノ旨ヲ地元市參事會及町村長ニ通知スヘシ其ノ更正ニ付認可ヲ得タルトキ亦同シ

第十條 市參事會及町村長前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ正本ニ就テ其ノ管内ニ係ル河川臺帳ノ副本ヲ調製シ又ハ更正スヘシ

市參事會及町村長ハ河川臺帳ノ副本ヲ調製シ又ハ更正シタルトキハ其ノ旨ヲ公告シ公衆ノ請求アリタルトキハ之ヲ其ノ縦覽ニ供スヘシ(三十二年勅令第二百八十八號ヲ以テ本項改正)

第十一條 土木監督署長、市參事會及町村長ハ各其ノ管内ニ係ル河川臺帳ノ副本ヲ保管スヘシ

第十二條 第十條ノ爲ニ要スル費用ハ當該市町村ノ負擔トス

●河川臺帳ニ關スル細則二十九年十二月 內務省令第十三號

河川臺帳ニ關スル細則左ノ通り定ム

河川臺帳ニ關スル細則

第一條 河川臺帳ニ記載スヘキ事項ハ凡ソ左ノ區域内ニ係ルモノトス

一 有堤部ニ於テハ堤外地及ヒ堤防附近

一 無堤部ニ於テハ凡ソ洪水位ノ達スル區域但汎溢スヘキ土地ニ於テハ相當ト認定シタル區域

第二條 河川臺帳ノ河川平面圖ハ縮尺千二百分ノ一トス

河川ノ附屬物其ノ他ノ工作物ノ圖面ハ其ノ構造ヲ明瞭ナラシムルニ足ルヘキ縮尺ヲ用ユヘシ

第三條 河川ノ平面圖ハ原本ニ屬スルモノ、外總テ眞北上トセル切圖トシ其ノ輪廓ハ縱一尺二寸横一尺八寸トス

前項平面圖ニハ一葉毎ニ全川ヲ通シタル番號ヲ附シ重要ナル地物ノ外左ノ件々ヲ記載スヘシ

- 一 磁北
- 一 梯尺
- 一 地名及境界
- 一 一流レノ方向

一 鄰接平面圖ノ番號

第四條 地方行政廳ハ河川ノ兩岸市町村ノ大字毎ニ少クトモ一箇所位置及高低ノ基標ヲ設置若クハ撰定シ之ヲ保存スヘシ

第五條 川敷並ニ堤敷ノ境界ハ總テ折線ヲ以テ區畫スヘシ

折線ノ交叉點ハ二箇ノ基標ヲ連結スル直線若クハ之ニ準據スル直線ニ基キ支距法ニ依リ之ヲ測定スヘシ

川敷ノ區域ハ青色實線、堤敷ノ區域ハ褐色實線、測標連結線ハ朱色實線、支距線ハ朱色點線ヲ以テ河川平面圖ニ記入スヘシ

第六條 堤防ハ凡ソ二町毎ニ横斷面ヲ測リ其ノ位置及ヒ番號若クハ符號ヲ河川平面圖ニ記載シ別ニ各横斷面圖ヲ調製シ一定基線上ノ高、馬路幅、敷幅等ヲ記入スヘシ

斷面ニ劇變アル場所ハ前項ノ制限ニ依ラス實測スヘシ

第七條 左ニ掲ケル河川ノ附屬物、其ノ他ノ工作物、水流及水面ハ其ノ位置形狀ヲ河川平面圖ニ載セ其ノ長、幅、高等構造ヲ明瞭ナラシムル事項ヲ河川臺帳ノ帳簿ニ記入シ且ソ必要アル場合ニハ明細圖ヲ添付スヘシ

各種ノ水制、護岸、堰堤

第一號書式ニ依ル

植管、閘門

第二號書式ニ依ル

乘船場、荷揚場

第三號書式ニ依ル

道路、鐵道

第四號書式ニ依ル

橋梁

第五號書式ニ依ル

水流

第六號書式ニ依ル

船渠、船溜

第七號書式ニ依ル

右ノ外河川ニ影響ヲ及ホスヘキ各種ノ工作物若クハ水面ノ記載法ハ本條ニ準ス

河川ノ附屬物ハ河川平面圖及帳簿ニ記載ヲ附シ他ノ工作物ト區分スヘシ(三十二年內務省令 第八號ヲ以テ追加)

第八條 基標若クハ之ニ準スル測標ハ其ノ位置、一定基線上ノ高、近接基標若クハ測標トノ角度、距離等ヲ第八號書式ニ依リ帳簿ニ記入シ河川平面圖ニ記載シ得ルモノハ之ヲ記載スヘシ



第九條 河川臺帳ノ帳簿ニ記載セル事項ノ内延長、箇所數等市町村毎ニ合計シ得ルモノハ府縣郡毎ノ合計ヲ調製スヘシ  
第十條 特別ノ理由アル場合ニ於テハ地方行政廳ハ内務大臣ノ認可ヲ得テ第二條乃至第八條ノ規定ナリ時省略若クハ變更スルコト  
ヲ得  
内務大臣ハ前項ノ認可ヲ爲シタルトキハ第三條ノ規定ヲ變更シテ正本ノ調製ヲ爲スコトヲ得(三十二年内務省令  
第八號ヲ以テ追加)

(書式略之)

●河川法第五條ニ依レル命令明治三十二年十月  
勅令第四百四號

朕河川法第五條ニ依レル命令ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 河川法ニ規定シタル事項ヲ準用スヘキ水流若クハ水面又ハ河川ハ内務大臣ノ認可ヲ經テ  
府縣知事之ヲ認定ス

府縣知事前項ノ認定ヲ爲シタルトキハ之ヲ告示スヘシ

第二條 前條ノ認定ヲ受ケタル水流若クハ水面又ハ河川ニハ河川法第三條(敷地ヲ除ク)第四條第二  
項第十二條、第十三條、第十六條乃至第二十三條、第三十四條、第三十八條乃至第四十三條、  
第四十五條乃至第四十七條、第四十九條第三項、第四項、第五十二條乃至第六十三條及之ニ基  
キテ發スル命令ノ規定ヲ準用ス

第三條 前條ニ掲ケタルモノノ外河川法ニ規定シタル事項ハ内務大臣又ハ府縣知事ニ於テ命令ヲ  
以テ第一條ノ認定ヲ受ケタル水流若クハ水面又ハ河川ニ準用スルコトヲ得但シ河川法第六條但書  
第八條、第二十四條第二項、第二十六條乃至第二十八條及第三十三條ノ規定ハ此ノ限ニ在ラス

府縣知事ニ於テ前項ニ依リ河川法ノ規定ヲ準用セントスルトキハ内務大臣ノ認可ヲ受クルコト  
ヲ要ス

●河川法第三十二條ノ費用補助方明治三十二年四月  
勅令第四百二十二號

朕河川法第三十二條第二項ノ費用補助ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 河川ニ關スル工事ニ因リテ必要ヲ生シタル他ノ工事ニ對シ河川ニ關スル費用ノ内ヨリ補  
助ヲ爲スニハ左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス

- 一 河川法第十七條ニ記載スル工作物ノ新築改築若クハ除却ナルコト
- 二 工事ノ必要ヲ生シタル程度ニ於ケル工費ニシテ其ノ管理者タル行政廳ノ直接ニ管轄スル公  
共團體又ハ管理者タル私人ノ資力ニ比シ大ナルコト

第二條 河川ニ關スル工事ニ因リテ必要ヲ生シタル他ノ工事ノ費用ニ對スル補助ハ其ノ工費ノ三  
分ノ二以内トス但シ他ノ工事ノ管理者ニシテ私人ナルトキ又ハ特別ノ事情アル場合ハ此ノ限ニ  
在ラス

第三條 此ノ勅令ノ規定ニ依リ國庫ヨリ工事ノ豫算費用ニ對シ補助シタル場合ニ於テハ工事費用  
精算ノ上豫算ヨリ減スルコトアルモ既ニ與ヘタル補助金ハ之ヲ還付セシメサルコトヲ得

第四條 河川ニ關スル工事ニ因リテ必要ヲ生シタル他ノ工事ニシテ其ノ管理者不明ナルトキハ河  
川ニ關スル費用ノ内ヨリ其ノ工費ノ全部ヲ支辨スルコトヲ得



第五條 府縣ニ於テ河川法第二十六條ニ依リ補助ヲ受ケタル場合ニ於テ此ノ勅令ノ規定ニ依リ補助又ハ支辨ヲ爲サントスルトキハ内務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス其ノ變更又ハ廢止ヲ爲サントスルトキ亦同シ

●河川法第三十二條第二項ノ費用補助手續明治三十二年五月  
内務省令第二十一號

河川ニ關スル工事ニ因リテ必要ヲ生シタル他ノ工事ノ費用ニ對スル補助ノ手續左ノ通之ヲ定ム

第一條 内務大臣ノ直接施行ニ係ル河川ニ關スル工事ニ因リテ必要ヲ生シタル他ノ工事ノ費用ニ對シ補助ヲ受ケントスルトキハ其ノ工事ノ管理者ニ於テ工事計畫書、工費豫算書及圖面ヲ添ヘ府縣知事ヲ經由シ内務大臣ニ申請スヘシ但工事ノ管理者ニシテ行政廳ナルトキハ其ノ行政廳ノ直接ニ管轄スル公共團體ノ議會ノ議決書ヲ添付スルコトヲ要ス

第二條 府縣知事ニ於テ前條補助ノ申請ヲ受ケタルトキ又ハ明治三十二年勅令第三百二十二號第五條ニ依リ内務大臣ノ認可ヲ受ケントスルトキハ補助申請者ノ行政廳ナル場合ニ於テハ其ノ行政廳ノ直接ニ管轄スル公共團體ノ地租年額及戸數ヲ調査シ私人ナル場合ニ於テハ其ノ資力ヲ調査シ尙ホ工事ノ計畫及工費ノ豫算ヲ審査シ之ニ對スル意見ヲ付シ土木監督署ニ送付スヘシ

●河川法第四十四條ニ依リ河川敷地ノ公用ヲ廢シタル土地ノ處分方明治三十二年九月  
勅令第三百九十一號

河川法第四十四條ニ依リ河川敷地ノ公用ヲ廢シタル土地ノ處分ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 本令ニ於テ廢川敷地ト稱スルハ河川敷地ノ公用ヲ廢シタルモノヲ謂フ

第二條 廢川敷地ハ府縣知事之ヲ告示スヘシ

第三條 廢川敷地ノ處分ハ府縣知事之ヲ行フ

第四條 廢川敷地ニシテ御料地又ハ國有地ト爲スノ必要アルモノハ之ヲ御料地又ハ國有地ニ編入スヘシ

第五條 府縣以外ノ公共團體又ハ私人ニ於テ河川ニ關スル工事ヲ爲シタルニ因リ生シタル廢川敷地ハ之ヲ其ノ公共團體又ハ私人若ハ其ノ相續人ニ下付スルコトヲ得

第六條 府縣以外ノ公共團體ニ於テ維持又ハ修繕ノ費用ヲ負擔シタル河川ノ廢川敷地ハ之ヲ其ノ公共團體ニ下付スルコトヲ得

第七條 河流ノ變更ニ因リ生シタル廢川敷地ハ之ヲ其ノ沿岸若ハ沿堤ノ土地所有者又ハ河川ノ區域ヲ其ノ所有地ニ移サレタル公共團體又ハ私人若ハ其ノ相續人ニ下付スルコトヲ得

第八條 廢川敷地ニシテ公共團體又ハ私人ノ寄付ニ係ルモノハ之ヲ其ノ公共團體又ハ私人若ハ其ノ相續人ニ下付スルコトヲ得

第九條 河川ニ關スル工事ノ爲土地ヲ寄付シタル公共團體又ハ私人アルトキハ其ノ工事ニ因リ生シタル廢川敷地ヲ其ノ公共團體又ハ私人若ハ其ノ相續人ニ下付スルコトヲ得

第十條 河川ニ關スル工事ノ爲土地ヲ賣渡シ又ハ收用セラレタル公共團體又ハ私人アルトキハ其ノ工事ニ因リ生シタル廢川敷地ヲ其ノ公共團體又ハ私人若ハ其ノ相續人ニ有償ニテ下付スルコトヲ得

第十一條 廢川敷地ニシテ御料地又ハ國有地ト爲スノ必要アルトキハ宮内大臣又ハ主務大臣ハ第二條告示ノ日ヨリ三箇月以内ニ内務大臣ニ通知シ内務大臣ハ府縣知事ヲシテ之ヲ編入セシムヘシ



河川法第四十四條但書又ハ本令ニ依リ廢川敷地ノ下付ヲ受ケントスル者ハ前項ノ期限内ニ府縣知事ニ申請スヘシ

第十二條 府縣知事ニ於テ第五條乃至第十條ニ依リ受ケタル申請ニ對シテハ内務大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ處分スヘシ

第十三條 廢川敷地ニシテ編入又ハ下付ヲ爲ササルモノ及廢川敷地ノ償金ハ府縣ニ歸屬ス

第十四條 廢川敷地ニシテ現ニ他ノ公用ニ供スルモノハ内務大臣ノ認可ヲ經テ第四條乃至第十條及第十三條ノ規定ニ拘ハラヌ其ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第十五條 廢川敷地ヲ取得シタル者ハ公用ヲ廢シタル日ヨリ其ノ土地ノ所有權ヲ取得ス

●河川法第四十七條ニ依レル命令明治三十三年七月 勅令第三百號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ河川法第四十七條ニ依レル命令ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 河川附近ノ土地ノ形狀又ハ家屋其ノ他ノ工作物ニシテ河川ニ害ヲ及ホシ又ハ及ホス虞アルトキハ府縣知事ハ其ノ土地ノ形狀ヲ變更シ又ハ家屋其ノ他ノ工作物ヲ改築若ハ除却シ又ハ其ノ所有者ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

第二條 河川附近ノ土地ニ在ル土砂、竹木等ニシテ河川ニ害ヲ及ホシ又ハ及ホス虞アルトキハ府縣知事ハ其ノ所有者ヲシテ之ヲ除却セシムルコトヲ得

第三條 河川ニ關シ必要アルトキハ府縣知事ハ河川附近ノ土地ニ立入り又ハ之ニ標柱等ヲ設置ス

ルコトヲ得

第四條 左ニ掲ケタル行爲ヲ爲サムトスル者ハ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

一 河川附近ノ土地ニ於ケル家屋以外ノ工作物ノ新築、改築又ハ除却

二 河川附近ノ土地ノ掘鑿其ノ他土地ノ形狀ノ變更

三 堤外地ニ於ケル家屋ノ新築、改築若ハ除却又ハ竹木ノ栽植若ハ伐採

第五條 沿岸土地ノ所有者ハ其ノ土地ヲ曳船道ニ供スヘシ

前項制限ノ範圍ハ各曳船道ニ付府縣知事之ヲ定ム

第六條 沿堤土地ノ所有者ハ堤防ヨリ雨水ノ自然ニ流レ來ルヲ妨ケ又ハ其ノ土地ノ水ヲ堤防ニ注流セシムル設備ヲ爲スコトヲ得ス

第七條 第一條、第二條、第三條又ハ第五條ノ場合ニ於テ損害ヲ受ケタル者アルトキハ府縣ハ相當ノ補償金ヲ下付スヘシ

第八條 府縣知事ニ於テ第一條ニ依リ土地ノ形狀ヲ變更シ又ハ家屋其ノ他ノ工作物ヲ改築若ハ除却セムトスルトキハ少クトモ十五日日前ニ、第三條ニ依リ土地ニ立入り又ハ標柱等ヲ設置セムトスルトキハ少クトモ五日日前ニ其ノ所有者及占有者ニ之ヲ通知スヘシ

第九條 左ニ掲ケタル事項及其ノ變更又ハ廢止ハ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

一 第一條ニ依ル處分

二 第四條ニ掲ケタル行爲ニシテ重大ナルモノノ許可



第十條 第四條又ハ第六條ノ規定ニ違背シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ三箇月以下ノ重禁錮ニ處ス

●河川法第四十八條ニ依レル命令明治三十年十月  
勅令第三百七十七號

朕河川法第四十八條ニ依レル命令ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 此ノ勅令ニ於テ河川トナルヘキ區域ト稱スルハ河川ニ關スル工事ニ因リ新ニ河川トナルヘキ區域ヲ謂フ

第二條 河川トナルヘキ區域並ニ其ノ附近ノ土地ノ區域ハ府縣知事ニ於テ内務大臣ノ定ムル方法ニ依リ之ヲ告示スヘシ

第三條 河川トナルヘキ區域ニ於テ其ノ土地ニ固著シテ施設スル工作物又ハ之ニ沿ヒ若ハ之ヲ横過シ若ハ其ノ地下ニ於テ施設スル工作物ヲ新築、改築若ハ除却セムトスル者ハ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第四條 工事、營業其ノ他ノ行爲ニシテ河川トナルヘキ區域ノ現狀若ハ新ニ生スヘキ河川ニ影響ヲ及ホスノ虞アルモノハ府縣知事ニ於テ命令ヲ以テ之ヲ禁止若ハ制限シ又ハ許可ヲ受ケシムルコトヲ得

第五條 此ノ勅令ニ依リ許可シタル事項ニ關シテハ府縣知事ハ左ノ場合ニ於テ許可ヲ取消シ若ハ其ノ効力ヲ停止シ若ハ其ノ條件ヲ變更シ又ハ既ニ施設シタル工作物ヲ改築若ハ除却セシメ又ハ原形ノ回復ヲ命シ又ハ許可セラレタル事項ニ因リテ生スル危害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ヲ

ナサシムルコトヲ得

一 工事施行ノ方法若ハ施行後ニ於ケル管理ノ方法公安ヲ害スルノ虞アルトキ

二 許可ノ後ニ起リタル事實ニ因リ必要ヲ生スルトキ

三 河川ニ關スル工事ヲ施行シ又ハ許可ヲ與ヘタルモノノ外ニ工事ヲ許可スル爲ニ必要ナルトキ

四 河川法ニ基キテ發スル命令ノ規程ニ依リ必要ヲ生スルトキ

五 法律命令ニ違背シタルトキ

六 公益ノ爲ニ必要ナルトキ

第六條 此ノ勅令ニ依リ與ヘタル許可ニ關シテハ河川法第二十一條ヲ準用ス

第七條 河川ニ關スル工事ノ爲ニ必要ナルトキハ府縣知事ハ河川トナルヘキ區域ニ立入り又ハ其ノ土地ヲ材料置場等ニ供シ又ハ已ムヲ得サルトキハ其ノ土地ニ現在スル建設物其ノ他ノ障害物ヲ除却スルコトヲ得

河川トナルヘキ區域ニ沿ヒタル土地ニ關シテハ其ノ地先ニ施行スヘキ工事ノ爲ニ必要ナル場合ニ限リ前項ヲ適用スルコトヲ得

前二項ノ場合ニ關シテハ河川法第三十九條第三項及第六十二條ヲ準用ス

第八條 前條第一項及第二項ノ場合ニ於テハ明治二十九年勅令第二百三十六號第七條ヲ準用ス

第九條 河川法第四十五條及第四十七條ニ基キ河川附近ノ土地ニ關シ發スル命令ニ規定シタル事



項ハ府縣知事ニ於テ府縣令ヲ以テ河川トナルヘキ區域附近ノ土地ニ之ヲ準用スルコトヲ得

第十條 河川法第八條ニ依リ内務大臣ニ於テ自ラ工事ヲ施行シ又ハ公共團體ノ行政廳ニ命シテ工事ヲ施行セシムル場合ニ於テハ内務大臣ハ此ノ勅令ニ依リテ府縣知事ノ有スル職權ヲ自ラ施行スルコトヲ得

第十一條 左ノ場合ニ於テ府縣知事ハ此ノ勅令ニ依リ有スル職權ノ施行ニ關シ内務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

- 一 第七條ニ依リ建設物其ノ他ノ障害物ヲ除却セントスルトキ
- 二 河川法第八條ニ依リ内務大臣ニ於テ自ラ工事ヲ施行シ又ハ公共團體ノ行政廳ニ命シテ工事ヲ施行セシムルトキ

●河川法第四十六條等ニ依レル告示方明治三十二年五月 內務省令第十三號

河川法第四十六條同施行規程第三條及明治三十年勅令第三百七十七號第二條ニ依レル告示ノ方法左ノ通之ヲ定ム

第一條 府縣知事ニ於テ土砂打止ノ爲ニ要スル土地、沿岸、沿堤若ハ河川附近ノ土地又ハ新ニ河川トナルヘキ區域若ハ其ノ附近ノ土地ノ區域ヲ定メ之ヲ告示スルトキハ其ノ地方ノ公布式ニ依ルヘシ

前項ノ場合ニ於テハ土木監督署ヲ經由シ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二條 前條ノ告示ニハ左ニ掲ケタルモノノ一又ハ一以上ニ依リ土地ノ區域ヲ明記スヘシ

- 一 市町村、大字、字又ハ小字
- 二 地番地目
- 三 一定ノ地物又ハ之ヲ去ル距離及方向
- 四 圖面

第三條 內務大臣ニ於テ第一條ノ土地又ハ區域ヲ定メタルトキハ前條ニ準シ官報ヲ以テ之ヲ告示ス

●河川法第五十八條ニ依ル罰則明治三十三年四月 勅令第四百四十八號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ河川法第五十八條ニ依レル罰則ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 許可ヲ受ケスシテ河川法第十七條ニ記載スル工事ヲ施行シ又ハ詐僞ノ手段ヲ以テ其ノ許可ヲ受ケタル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ一年以下ノ重禁錮ニ處ス

第二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ三箇月以下ノ重禁錮ニ處ス

- 一 許可ヲ受ケスシテ河川ノ敷地若ハ流水ヲ占用シ又ハ詐僞ノ手段ヲ以テ其ノ許可ヲ受ケタル者
- 二 河川法第二十三條ノ場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ地方行政廳又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏ノ命ニ從ハサル者
- 三 許可ヲ受ケスシテ舟筏ヨリ通航料ヲ徵收シ又ハ詐僞ノ手段ヲ以テ其ノ許可ヲ受ケタル者

●砂防法明治三十年三月 法律第二十九號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル砂防法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

砂防法

第一章 總則



第二章 土地ノ制限及砂防設備

第三章 砂防ニ關スル費用ノ負擔、土地所有者ノ權利義務並收入等

第四章 警察、監督及強制手續

第五章 訴願及訴訟

第六章 附則

砂防法

第一章 總則

第一條 此ノ法律ニ於テ砂防設備ト稱スルハ主務大臣ノ指定シタル土地ニ於テ治水上砂防ノ爲施設スルモノヲ謂ヒ砂防工事ト稱スルハ砂防設備ノ爲ニ施行スル作業ヲ謂フ

第二條 砂防設備ヲ要スル土地又ハ此ノ法律ニ依リ治水上砂防ノ爲一定ノ行爲ヲ禁止若ハ制限スヘキ土地ハ主務大臣之ヲ指定ス

第三條 此ノ法律ニ規定シタル事項ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ主務大臣ノ指定シタル土地ノ範圍外ニ於テ治水上砂防ノ爲施設スルモノニ準用スルコトヲ得

第二章 土地ノ制限及砂防設備

第四條 第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ニ於テハ地方行政廳ハ治水上砂防ノ爲一定ノ行爲ヲ禁止若ハ制限スルコトヲ得

前項ノ禁止若ハ制限ニシテ他府縣ノ利益ヲ保全スル爲必要ナルカ又ハ其ノ利害關係一府縣ニ止マラ

サルトキハ主務大臣ハ前項ノ職權ヲ施行スルコトヲ得

第五條 地方行政廳ハ其ノ管内ニ於テ第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ヲ監視シ及其ノ管内ニ於ケル砂防設備ヲ管理シ其ノ工事ヲ施行シ其ノ維持ヲナスノ義務アルモノトス

第六條 砂防設備ニシテ他府縣ノ利益ヲ保全スル爲必要ナルカ又ハ其ノ利害關係一府縣ニ止マラサル場合ニ於テハ主務大臣ハ之ヲ管理シ又ハ其ノ工事ヲ施行シ又ハ其維持ヲナスコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ主務大臣ハ其ノ砂防設備ニ因リ特ニ利益ヲ受クル公共團體ノ行政廳ニ命シテ其ノ工事ヲ施行セシメ又ハ其ノ維持ヲナサシムルコトヲ得

第七條 地方行政廳ハ其ノ管内ノ下級行政廳ヲシテ砂防工事ヲ施行セシメ又ハ砂防設備ノ維持ヲナサシムルコトヲ得

第八條 他ノ工事、作業其ノ他ノ行爲ニ因リ砂防工事ヲ施行スルノ必要ヲ生スルトキハ地方行政廳ハ其ノ行爲ヲナシタル者ヲシテ其ノ工事ヲ施行シ又ハ其ノ砂防設備ノ維持ヲナサシムルコトヲ得

第九條 行政廳ハ砂防工事ノ請負ヲナスコトヲ得

第十條 砂防工事ノ請負ノ制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十一條 第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ニ對シテハ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ地租其ノ他ノ公課ヲ減免スルコトヲ得



第十二條 第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ノ監視及砂防設備ノ管理、維持並砂防工事ニ要スル費用ハ府縣ノ負擔トス

第十三條 砂防工事ニ要スル費用ハ其ノ一部ヲ國庫ヨリ府縣ニ補助スルコトヲ得  
前項國庫ノ補助額ハ工費豫算ノ三分ノ二ヲ超過スルコトヲ得ス

本條ノ補助金ハ精算ノ上其ノ費用ノ三分ノ二ヲ超過スルコトアルモ其ノ超過額ヲ還付セシメサルコトヲ得

災害ニ因リ必要ヲ生シタル砂防工事ニ要スル費用ハ本條ニ依ルノ限ニ在ラス

第十四條 第六條ニ依リ主務大臣ニ於テ砂防設備ノ管理及維持ヲナシ又ハ砂防工事ヲ施行スル場合ニ於テハ其ノ費用ハ國庫ノ負擔トス

前項ノ場合ニ於テハ主務大臣ハ府縣ヲシテ前項費用ノ三分ノ一以內ヲ負擔セシムルコトヲ得  
前項ニ依リ府縣ノ負擔スヘキ金額並其ノ年度割及納付期限等ハ主務大臣之ヲ定ム

第十五條 地方行政廳ハ其ノ管内ノ下級公共團體ヲシテ砂防ニ關スル費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第十六條 砂防工事ニシテ他ノ工事、作業其ノ他ノ行爲ニ因リ必要ヲ生スルモノナルトキハ其ノ費用ハ工事ノ必要ヲ生スル程度ニ於テ其ノ原因タル工事、作業其ノ他ノ行爲ニ關シ費用ヲ負擔スル者ヲシテ之ヲ負擔セシムルコトヲ得但シ河川法第三十二條第二項ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十七條 砂防工事ニシテ他ノ府縣若ハ他府縣内ノ公共團體ニ於テ著シク利益ヲ受クルモノナルトキ

ハ其ノ府縣若ハ其ノ府縣内ノ公共團體ヲシテ其ノ費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第十八條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ノ命シタル事項ヲ遵守スル爲ニ要スル費用ハ特別ノ規程ヲ設ケタル場合ヲ除クノ外其ノ命ヲ受ケタル者ノ負擔トス主務大臣若ハ地方行政廳ニ於テ義務者ノ履行スヘキ義務ヲ自ラ執行シ又ハ第三者ヲシテ執行セシメタルカ爲ニ要シタル費用ハ其ノ義務者ヨリ之ヲ追徴スルコトヲ得

第十九條 公共團體ハ砂防工事若ハ砂防ニ關スル費用ノ爲寄付ヲナスコトヲ得

第二十條 公共團體ハ砂防ニ關スル費用ニ付キ私人若ハ其ノ區域内ノ下級公共團體ニ補助ヲナスコトヲ得

第二十一條 公共團體ハ砂防ニ關スル費用ニ付キ利害關係ノ厚薄ヲ標準トシテ其ノ區域内ニ於テ不均一ノ賦課ヲナスコトヲ得

第二十二條 砂防工事ノ爲必要ナルトキハ地方行政廳ハ管内ノ土地若ハ森林ノ所有者ニ命シ補償金トシテ時價相當ノ金額ヲ下付シテ其ノ所有ニ係ル土石、砂礫、芝草、竹木及運搬具ヲ供給セシムルコトヲ得但シ時價ニ關シテ協議整ハサルトキ又ハ所有者不明ナルトキ若ハ其ノ所在不明ナルトキハ地方行政廳ハ相當ト認ムル金額ヲ供託シテ本條ノ供給ヲナシムルコトヲ得

第二十三條 砂防ノ爲必要ナルトキハ行政廳ハ第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地又ハ之ニ鄰接スル土地ニ立入り又ハ其ノ土地ヲ材料置場等ニ供シ又ハ已ムヲ得サルトキハ其ノ土地ニ現在スル障害物ヲ除却スルコトヲ得



前項ノ適用ニ依リ損害ヲ受ケタル者ハ使用若ハ除却ノ後三箇月以内ニ補償金ヲ請求スルコトヲ得

第二十四條 第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ノ所有者若ハ關係人ハ行政廳若ハ其ノ命ヲ受ケタル私人ニ於テ其ノ土地ニ砂防工事ヲ施行シ又ハ砂防設備ノ維持ヲナスコトヲ拒ムコトヲ得ス

第二十五條 法律、命令若ハ許可認可ノ條件ニ違背シタル工事、設備若ハ工作物ノ管理ニ因リ損害ヲ受ケシメタル者ハ其ノ損害ヲ賠償スヘシ

第二十六條 此ノ法律ニ依リ行政廳ニ於テ下付スヘキ補償金若ハ賠償金ハ其ノ行政廳ノ直接ニ管轄スル公共團體ノ負擔トス

第二十七條 砂防設備ヨリ生スル收入ハ府縣ニ歸ス但シ地方行政廳ハ其ノ收入ヲ第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地若ハ其ノ土地ニ在ル森林ノ所有者又ハ其ノ砂防設備ノ施設者ニ下付スルコトヲ得

第二十八條 砂防設備ニシテ其ノ公用ヲ廢シタルトキハ地方行政廳ハ之ヲ其ノ砂防設備ノ現在スル土地若ハ森林ノ所有者ニ下付スルコトヲ得

第四章 警察、監督及強制手續

第二十九條 第四條ニ依リ主務大臣若ハ地方行政廳ニ於テ一定ノ事項ニ對シ許可ヲ受ケシメタル場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ主務大臣若ハ地方行政廳ハ其ノ許可ヲ取消シ若ハ其ノ效力ヲ停止シ若ハ其ノ條件ヲ變更シ又ハ設備ノ變更若ハ原形ノ回復ヲ命シ又ハ許可セラレタル事項ニ因リ生スル害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ヲ命スルコトヲ得

第三十條 法律、命令若ハ許可ノ條件ニ違背シタル者ハ行政廳ノ命スル所ニ從ヒ其ノ違背ニ因リテ生スル事實ヲ更正シ且其ノ違背ニ因リテ生スヘキ損害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ヲナスヘシ

第三十一條 地方行政廳ハ第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地監視ノ爲並砂防設備管理ノ爲吏員ヲ置クヘシ其ノ定員、給料、手當、職務權限並其ノ費用ノ負擔者等ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十二條 主務大臣ハ砂防ニ關スル行政ヲ監督ス  
地方行政廳ヲシテ第一次ニ於テ監督セシムヘキ事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム  
此ノ法律ニ規定シタル事項ニシテ主務大臣若ハ地方行政廳ノ認可ヲ要スルモノハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條及第二十條ニ規定シタル事項並此ノ法律ニ依リ行政廳ニ付與シタル職權ニ關シテハ命令ヲ以テ制限ヲ設クルコトヲ得

第三十三條 他ノ府縣若ハ他府縣内ノ公共團體若ハ私人ヲシテ費用ヲ負擔セシムル爲ニ必要ナル手續ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十四條 主務大臣ハ地方行政廳ニ命シテ砂防工事ヲ施行セシメ其ノ他此ノ法律ニ規定シタル地方行政廳ノ職權ヲ施行セシムルコトヲ得

第三十五條 義務者ニ於テ此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依ル義務ヲ履行セス若ハ之ヲ履行スルモ必要ノ期限内ニ終了スルノ見込ナキトキ又ハ其ノ履行ノ方法宜ヲ得サルトキハ主務大臣若ハ地方行政廳ハ自ラ之ヲ執行シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ執行セシムルコトヲ得



第三十六條 私人ニ於テ此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依ル義務ヲ怠ルトキハ主務大臣若ハ地方行政廳ハ一定ノ期限ヲ示シ若シ期限内ニ履行セサルトキ若ハ之ヲ履行スルモ不充分ナルトキハ五百圓以内ニ於テ指定シタル過料ニ處スルコトヲ豫告シテ其ノ履行ヲ命スルコトヲ得

第三十七條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シ保證金ヲ納付セシメタル場合ニ於テハ行政廳ニ於テ直ニ之ヲ其ノ納付ノ目的又ハ過料ニ充用スルコトヲ得  
前項保證金ハ他ノ債權ノ爲ニ差押フルコトヲ得ス

第三十八條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ私人ニ於テ負擔スヘキ費用及過料ハ此ノ法律ニ於テ特ニ民事訴訟ヲ許シタル場合ヲ除クノ外行政廳ニ於テ國稅ノ滯納處分ニ關スル規程ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得

前項ノ費用及過料ニ付キ行政廳ハ國稅ニ次キ先取特權ヲ有スルモノトス  
此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ公共團體ニ於テ負擔スヘキ費用ニ關シテハ此ノ法律ニ於テ特ニ民事訴訟ヲ許シタル場合ヲ除クノ外主務大臣若ハ地方行政廳ハ必要ナル場合ニ於テハ金額ヲ定メテ之ヲ其ノ豫算表ニ掲ケ其ノ他必要ナル處分ヲ指揮シ直ニ其ノ金額ヲ支出セシムルコトヲ得

第三十九條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ニ付與シタル職權ハ行政處分ニ依リ之ヲ強制スルコトヲ得  
行政廳ノ許可若ハ認可ニ附シタル條件ニ關シテモ亦本條及前條ヲ準用ス

第四十條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シテハ砂防視察ノ職務ヲ有スル官吏ヲシテ命令ノ定ムル所ニ從ヒ警察官ノ職權ノ全部若ハ一部ヲ執行セシムルコトヲ得  
第四十一條 此ノ法律ニ規定シタル私人ノ義務ニ關シテハ命令ヲ以テ二百圓以内ノ罰金若ハ一年以下ノ禁錮ノ罰則ヲ設クルコトヲ得

第五章 訴願及訴訟

第四十二條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ主務大臣若ハ地方行政廳ノナシタル處分ニ對シテ不服アル私人若ハ公共團體ハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得

此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令若ハ地方行政廳ノ委任ニ依リ下級行政廳ノナシタル處分ニ對シテ不服アル私人若ハ公共團體ハ地方行政廳ニ訴願シ地方行政廳ノ裁決ニ不服アル者ハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得

此ノ法律ニ依リ行政訴訟ノ提起ヲ許シタル場合ニ於テハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス  
第四十三條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シ行政廳ノ違法處分ニ依リ權利ヲ毀損セラレタリトスル私人若ハ公共團體ハ前條ニ依リ訴願ノ裁決ヲ經タル後行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ主務大臣若ハ地方行政廳ノ處分ニ對シテハ直ニ之ヲ提起スルコトヲ得

第四十四條 第二十五條ニ依リ損害賠償ヲ請求スル私人若ハ公共團體ハ損害ヲ受ケタル日ヨリ三箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得  
法律、命令若ハ許可認可ノ條件ニ違背シタルヤ否ヤニ付キ爭アルトキハ前數條ノ手續又ハ監督官廳



ノ決定ニ依リ其ノ違背シタリトノ事實確定シタル後ニアラサレハ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス但シ此ノ場合ニ於テハ前項ノ期間ハ確定ノ日ヨリ起算スルモノトス

第四十五條 第二十二條若ハ第二十三條ニ依リ下付スヘキ補償金額ニ對シ不服アルトキハ行政廳ニ於テ金額ノ通知ヲナシタル日ヨリ六箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ第二十三條ノ場合ニ於テ補償金請求ノ後六箇月以内ニ其ノ金額ノ通知ナキトキハ其ノ期限經過後六箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第四十六條 此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ關シテハ本章ノ規程ニ依リ特ニ許シタル場合ヲ除クノ外訴願若ハ行政訴訟ヲ提起シ又ハ行政廳ニ對シ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

第六章 附 則

第四十七條 此ノ法律ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

此ノ法律ヲ施行スル爲ニ必要ナル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム  
第四十八條 第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ニ在ル從來ノ砂防ニ關シテハ勅令ヲ以テ特別ノ規程ヲ設クル場合ヲ除クノ外此ノ法律ノ規程ニ依ル

●砂防法第三十三條ニ依レル命令三十二年七月  
內務省令第三十九號

砂防法第三十三條ニ依レル命令左ノ通之ヲ定ム

第一條 府縣知事ニ於テ他ノ府縣又ハ他ノ府縣内ノ公共團體若ハ私人ヲシテ砂防ニ關スル費用ヲ負擔セシメントスルトキハ其ノ負擔者方府縣又ハ公共團體ナル場合ニ於テハ其ノ府縣知事ニ協議ノ上負擔金額及納付期限ヲ定メ私人ナル場合ニ於テハ府縣知事自ラ之ヲ定ムヘシ

第二條 前條ニ依リ負擔金額及納付期限定マリタルトキハ府縣知事ニ於テ土木監督署ヲ經由シテ內務大臣ノ認可ヲ受クヘシ  
第三條 第一條ノ協議調ハサルトキハ府縣知事ニ於テ土木監督署ヲ經由シテ內務大臣ノ指揮ヲ受クヘシ  
第四條 府縣知事ハ他ノ府縣又ハ他ノ府縣内ノ公共團體若ハ私人ヲシテ負擔セシムヘキ金額及納付セシムヘキ期限確定シタルトキハ之ヲ其ノ府縣知事ニ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタル府縣知事ハ其ノ府縣内ノ公共團體若ハ私人ヲシテ負擔セシムヘキ金額アル場合ニ於テハ更ニ其ノ金額及納付期限ヲ其ノ公共團體ヲ直接ニ管轄スル行政廳又ハ私人ニ通知スヘシ

第五條 他ノ府縣ニ於テ期限内ニ其ノ負擔金額ヲ納付セサルトキハ府縣知事ハ內務大臣ニ其ノ旨ヲ具申スヘシ  
他ノ府縣内ノ公共團體又ハ私人ニ於テ其ノ負擔金額ヲ期限内ニ納付セサルトキハ府縣知事ハ其ノ公共團體又ハ私人ヲ管轄スル府縣知事ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタル府縣知事ハ砂防法第三十八條ニ依リ直ニ其ノ處分ヲ爲スヘシ  
第六條 內務大臣ニ於テ自ラ砂防設備ノ管理ヲ爲シ又ハ其ノ工事ヲ施行シ又ハ其ノ維持ヲ爲ス場合ニ於テハ他ノ府縣又ハ他ノ府縣内ノ公共團體若ハ私人ヲシテ負擔セシムヘキ金額及納付セシムヘキ期限ハ內務大臣之ヲ定ム

●砂防法施行規程明治三十年十月  
勅令第三百八十二號

朕砂防法施行規程ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

砂防法施行規程

第一條 內務大臣ニ於テ砂防法第二條ニ依リ指定スル土地ハ官報ヲ以テ之ヲ告示スヘシ

第二條 砂防法第三條ニ依リ同法ニ規定シタル事項ヲ準用スヘキ施設物ハ府縣知事ニ於テ其ノ地



方ノ公布式ヲ以テ之ヲ告示スヘシ其ノ準用スヘキ事項ハ府縣令ヲ以テ之ヲ定ム但シ同法第十三條及第十四條ニ規定シタル事項ハ之ヲ準用スルコトヲ得ス

第三條 砂防法第四條ニ依リ禁止若ハ制限スヘキ行爲ハ同條第一項ノ場合ニ於テハ府縣令ヲ以テ第二項ノ場合ニ於テハ内務省令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 砂防法第六條第一項ニ依リ内務大臣ニ於テ砂防設備ヲ管理シ又ハ其ノ維持ヲナス場合ニ於テハ其ノ砂防設備ヲ、其ノ工事ヲ施行スル場合ニ於テハ其ノ砂防設備工事ノ施行區域及起工年度ヲ官報ヲ以テ告示スヘシ

前項ノ工事ヲ終了シタルトキハ官報ヲ以テ之ヲ告示スヘシ  
砂防法第六條第二項ニ依リ内務大臣ニ於テ砂防設備ニ依リ特ニ利益ヲ受クル公共團體ノ行政廳ニ命シテ其ノ工事ヲ施行セシメ又ハ其ノ維持ヲナサシムル場合ニ於テモ亦前二項ノ例ニ依ル  
第五條 内務大臣ニ於テ砂防設備ノ管理又ハ其ノ維持ヲナストキハ内務省直轄ノ土木事業ニ準シテ土木監督署長之ヲ行フ

第六條 砂防法第二十二條ニ依リ府縣知事ニ於テ土石、砂礫、芝草、竹木及運搬具ノ供給ヲナサシメムトスルトキハ少クトモ五日前ニ其ノ供給セシムヘキ物件ノ種類、數量及補償金額等ヲ其ノ所有者ニ通知スヘシ若シ其ノ所有者不明ナルトキ又ハ其ノ所在不明ナルトキハ物件所在地ノ市町村長ニ通知スヘシ

第七條 砂防法第二十三條ニ依リ府縣知事、郡長、市參事會、町村長町村組合長又ハ水利組合ノ

管理者ニ於テ内務大臣ノ指定シタル土地又ハ之ニ鄰接スル土地ヲ材料置場等ニ供セムトスルトキハ少クトモ五日前ニ又之ニ現在スル障害物ヲ除却セムトスルトキハ少クトモ十五日前ニ其ノ場所若ハ障害物ヲ其ノ所有者ニ通知スヘシ若シ其ノ所有者不明ナルトキ又ハ其ノ所在不明ナルトキハ其ノ土地ノ市町村長ニ通知スヘシ

第八條 行政廳若ハ其ノ命ヲ受ケタル私人ニ於テ砂防工事ヲ施行セムトスルトキハ少クトモ七日前ニ之ヲ其ノ土地所有者ニ通知スヘシ若シ其ノ所有者不明ナルトキ又ハ其ノ所在不明ナルトキハ其ノ土地ノ市町村長ニ通知スヘシ

第九條 砂防ニ關スル費用ノ豫算ニシテ砂防法第二條ニ依ル土地ノ指定前ニ確定シタルモノハ其ノ指定ノ爲其ノ效力ヲ失ハス  
前項豫算ニ依リ執行スヘキ事項ハ從前ノ規程又ハ慣習ニ依リ既ニ定リタル執行者ニ於テ之ヲ行フ

第十條 砂防法ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政廳ノ許可ヲ受クヘキ事項ハ從來許可ヲ受ケタルモノト雖内務大臣又ハ府縣知事ノ定ムル所ノ期限内ニ於テ更ニ其ノ許可ヲ受クヘシ

●砂防ニ關スル行政監督明治三十一年一月 勅令第十五號  
朕砂防ニ關スル行政監督ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
第一條 砂防法若ハ之ニ基キテ發スル命令ニ依リ郡、市、町、村、町村組合又ハ水利組合ノ行政



應ニ於テ執行スル砂防ニ關スル行政及府縣知事ノ命シ又ハ許可シタル事項ニ關シテハ第一次ニ於テ府縣知事之ヲ監督シ第二次ニ於テ内務大臣之ヲ監督ス

第二條 左ニ掲クル事項及其ノ變更、停止又ハ廢止ハ内務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス但利害關係小ニシテ内務大臣ニ於テ命令ヲ以テ認可ヲ要セスト規定シタルモノハ此ノ限ニアラス

一 砂防法第三條ニ依ル準用

二 砂防法第四條ニ依リ府縣知事ニ於テ禁止若ハ制限スヘキ一定ノ行爲

三 砂防法第七條及第八條ニ依ル府縣知事ノ處分

四 砂防法第十三條ニ依リ國庫ノ補助ヲ受クル砂防工事ノ計畫及其ノ工費豫算

五 砂防法第十五條乃至第十七條ニ依ル費用ノ負擔方法

六 砂防法第二十一條ニ依ル府縣ノ不均一ノ賦課

七 國庫ノ補助ヲ受ケテ施設シタル砂防設備ノ公用廢止

第三條 左ニ掲クル事項及其ノ變更、停止又ハ廢止ハ府縣知事ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

一 砂防法第二十一條ニ依ル下級公共團體ノ不均一ノ賦課

二 砂防法第二十三條ニ依リ下級行政廳ノナスヘキ障害物ノ除却

三 砂防法第三十條ニ依ル下級行政廳ノ處分

第四條 砂防法第十九條ニ依リ郡、市、町、村、町村組合又ハ水利組合ニ於テ寄付ヲナストキハ左ノ條件ヲ具備シ且府縣知事ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

一 砂防ニ關スル事業ニシテ寄付ヲナサントスル公共團體ノ利害ニ直接ノ關係アルコト

二 寄付ヲナサントスル公共團體ニ於テ起債ノ方法ニ依ラスシテ寄付ヲナシ得ヘキコト

第五條 砂防法第二十條ニ依リ郡、市、町、村、町村組合又ハ水利組合ニ於テ補助ヲナストキハ左ノ條件ヲ具備シ且府縣知事ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

一 砂防ニ關スル事業ニシテ永遠ノ利益ヲ目的トシ且其ノ補助ヲ受クヘキモノニ於テ其ノ費用ノ負擔ニ堪ヘサルコト

二 補助ヲナサントスル公共團體ニ於テ起債ノ方法ニ依ラスシテ補助ヲナシ得ヘキコト

●明治三十一年勅令第十五號第二條ニ依リ認可ヲ要セサルモノニ關スル件 明治三十二年四月 內務省令第十一號

明治三十一年勅令第十五號第二條但書ニ依リ認可ヲ要セサルモノニ關スル件左ノ通之ヲ定ム

第一條 左ニ掲ケタル事項ハ内務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要セス

一 砂防工事ノ一設計内ニ於ケル工事ノ位置又ハ工種ノ變更ニシテ當初ノ計畫ト同一ノ効果ヲ收メ得ヘキモノ

二 砂防工事ノ一設計内ニ於ケル工事ノ伸縮増減ニシテ地質ノ硬軟又ハ地形ノ變遷ニ起因シ其ノ位置及工種ニ變更ナキモノ

第二條 前條第一號ノ場合ニ於テハ府縣知事ハ土木監督署ニ協議ノ上處分スヘシ

第三條 此ノ省令ニ依リ府縣知事ニ於テ處分シタルモノハ直ニ土木監督署ヲ經由シ内務大臣ニ報告スヘシ

●砂防法第十一條ノ地租其他公課減免方 明治三十二年八月 勅令第三百七十四號

砂防法第十一條ノ地租其他ノ公課減免ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第十四類 明治三十一年勅令第十五號第二條ニ依リ認可ヲ要セサルモノニ關スル件 砂防法第十 一條ノ地租其他公課減免方 二一五七



- 第一條 砂防法ニ依リ一定ノ行爲ヲ禁止又ハ制限シタル土地ニ對シテハ其ノ所有者ノ申請ニ依リ地租ヲ免除又ハ輕減スルコトヲ得
- 第二條 前條ニ依リ地租ヲ免除シタル土地ニ對シテハ地租以外ノ公課ヲ免除シ其ノ地租ヲ輕減シタル土地ニ對シテハ同一ノ割合ヲ以テ地租以外ノ公課ヲ輕減ス
- 第三條 本令ニ依ル地租其ノ他ノ公課ノ免除又ハ輕減ノ期間ハ一定ノ行爲ヲ禁止又ハ制限シタル月ヨリ其ノ禁止又ハ制限ヲ解キタル月迄トス
- 第四條 本令ニ依リ地租ノ免除又ハ輕減ヲ受ケントスル者ハ一定ノ行爲ヲ禁止又ハ制限セラレル日ヨリ三十日以内ニ稅務署長ニ申請スヘシ(三十五年勅令第二百五十三號ヲ以テ條中改正)
- 第五條 本令施行前一定ノ行爲ヲ禁止又ハ制限シタル土地ニ付テハ第三條ノ期間ハ此ノ勅令施行ノ月、第四條ノ期間ハ本令施行ノ日ヨリ起算ス

● 土木工事起業者保證金明治二十四年三月勅令第二十六號

朕土木工事起業者保證金ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
土木工事ヲ特許スルニ方リ當該官廳ハ其ノ起業者ヲシテ保證金ヲ納付セシムルコトヲ得  
但有價證券ヲ以テ代用セシムルモ妨ケナシ

● 災害土木費國庫補助規定明治三十二年四月勅令第六十號

朕災害土木費國庫補助規定ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

災害土木費國庫補助規定

- 第一條 府縣ノ災害土木費ニシテ其ノ地租年額ノ十分ノ三ヲ超過スルトキハ國庫ハ其ノ超過額ノ地租額ニ等シキ額ニ達スル迄ハ十分ノ四以内地租額ヲ超過スルトキハ其ノ超過ノ部分ニ對シテハ十分ノ五以内ヲ補助スルコトヲ得
- 第二條 二箇年以上引續キ地租額以上ノ災害土木費ヲ要スル災害アリタル府縣ニ對シテハ前條補助ノ歩合ニ依リ算出シタル補助額ノ十分ノ三以内ヲ増加スルコトヲ得
- 第三條 前二條ノ地租額ハ其ノ年一月一日ニ於ケル土地臺帳面記載ノ地租額ニ依ル
- 第四條 災害土木費ノ範圍及計算方法並郡市町村其ノ他公共團體ノ災害土木費負擔ニ關スル方法等ハ内務大臣之ヲ定ム

● 災害土木費國庫補助規定施行細則三十二年四月內務省令第九號

災害土木費國庫補助規定施行細則左ノ通定ム

- 第一條 災害ニ因リテ必要ヲ生シタル土木工事ニシテ國庫ヨリ補助スヘキモノハ府縣、郡、市、町村、町村組合、水利組合、水利土功會及市町村ノ一部ノ負擔ニ屬スル工事ナルコトヲ要ス
- 第二條 災害ニ因リテ必要ヲ生シタル土木工事ニシテ國庫ヨリ補助スヘキモノハ大體ニ於テ被害工事ノ原形ニ復スルヲ以テ目的トス但シ原形ニ復シ難キ場合其ノ他特別ノ理由アル場合ニ於テハ増築又ハ改築ヲ爲スコトヲ妨ケス
- 第三條 左ノ各號ニ該當スル工事ニ付キテハ特別ノ理由アル場合ヲ除ク外國庫ヨリ補助ヲ與ヘサルモノトス



- 一 河川港灣ノ埋塞ニ基因スル工事但シ川成變更ノ場合ヲ除ク
- 二 幅六尺未満ノ道路及其附屬物ノ工事
- 三 車馬ノ交通ニ妨ケナキ道路ノ上流レ又ハ崩土堆積ニ基因スル工事
- 四 投架橋及飛石渡ノ工事
- 五 直高三尺以下ノ小堤ノ工事
- 六 溪流ニ於ケル直高六尺以下ノ石垣板欄類ノ工事
- 七 溜池用悪水路並其ノ附屬物ノ工事
- 八 砂防工事
- 九 直チニ破壊スルノ虞ナク又他ニ危害ナキ及ホスヘキ恐ナキ石張石垣等ノ差狂又ハ決脱ニ基因スル工事
- 十 一箇所ノ工費五拾圓未満ノ工事
- 十一 利害關係ノ少ナリト認ムル工事
- 十二 後年ニ譲リテ害ナシト認ムル工事
- 第十四條 災害ニ因リテ必要ヲ生シタル土木工事ノ所屬ハ國庫ノ補助ニ關シテハ災害ノ當時定リタル所屬ニ依ル
- 第十五條 郡、市、町村、町村組合、水利組合及水利土功會ハ左ノ割合ヲ以テ其ノ工費ヲ負擔スルモノトシテ計算ス
- 郡、町村組合、水利組合及水利土功會ハ其ノ地租年額十分ノ二
- 町村ハ其ノ地租年額十分ノ四
- 市ハ其ノ地租年額十分ノ七但シ東京市京都市大阪市ハ其ノ地租年額ニ等シキ額
- 郡、市、町村、町村組合、水利組合及水利土功會ハ其ノ工費ヨリ前項負擔額ヲ控除シタル殘額ノ十分ノ三ヲ負擔スルモノトシテ計算ス
- 水利組合又ハ水利土功會ニシテ其ノ區域一市町村内ニ止マルモノ及市町村ノ一部ノ負擔スヘキ工費ハ其ノ市町村ノ工費ニ算入
- トシテ計算ス
- 第六條 郡、市、町村、町村組合、水利組合及水利土功會ニ於テ前條ニ依リ負擔ヲ爲シ其ノ不足スル金額ハ府縣ヨリ補助スルモノトシテ計算ス

- 第七條 府縣ノ負擔ニ屬スル工事ノ費用及前條ニ依レル補助費ニ雜費ヲ加ヘタル金額ヲ以テ府縣災害土木費トス
- 雜費ハ府縣ノ負擔ニ屬スル工事ノ費用及前條ニ依レル補助費ヲ合セタル金額ニシテ貳拾萬圓マテハ其ノ百分ノ五以内、其ノ以上五拾萬圓マテハ貳拾萬圓ヲ超過スル部分ノ百分ノ三以内、五拾萬圓ヲ超過スル部分ハ總テ百分ノ二以内ヲ以テ算出ス
- 第八條 府縣ニ於テ同一年度内二回以上災害ニ遭遇シタルトキハ其ノ災害ニ因リテ必要ヲ生シタル未著手工事ノ費用ハ之ヲ併算スルコトヲ得
- 前項ニヨリ併算スヘキ工事ノ種類及其ノ工費額並併算スヘキ工事ノ原因タル災害ノ程度等ハ内務大臣ノ認定ニヨリ之ヲ定ム
- 第九條 府縣ニ於テ國庫ノ補助ヲ受ケタル災害工事ノ經營中更ニ國庫ノ補助ヲ受ケル災害ニ遭遇シタル場合ニ於テ前項災害工事ニシテ後ノ災害ニ罹ラサルモノハ前項災害工事ノ經營ニ屬スルモノトシ其ノ後ノ災害ニ罹リタルモノハ之ヲ後ノ災害工事ノ經營ニ屬スルモノトス
- 前項ニ依リ前項災害工事ニシテ後ノ災害工事ノ經營ニ屬スル場合ニ於テハ其ノ未成工事ニ付キテハ災害前ノ出來形ニ依リ既成工費ト未成工費トヲ區分シ其ノ未成工費ヲ後ノ災害工事設計額ヨリ控除シ未著手工事ニ付キテハ其未著手工費ヲ後ノ災害工事設計額ヨリ控除ス
- 第十條 府縣知事ニ於テ災害土木費ニ對シ國庫ノ補助ヲ請ハントスルトキハ災害工事ノ目論見帳ヲ調製シ土木監督署ノ検査ヲ請求スヘシ
- 府縣知事ニ於テ前項検査ノ請求ヲ爲シタルトキハ目論見總額並其請求ヲ爲シタル旨ヲ土木局長ニ通知スヘシ
- 第十一條 土木監督署長ハ前條ノ請求ヲ受ケタルトキハ直ニ検査ヲ爲シ其ノ結果ヲ府縣知事ニ通知シ同時ニ内務大臣ニ上申スヘシ
- 府縣知事ニ於テ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ補助申請見込額ノ上申ヲ爲シ補助内定額ノ通知ヲ受ケヘシ
- 府縣知事ハ前項ノ通知ニ依リ豫算ヲ調製シ府縣會ノ決議ヲ經テ國庫補助ノ申請ヲ爲スヘシ
- 第十二條 國庫ノ補助ヲ受ケタル府縣災害土木費ニ關スル會計ノ事務ハ府縣ニ於テ分別シテ之ヲ整理スヘシ
- 第十三條 府縣ハ検査ヲ受ケタル災害工事ノ實施ニ際シテハ河川法ニ關スル規程及明治三十年十月內務省訓第九七六號訓令ノ手續ヲ遵ルモノトス
- 府縣災害工事ノ實施ニ際シ必要アリト認ムルトキハ検査ヲ受ケタル工事ノ設計ヲ變更シ又ハ施工箇所ノ變更ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テモ亦前項ニ同シ



前項ノ變更ニシテ河川法ニ關スル規程及明治三十年十月内務省訓第九七六號訓令ノ手續ヲ經ルコトヲ要セサルモノハ其ノ都度土木監督署ニ通知スヘシ

第十四條 府縣ニ於テ國庫ノ補助ヲ受ケタル災害工事ノ經營ヲ完了シタルトキハ土木監督署ヲ經テ内務大臣ニ其ノ經營完了ノ認定ヲ申請スヘシ

前項ノ場合ニ於テ災害土木費ニ剩餘ヲ生シタルトキハ府縣ハ其ノ處分方法ヲ定メ土木監督署ヲ經テ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ  
府縣ニ於テ國庫ノ補助ヲ受ケタル災害土木費ニ對シ特別ノ増加ヲ爲シタルトキハ前項ノ剩餘金ハ其ノ歩合ニ依リ之ヲ定ム

二〇九丁參  
看

●河川法ノ規定ニ依リ費用ノ補助ヲ受ケタル土木工事竣工認可ニ關スル規定三十六年七月内務省令第八號

河川法第三十二條第二項ニ依リ費用ノ補助ヲ受ケタル土木工事ニシテ内務大臣ニ於テ施行スル河川工事費ヨリ補助シタルモノ竣功認可ニ關スル規定左ノ通定ム

第一條 河川法第三十二條第二項ニ依リ費用ノ補助ヲ受ケタル土木工事ニシテ内務大臣ニ於テ施行スル河川工事費ヨリ補助シタルモノニ付テハ其ノ工事竣工シタルトキハ管理者ニ於テ内務大臣ニ申請シ工事竣工ノ認可ヲ受クヘシ

第二條 前條ノ申請ニハ竣工調書及費用精算書ヲ添付シ地方長官ヲ經由スヘシ

第三條 工事費ニ剩餘ヲ生シタル場合ニ於テ内務大臣ニ於テ金額ヲ指定シ還付ヲ命シタルトキハ管理者ハ其ノ命ヲ受ケタル日ヨリ二箇月内ニ之ヲ國庫ニ納付スヘシ

第四條 本令ノ規定ハ本令發布前既ニ竣工シタルモノニ付テ亦之ヲ適用ス但シ第一條ノ規定ニ依レル申請ハ本令發布ノ日ヨリ三箇月内ニ提出スヘシ



二十九年勅令第六十七號ヲ以テ  
會計法ヲ施行ス

### ○第十五類 會計、官有財産 附預金

●會計法 明治二十二年二月  
法律第四號

#### 沿革略記

明治十四年四月第三十三號達ヲ以テ會計法ヲ定ム●十五年一月第五號ヲ以テ前令ヲ改定ス●二十二年二月法律第四號ヲ以テ會計法ヲ制定ス

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ會計法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

#### 會計法

##### 第一章 總則

第一條 政府ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

一會計年度所屬ノ歳入歳出ノ出納ニ關ル事務ハ翌年度十一月三十日マテニ悉皆完結スヘシ

第二條 租税及其他一切ノ收納ヲ歳入トシ一切ノ經費ヲ歳出トシ歳入歳出ハ總豫算ニ編入スヘシ

第三條 各年度ニ於テ決定シタル經費ノ定額ヲ以テ他ノ年度ニ屬スヘキ經費ニ充ツルコトヲ得ス

第四條 各官廳ニ於テハ法律勅令ヲ以テ規定シタルモノ、外特別ノ資金ヲ有スルコトヲ得ス

##### 第二章 豫算

第五條 歳入歳出ノ總豫算ハ前年ノ帝國議會集會ノ始ニ於テ之ヲ提出スヘシ

必要避クヘカラサル經費及法律又ハ契約ニ基ツク經費ニ不足ヲ生シタル場合ノ外追加豫算ヲ提出スルコトヲ得ス(三十五年法律第四十七號ヲ以テ本項追加)



第六條 歳入歳出ノ總豫算ハ之ヲ經常臨時ノ二部ニ大別シ各部中ニ於テ之ヲ款項ニ區分スヘシ

總豫算ニハ帝國議會參考ノ爲ニ左ノ文書ヲ添附スヘシ

第一 各省ノ豫定經費要求書但シ各項目中各目ノ明細ヲ記入スヘシ

第二 其ノ年三月三十一日ニ終リタル會計年度ノ歳入歳出現計書

第七條 豫算中ニ設クヘキ豫備費ハ左ノ二項ニ分ツ

第一 豫備金

第二 豫備金

第一 豫備金ハ避クヘカラサル豫算ノ不足ヲ補フモノトス

第二 豫備金ハ豫算外ニ生シタル必要ノ費用ニ充ツルモノトス

第八條 豫備金ヲ以テ支辨シタルモノハ年度經過後帝國議會ニ提出シ其ノ承諾ヲ求ムルヲ要ス

第九條 毎年度大藏省證券發行ノ最高額ハ帝國議會ノ協賛ヲ經テ之ヲ定ム

第三章 收入

第十條 租稅及其ノ他ノ歳入ハ法律命令ノ規程ニ從ヒ之ヲ徵收スヘシ

法律命令ニ依リ當該官吏ノ資格アル者ニ非サレハ租稅ヲ徵收シ又ハ其ノ他ノ歳入ヲ收納スルコトヲ得ス

得ス

第四章 支出

第十一條 毎會計年度ニ於テ政府ノ經費ニ充ツル所ノ定額ハ其ノ年度ノ歳入ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

第十二條 國務大臣ハ豫算ニ定メタル目的ノ外ニ定額ヲ使用シ又ハ各項ノ金額ヲ彼此流用スルコトヲ得ス

國務大臣ハ其ノ所管ニ屬スル收入ヲ國庫ニ納ムヘシ直ニ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第十三條 國務大臣ハ其ノ所管定額ヲ使用スル爲ニ國庫ニ向ヒテ仕拂命令ヲ發スヘシ但シ別ニ定ムル

所ノ規程ニ從ヒ他ノ官吏ニ委任シテ仕拂命令ヲ發セシムルコトヲ得

第十四條 國庫ハ法律命令ニ反スル仕拂命令ニ對シテ仕拂ヲ爲スコトヲ得ス

第十五條 國務大臣ハ政府ニ對シ正當ナル債主若ハ其ノ代理人ノ爲ニスルニ非サレハ仕拂命令ヲ發スルコトヲ得ス

ルコトヲ得ス

左ノ諸項ノ經費ニ限リ國務大臣ハ主任ノ官吏ニ委任シ又ハ政府ノ命シタル銀行ニ委任シテ現金支拂ヲ爲サシムル爲ニ現金前渡ノ仕拂命令ヲ發スルコトヲ得(三十五年法律第四十八號ヲ以テ項中改正)

第一 國債ノ元利拂

第二 軍隊軍艦及官船ニ屬スル經費

第三 在外各廳ノ經費

第四 前項ノ外總テ外國ニ於テ支拂ヲ爲ス經費

第五 運輸通信ノ不便ナル内國ノ地方ニ於テ支拂ヲ爲ス經費

第六 廳中常用雜費ニシテ一箇年ノ總費額千圓ニ滿タサルモノ

第七 場所ノ一定セサル事務所ノ經費



第八 各廳ニ於テ直接ニ從事スル工事ノ經費但シ一主任官ニ付六千圓マテヲ限ル

第五章 決算

第十六條 會計検査院ノ検査ヲ經テ政府ヨリ帝國議會ニ提出スル總決算ハ總豫算ト同一ノ様式ヲ用井左ノ事項ノ計算ヲ明記スヘシ

歳入ノ部

歳入豫算額

調定濟歳入額

收入濟歳入額

收入未濟歳入額

歳出ノ部

歳出豫算額

豫算決定後増加歳出額

仕拂命令濟歳出額

翌年度繰越額

第十七條 前條ノ總決算ニハ會計検査院ノ検査報告ト俱ニ左ノ文書ヲ添附スヘシ

第一 各省決算報告書

第二 國債計算書

第三 特別會計計算書

第六章 期滿免除

第十八條 政府ノ負債ニシテ其ノ仕拂フヘキ年度經過後滿五箇年内ニ債主ヨリ支出ノ請求若ハ仕拂ノ請求ヲ爲サ、ルモノハ期滿免除トシテ政府ハ其ノ義務ヲ免ル、モノトス但シ特別ノ法律ヲ以テ期滿免除ノ期限ヲ定メタルモノハ各々其ノ定ムル所ニ依ル

第十九條 政府ニ納ムヘキ金額ニシテ其ノ納ムヘキ年度經過後滿五箇年内ニ上納ノ告知ヲ受ケサルモノハ其ノ義務ヲ免ル、モノトス但シ特別ノ法律ヲ以テ期滿免除ノ期限ヲ定メタルモノハ各々其ノ定ムル所ニ依ル

第七章 歳計剩餘定額繰越豫算外收入及定額戻入

第二十條 各年度ニ於テ歳計ニ剩餘アルトキハ其ノ翌年度ノ歳入ニ繰入ルヘシ

第二十一條 豫算ニ於テ特ニ明許シタルモノ及一年度内ニ終ルヘキ工事又ハ製造ニシテ避クヘカラサル事故ノ爲ニ事業ヲ遅延シ年度内ニ其ノ經費ノ支出ヲ終ラサリシモノハ之ヲ翌年度ニ繰越シ使用スルコトヲ得

第二十二條 數年ヲ期シテ竣功スヘキ工事製造及其ノ他ノ事業ニシテ繼續費トシテ總額ヲ定メタルモノハ毎年度ノ仕拂殘額ヲ竣功年度マテ遞次繰越使用スルコトヲ得

第二十三條 誤拂過渡トナリタル金額ノ返納出納ノ完結シタル年度ニ屬スル收入及其ノ他一切豫算外ノ收入ハ總テ現年度ノ歳入ニ組入ルヘシ但シ法律勅令ニ依リ前金渡概算渡繰替拂ヲ爲シタル場合ニ



於ケル返納金ハ各々之ヲ仕拂ヒタル經費ノ定額ニ戻入ル、コトヲ得

第八章 政府ノ工事及物件ノ賣買貸借

第二十四條 法律勅令ヲ以テ定メタル場合ノ外政府ノ工事又ハ物件ノ賣買貸借ハ總テ公告シテ競争ニ付スヘシ但シ左ノ場合ニ於テハ競争ニ付セス隨意ノ約定ニ依ルコトヲ得ヘシ(三十五年法律第四十八號ヲ以テ項中改正)

第一 一人又ハ一會社ニテ專有スル物品ヲ買入又ハ借入ル、トキ

第二 政府ノ所爲ヲ祕密ニスヘキ場合ニ於テ命スル工事又ハ物品ノ賣買貸借ヲ爲ストキ

第三 非常急遽ノ際工事又ハ物品ノ買入借入ヲ爲スニ競争ニ付スルニ暇ナキトキ

第四 特種ノ物質又ハ特別使用ノ目的アルニ由リ生産製造ノ場所又ハ生産者製造者ヨリ直接ニ物品ノ買入ヲ要スルトキ

第五 特別ノ技術家ニ命スルニ非サレハ製造シ得ヘカラサル製造品及機械ヲ買入ル、トキ

第六 土地家屋ノ買入又ハ借入ヲ爲スニ當リ其ノ位置又ハ構造等ニ限アル場合

第七 千圓ヲ超エサル工事又ハ物品ノ買入借入ノ契約ヲ爲ストキ

第八 見積價格四百圓ヲ超エサル動産ヲ賣拂フトキ

第九 軍艦ヲ買入ル、トキ

第十 軍馬ヲ買入ル、トキ

第十一 試験ノ爲ニ工作製造ヲ命シ又ハ物品ヲ買入ル、トキ

第十二 慈惠ノ爲ニ設立セル教育所ノ貧民ヲ備役シ及其ノ生産又ハ製造物品ヲ直接ニ買入ル、トキ

キ

第十三 囚徒ヲ備役シ又ハ囚徒ノ製造物品ヲ直接ニ買入ル、トキ及政府ノ設立ニ係ル農工業場ヨリ直接ニ其ノ生産又ハ製造物品ヲ買入ル、トキ

第十四 政府ノ設立シタル農工業場又ハ慈惠教育ニ係ル各所ノ生産製造物品及囚徒ノ製造物品ヲ賣拂フトキ

第二十五章 軍艦兵器彈藥ヲ除ク外工事製造又ハ物件買入ノ爲ニ前金拂ヲ爲スコトヲ得ス

第九章 出納官吏  
第二十六條 政府ニ屬スル現金若ハ物品ノ出納ヲ掌ル所ノ官吏ハ其ノ現金若ハ物品ニ付一切ノ責任ヲ負ヒ會計検査院ノ検査判決ヲ受クヘシ

第二十七條 前條ノ官吏水火盜難又ハ其ノ他ノ事故ニ由リ其ノ保管スル所ノ現金若ハ物品ヲ紛失毀損シタル場合ニ於テ其ノ保管上避ケ得ヘカラサリシ事實ヲ會計検査院ニ證明シ責任解除ノ判決ヲ受クルニ非サレハ其ノ負擔ノ責ヲ免ル、コトヲ得ス

第二十八條 現金又ハ物品ノ出納ヲ掌ルニ付身元保證金ヲ納メシムルコトヲ要スルモノハ勅令ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第二十九條 仕拂命令ノ職務ハ現金出納ノ職務ト相兼ヌルコトヲ得ス

第十章 雜則  
第三十條 特別ノ須要ニ因リ本法ニ準據シ難キモノアルトキハ特別會計ヲ設置スルコトヲ得



特別會計ヲ設置スルハ法律ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第三十一條 政府ハ國庫金ノ取扱ヲ日本銀行ニ命スルコトヲ得

第十一章 附則

第三十二條 本法ノ條項帝國議會ニ關涉セサルモノハ明治二十三年四月一日ヨリ施行シ其ノ關涉スルモノハ帝國議會開會ノ時ヨリ施行ス

決算ニ係ル條項ハ帝國議會ノ議定ヲ經タル年度ノ歲計ヨリ施行ス

第三十三條 本法ノ條項ト抵觸スル法令ハ各々其ノ條項施行ノ日ヨリ廢止ス

●會計法補則明治二十三年八月法律第五十七號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ會計法補則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

會計法補則

第一條 明治二十三年度歲出豫算中左ノ費用ハ明治二十四年度ノ豫算ニ於テ憲法第六十七條ニ規定シタル大權ニ基ケル既定ノ歲出トス

- 一 文武官ノ俸給及文官退官賜金
- 二 陸海軍軍事費憲兵費屯田兵費
- 三 賞勳年金及褒賞費
- 四 外國條約及約束ニ依レル支出

五 各廳ノ廳費及經常修繕費

第二條 帝國議會開會前ニ發布セラレタル法令ニ基ク左ノ費用ハ法律ノ結果ニ由ルノ歲出トス

一 帝國議會經費

二 裁判所並會計検査院經費

三 恩給扶助料罷役恤金及死傷手當

四 徴兵費

五 徴稅費 證券印紙切手類製造買戻印費經札製造費所得稅調查委員手當市町村ニ交付スル徴稅費滯納處分費差押物件買上代

六 囚徒費

七 遞信事業及航路標識費

八 内外國難破船費

九 沖繩縣及小笠原島地方費

十 備荒儲蓄

十一 北海道拂下土地買上代

十二 恩賞及救助費

第三條 明治二十四年度歲出豫算ニ於テ左ノ費用ハ憲法第七十六條第二項ニ規定シタル政府歲出上ノ

義務トス

一 神社費



- 二 公債償還利子及拂手数料
  - 三 既ニ定マレル效力アル命令ニ依リ毎年各地方ニ付與スヘキ公共工事費補助及警察費聯帶支辨金
  - 四 沖繩縣諸祿
  - 五 既ニ定マレル效力アル命令ニ依リ航運鐵道製造殖産ノ會社及病院學校ニ付與スヘキ補助又ハ利子保證
  - 六 雇外國人ノ俸給恩給及手當
  - 七 法律上ノ賠償及訴訟費
  - 八 諸拂戻金
  - 九 國庫金取扱費
  - 十 預金利子
  - 十一 既約アル地所家屋借料
- 第四條 明治二十三年度以前ノ歳出豫算ニ於テ數年ヲ期シタル事業ニシテ明治二十四年度ニ至ルマテ未タ竣工ニ至ラサルモノハ繼續費ノ例ニ依ル

●會計規則明治二十二年五月 勅令第六十號  
 朕會計規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

會計規則

第一章 會計年度所屬區分、歳入歳出金出納

- 第十條 歳入ノ年度所屬ハ左ノ區分ニ據ル
  - 第一 納期ノ一定シタル收入ハ其納期末日ノ屬スル年度
  - 第二 隨時ノ收入ニシテ納額告知書ヲ發スルモノハ納額告知書ヲ發シタル日ノ屬スル年度
  - 第三 隨時ノ收入ニシテ納額告知書ヲ發セサルモノハ領收ヲ爲シタル日ノ屬スル年度
- 第二條 歳出ノ所屬年度ハ左ノ區分ニ據ル
  - 第一 公債ノ元利賞勳年金恩給諸祿ノ類ハ仕拂期日ノ屬スル年度
  - 第二 諸拂戻缺損補填ハ其拂戻又ハ補填ノ決定ヲ達シタル日ノ屬スル年度
  - 第三 俸給手数料旅費ノ類ハ其支給スヘキ事實ノ生シタル時ノ屬スル年度
  - 第四 廳中雜費土木建築費其他物件ノ購入代價ノ類ハ契約ヲ爲シタル日ノ屬スル年度但土木建築費ノ如キ契約ノ數年ニ涉ルコトヲ得ヘキモノハ契約ニ據リ定メタル仕拂期日ヲ以テ區分スヘシ
  - 第五 前各項ニ掲クル類別ニ入ラサル費用ハ總テ仕拂命令ヲ發シタル日ヲ以テ年度ノ所屬ヲ定ムヘシ
- 第三條 毎年度所屬歳入歳出金ヲ金庫ニ於テ出納スルハ翌年度六月三十日限リトス(三十五年勅令第二百號ヲ以テ條改正)



第二章 豫算

第一款 總豫算

第四條 大藏大臣ハ歳入ノ景況ヲ調査シ各省ノ豫定經費要求書ニ基キ歳入歳出總豫算ヲ調製スヘシ

總豫算ノ首ニハ歳計全體ニ關スル説明ヲ付スヘシ

第五條 歳入豫算ハ經常臨時共ニ款項ニ區分シテ調製シ成ルヘク歳入ノ性質ヲ明示スヘシ

第六條 歳出豫算ハ經常臨時共ニ款項ニ區分シテ調製シ成ルヘク經費ノ目的ヲ明ニスヘシ

第七條 歳入歳出總豫算款項ノ區分ハ大藏大臣之ヲ定ムヘシ

第二款 豫定經費要求書

第八條 各省大臣ハ毎年度其所管經費ノ需用高ヲ算定シ前年度ノ定額ト比較ヲ立テ豫定經費要求書ヲ調製シ前年度八月三十一日マテニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ(二十六年勅令第百十二號ヲ以テ「六月三十日」ヲ「八月三十一日」ト改ム)

第九條 各省ノ豫定經費要求書ハ經常臨時共ニ款項ニ區分シ更ニ各項中所要ノ金額ヲ各目ニ區分シ尚ホ必要ノ場合ニ於テハ番號ヲ以テ之ヲ細分シ又經費所要ノ理由計算ノ基ク所ヲ示スヘシ  
目ノ區分ハ各省大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ムヘシ

第十條 各省ノ豫定經費要求書ニハ各省所管經費全體ニ關スル説明及各款各項ノ説明ヲ付スヘシ

第三款 仕拂豫算

第十一條 各省大臣ハ毎年度決定ノ豫算定額ニ基キ仕拂命令官毎ニ所要ノ費額ヲ定メ仕拂豫算ヲ調製シ大藏大臣及會計検査院ニ送付スヘシ(二十六年勅令第百十二號ヲ以テ「大藏大臣及會計検査院ニ送付スヘシ」ト改ム)  
仕拂豫算ハ各項ノ金額ヲ示スヘシ

第十二條 仕拂豫算ヲ更定シタルトキハ其計算書ヲ大藏大臣及會計検査院ニ送付スヘシ(二十六年勅令第百十二號改正)

第十三條 大藏大臣仕拂豫算若クハ其更定計算書ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ヲ金庫ニ令達スヘシ(二十六年勅令第百十二號ヲ以テ本條改正)

第四款 歳入歳出現計書

第十四條 會計法第六條ニ掲クル歳入歳出現計書ハ大藏省ニ備ヘタル主計簿ニ據リ大藏大臣之ヲ調製スヘシ

第十五條 歳入歳出現計書ニハ總豫算ニ定メタル區分ニ從ヒ其年三月三十一日ヲ以テ終リタル年度ニ屬スル歳入歳出ノ八月三十一日ニ於ケル左ノ事項ノ現計ヲ示スヘシ(三十四年勅令第百五十六號ヲ以テ「修正」)  
歳入ノ部  
歳入豫算額  
調定濟歳入額  
收入濟歳入額

歳入ノ部  
歳入豫算額  
調定濟歳入額  
收入濟歳入額



不納缺損額

收入未濟歳入額

歳出ノ部

歳出豫算額

豫算決定後増加歳出額

仕拂命令済歳出額

翌年度繰越額

歳出残額

第五款 豫備金支出

第十六條 豫備金ハ大藏大臣之ヲ管理ス

第十七條 豫備金ヲ以テ補充シ得ヘキ費途及豫備金ヲ以テ支辨スル費途ノ金額ハ他ノ費途ニ流用

スルコトヲ得ス

第十八條 第一豫備金ヲ以テ補充シ得ヘキ費途ハ毎年度豫メ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條 各省大臣第一豫備金ノ支出ヲ要スルトキハ金額理由ヲ示ス所ノ計算書ヲ作り大藏大臣

ノ承認ヲ經ヘシ

第二十條 大藏大臣第一豫備金ノ支出ヲ承認シタルトキハ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

第二十一條 各省大臣第二豫備金ノ支出ヲ要スルトキハ金額理由ヲ示ス所ノ計算書ヲ作り之ヲ大

藏大臣ニ送付スヘシ

第二十二條 大藏大臣ハ前條ノ計算書ヲ調査シ其意見ヲ付シテ勅裁ヲ請フヘシ

第二十三條 第二豫備金支出ノ勅裁アリタルトキハ大藏大臣其事故金額ヲ會計検査院ニ通知シ及

官報ニ掲載スヘシ

第二十四條 豫備金ヲ以テ補充支辨シタル金額ハ各省大臣其計算書ヲ作り各費途毎ニ説明ヲ付シ

年度經過後五箇月以内ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

大藏大臣ハ豫備金支出ヲ第一豫備金支出ト第二豫備金支出トニ大別シ其總計算書ヲ作り之ニ説

明ヲ付シ各省大臣ヨリ送付シタル豫備金支出ノ計算書ト共ニ帝國議會ニ提出スルノ手續ヲナス

ヘシ

第三章 收入

第二十五條 收入官吏租税其他ノ收入金ヲ領收スルトキハ其領收證ヲ納人ニ交付シ領收濟ノ旨ヲ

歳入ヲ徴收スル官吏ニ報告スヘシ(三十三年勅令第百二十七號ヲ以テ改正)

第二十六條 收入官吏ハ大藏大臣定ムル所ノ規則ニ從ヒ毎月一回若クハ數回其領收シタル金額ヲ

金庫ニ拂込ムヘシ但金庫ノ設ナキ運輸通信ノ不便ノ地方ニ在ル收入官吏ノ領收シタル金額ハ該

官吏之ヲ保管シ大藏大臣ノ指定ニ從ヒ金庫ニ拂込ノ手續ヲ爲スヘシ(二十六年勅令第百二十七號ヲ以テ條中削除)

第二十七條 金庫ハ收入官吏又ハ納人ヨリ租税其他ノ收入金ヲ領收スルトキハ其領收證ヲ拂込人

又ハ納人ニ交付シ領收濟ノ旨ヲ歳入ヲ徴收スル官吏ニ通知スヘシ(二十六年勅令第百二十七號ヲ以テ改正)



第二十八條 (二十六年勅令第百一十二號ヲ以テ削除)

第二十九條 (二十六年勅令第百一十二號ヲ以テ削除)

第三十條 歳入ヲ徴收スル官吏ハ其徴收簿ノ結果ニ據リ毎月徴收報告書ヲ調製シ参照書類ヲ添へ各省大臣ノ定メタル期限ニ之ヲ其事務管理廳ニ送付スヘシ(三十三年勅令第百一十七號ヲ以テ改正)

第三十一條 歳入ノ事務管理廳ハ前條ノ徴收報告書ニ據リ毎月徴收總報告書ヲ作り之ニ必要ナル参照書類ヲ添へ其翌月中ニ大藏大臣ニ送付スヘシ(上同)

第三十一條ノ二 納期ノ一定シタル收入ニシテ納期所屬ノ年度ニ於テ納額告知書ヲ發セサルモノハ總テ納額告知書ヲ發シタル年度ノ歳入ニ編入スヘシ(三十三年勅令第百一十七號ヲ以テ追加)

第四章 支出

第一款 仕拂命令

第三十二條 仕拂命令官ハ總テ仕拂命令ヲ發スル前其經費ハ正當ニシテ必要ナルヤヲ調査シ該經費ノ金額ヲ算定シ又該經費ハ仕拂豫算額ニ超過スルコトナキヤ支出科目及所屬年度ヲ誤ルコトナキヤ該經費ハ豫算ヲ以テ定メラレタル目的ニ違フコトナキヤヲ調査スヘシ

第三十三條 仕拂命令ニハ債主若クハ其代理人ノ氏名、仕拂フヘキ金額、支出科目、年度、番號ヲ記載スヘシ但支出科目ノ同一ナルモノハ數人ノ債主ニ對シ集合仕拂命令ヲ發シ別ニ各債主ノ金額氏名表ヲ添ユルコトヲ得(二十六年勅令第百一十二號ヲ以テ番號ノ下「支出ノ目的」ノ五字及但ノ下「條給」ノ諸給恩給貸動年金諸條及定額拂切經費ノ仕拂ヲ爲ストキ」ノ二十七字ヲ削ル)現金前渡ノ仕拂命令ニハ前渡ヲ受クヘキ官吏ノ資格、氏名(銀行ナレハ其名稱)前渡ヲ爲スヘキ

金額、支出科目、年度及番號ヲ記載スヘシ

第三十四條 仕拂命令ハ一項毎ニ之ヲ發スヘシ

第三十五條 仕拂命令官第三十二條ノ調査ヲ了シタルトキハ其仕拂命令ヲ受取人ニ交付スヘシ但數人ノ債主ニ對スル集合仕拂命令及仕拂命令ヲ當テタル金庫所在地外ニ在ル債主ニ仕拂ヲ要スルモノハ直ニ仕拂命令ヲ金庫ニ送付シ受取人ニ仕拂ノ手續ヲ爲スヘシ(二十六年勅令第百一十二號第三十三條勅令第百二十七號ヲ以テ改正)

第三十六條 仕拂命令官前條ニ據リ仕拂命令ヲ受取人ニ交付セントスルトキハ前以テ案内仕拂命令ヲ金庫ニ送付スヘシ(二十六年勅令第百一十二號ヲ以テ改正)

第三十七條 (二十六年勅令第百一十二號ヲ以テ削除)

第三十八條 (二十六年勅令第百一十二號ヲ以テ削除)

第三十九條 現金前渡ノ仕拂命令ハ左ノ區分ニ從ヒ之ヲ發スヘシ(三十五年勅令第百一十二號ヲ以テ條中改正)

第一 常時ノ費用ニ係ルモノハ每一箇月分ノ費額ヲ豫定シテ仕拂命令ヲ發スヘシ但在外各廳ノ經費外國ニ於テ仕拂ヲ爲ス經費運輸通信ノ不便ナル内國ノ地方ニ於テ仕拂ヲ爲ス經費其他仕拂場所ノ一定セサル經費ハ事務ノ必要ニ由リ二箇月以上六箇月分マテ合セテ仕拂命令ヲ發スルコトヲ得

第二 隨時ノ費用ニ係ルモノハ所要ノ費額ヲ豫定シテ事務上差支ナキ限りハ成ルヘク分割シテ仕拂命令ヲ發スヘシ



第三 各廳ニ於テ直接ニ從事スル工事ノ經費ハ工事ノ大小ニ由リ其所要ヲ量リ六千圓以內ニ於テ仕拂命令ヲ發スヘシ

第四十條 會計法第十五條第八ニ據リ現金前渡ヲ爲シタルトキハ左ノ場合ヲ除クノ外更ニ同一ノ主任官吏ニ現金前渡ヲ爲スタメ仕拂命令ヲ發スルコトヲ得ス(上同)

第一 前ニ發シタル仕拂命令ノ金額三分ノ二以上ノ仕拂濟證明アリタルトキ但此場合ニ於テハ更ニ發スル仕拂命令ノ金額ト前ニ發シタル仕拂命令ノ仕拂濟證明金額ト合シテ六千圓ヲ超ルコトヲ得ス

第二 前ニ發シタル仕拂命令ノ金額六千圓未滿ニシテ更ニ發スル仕拂命令ノ金額ト合シテ六千圓ヲ超サルトキ

第四十一條 現金前渡ヲ受ケタル官吏監督ノ規則ハ大藏大臣各省大臣ニ協議シテ之ヲ定ムヘシ

第四十二條 會計法第十五條ニ據リ政府ノ命シタル銀行ニ委任シテ現金仕拂ヲ爲サシムル爲メニ發スル現金前渡ノ仕拂命令ハ國債元利金仕拂ノ場合ニ限ル

第四十三條 仕拂命令ハ所屬年度經過後滿五箇年內ハ仕拂ノ請求アル毎ニ金庫ニ於テ仕拂フモノトス

第四十四條 各年度ニ屬スル經費ヲ精算シテ仕拂命令ヲ發スルハ翌年度五月三十一日限リトス(三十五年勅令第二百號ヲ以テ條中改正)

第二款 仕拂命令ノ執行

第四十五條 金庫ハ案内仕拂命令集合仕拂命令若クハ金庫所在地外ニ在ル債主ニ仕拂ヲ要スル仕

拂命令ヲ受ケタルトキ其命令合式ニシテ且仕拂豫算各項ノ金額ニ超過セサルトキハ仕拂ヲ爲スヘシ(二十六年勅令第二百號ヲ以テ本條改正三十三勅令第二百七號ヲ以テ條中改正)

金庫ニ於テハ休日ヲ除クノ外毎日其開庫時間内ハ何時ニテモ仕拂命令持參人ニ仕拂命令ト引替ニテ現金ヲ交付スヘシ但集合仕拂命令金庫所在地外ニ在ル債主ニ仕拂ヲ要スル仕拂命令ニ對シテハ領收證書ト引替ニ現金ヲ交付スヘシ

第四十六條 左ノ場合ニ於テハ事由ヲ仕拂命令持參人ニ告ケ金庫ニ於テ仕拂命令ノ執行ヲ拒ムヘシ

第一 案内仕拂命令ノ到着セサルトキ

第二 仕拂命令ト案内仕拂命令ト符合セサルトキ

第三 仕拂命令汚損シ案内仕拂命令ト照合シ難キトキ

第四十七條 各年度ノ仕拂命令ニシテ翌年度六月三十日マテニ仕拂ノ請求ナキ仕拂命令濟金額ニ相當スル資金ハ會計法第二十條ノ歲計剩餘ニ組入レス國庫ニ於テ繰越整理スヘシ(三十五年勅令第二百號ヲ以テ條中改正)

第四十八條 前條ノ資金中年度經過後滿五箇年內ニ仕拂ノ請求ナクシテ會計法第十八條ノ期滿免除ニ據リ政府カ負債ノ義務ヲ免レタルモノアルカ爲メ不用トナリタルモノハ其負債ノ期滿免除トナリタル年度ノ歲入ニ組入ルヘシ



第三款 計算報告

第四十九條 金庫出納役ハ毎月仕拂命令受領濟額報告書ヲ調製シ其翌月中ニ大藏省ニ送付スヘシ但運輸不便ノ土地若クハ遠隔ノ地方ニシテ本文期限ニ據リ難キモノハ豫メ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ(二十六年勅令第百十二號ヲ以テ改正)

第五十條 (二十六年勅令第百十二號ヲ以テ削除)

第五章 決算

第一款 總決算

第五十一條 歳入歳出總決算ハ總豫算ト同一ノ區分ニ據リ大藏大臣之ヲ調製スヘシ

第二款 各省決算報告書及收入支出計算書(二十六年勅令第百十二號ヲ以テ改正)

第五十二條 各省大臣ハ翌年度十一月三十日マテニ各省豫定經費要求書ト同一ノ區分ニ據リ其省所管ニ屬スル經費ノ決算報告書ヲ調製シ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ(三十五年勅令第百二十號ヲ以テ條中改正)  
歳入ヲ徵收スル官吏ハ會計検査院ニ證明ノ爲メ毎年度歳入徵收額計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ其歳入事務管理廳ニ送付シ歳入事務管理廳ハ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ(二十六年勅令第百十二號ヲ以テ本項以下三項ヲ追加シ三十三年勅令第百二十七號ヲ以テ本項中改正)  
仕拂命令官ハ會計検査院ニ證明ノ爲メ毎月支出ノ計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ其主管大臣ニ送付シ主管大臣ハ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ  
本條第二項第三項ノ場合ニ於テ歳入歳出ニ關スル計算書ハ特ニ監督ノ任アル官吏若クハ特ニ主

管大臣ヨリ委任ヲ受ケタル官吏ヨリ直ニ會計検査院ヘ送付セシムルコトヲ得

第三款 國債計算書

第五十三條 國債計算書ハ大藏大臣之ヲ調製スヘシ

第五十四條 國債計算書ニハ左ノ事項ヲ示スヘシ

- 第一 當該年度末日ニ於ケル國債ノ種類及現高ヲ示ス所ノ計算
- 第二 當該年度ニ於テ償還シ及仕拂ヒタル各種國債ノ元高及利息ノ計算
- 第三 最近五箇年度間ニ於ケル各種國債増減ノ形況ヲ示ス所ノ計算
- 第四款 特別會計計算書

第五十五條 特別會計計算書ハ會計法第三十條ニ據リ特別ノ會計ヲ立ルコトヲ許サレタル事務ヲ

管理スル所ノ各省大臣之ヲ調製シ毎年度經過後五箇月以内ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第五十六條 特別會計計算書ニハ左ノ事項ヲ示スヘシ

- 第一 收入計算
- 第二 支出計算
- 第三 最近五箇年度間資金ノ増減
- 第四 最近五箇年度間損益ノ比較
- 第六章 定額繰越、過年度支出、定額戻入
- 第一款 定額繰越



第五十七條 各省大臣會計法第二十一條及第二十二條ニ據リ定額ノ繰越ヲ要スルトキハ翌年度五

月三十一日迄ニ繰越計算書ヲ作り大藏大臣ノ承認ヲ求ムヘシ(三十三年勅令第百二十七號ヲ以テ本項及第二號ヲ改正ス)

本條繰越計算書ハ歳出豫算ノ區分ニ從ヒ調製シ左ノ事項ヲ示スヘシ

第一 繰越ヲ要スル項ノ定額

第二 右定額ニ對シ既ニ仕拂命令濟トナリタル額及當該年度所屬トシテ仕拂命令ヲ發スヘキ額

第三 右定額ニ對シ仕拂ヲ發スヘキ額即チ翌年度ニ繰越ヲ要スル額

第四 右定額中全ク不用ニ歸シ決算ニ於テ取消スヘキ額

第五十八條 會計法第二十一條ニ據リ年度内ニ其經費ノ支出ヲ終ラサリシ金額ヲ翌年度ニ繰越サントスルトキハ其繰越サントスル金額ノ計算書ニ各事件毎ニ竣功遅延ノ事由ヲ示シ又請負ニテ爲サシムル工事若クハ製造ナレハ竣功遅延ノ事由ノ外ニ請負人職業住所氏名ヲ示シ契約書ノ寫ヲ添ユヘシ

第五十九條 大藏大臣各省定額ノ繰越ヲ承認シタルトキハ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

第二款 過年度支出

第六十條 過年度ニ屬スル經費ノ支出ヲ爲ストキハ現年度各省定額ニ對シ仕拂命令ヲ發スヘシ

(二十六年勅令第百十二號ヲ以テ改正)

第六十一條 (二十六年勅令第百十二號ヲ以テ削除)

第六十二條 第六十條ニ據リ支出セントスル經費ノ金額ハ豫備金ヲ以テ補充シ得ヘキモノ、外其

經費所屬年度ノ豫算ニ於テ該經費ノ屬スル毎項定額中不用トナリタル金額ヲ超過スヘカラス

第三款 定額戻入

第六十三條 仕拂命令會計法第二十三條但書ニ據リ定額ノ戻入ヲ爲サントスルトキハ其旨ヲ金庫ニ通知スヘシ(二十六年勅令第百十二號ヲ以テ改正)

第六十四條 金庫ハ定額ニ戻入ヲ爲シタルトキハ其旨ヲ仕拂命令官ニ通知スヘシ(二十六年勅令第百十二號ヲ以テ改正)

第六十五條 各年度ニ屬スル定額戻入ヲ爲スハ翌年度五月三十一日ヲ過クルコトヲ得ス(二十六年勅令第百十二號三十五年第二十二號ヲ以テ條中刪除)

第六十六條 (二十六年勅令第百十二號ヲ以テ削除)

第七章 政府ノ工事及物件ノ賣買貸借

第一款 總則

第六十七條 各省大臣千圓以上ノ工事ニ付テハ竣功ノ後其工事ヲ監督シタル官吏又ハ技術者ヲシ

テ之カ調書ヲ作ラシムヘシ(二十六年勅令第百十二號ヲ以テ本項追加)

契約ニ據リ工事ノ既濟部分又ハ物品ノ既納部分ニ對シ完濟前ニ代價ノ一部分ヲ仕拂ハントスル

トキハ各省大臣ハ特ニ検査ノ官吏ヲ命シテ事實ヲ測定シ其調書ヲ作ラシムヘシ

仕拂命令官ハ前各項ノ調書ニ據ルニアラサレハ仕拂命令ヲ發スルコトヲ得ス(二十六年勅令第百十二號ヲ以テ本項中ヲ改正)

(改正)



第六十八條 前條第二項ノ仕拂ヲ爲サントスルトキハ工事ニ付テハ其既濟部分ニ對スル代價ノ十分ノ九物品ニ付テハ其既納部分ニ對スル代價ヲ超ユヘカラス但箇々ニ分立シ得ヘキ性質ノ工事ニ於ケル各箇ノ完濟部分ニ對シテハ其代價ノ全額マテヲ仕拂フコトヲ得(三十五年勅令第二百號ヲ以テ本條改正)

第六十九條 工事又ハ物品供給ノ競争ニ加ハラントシ若クハ其契約ヲ結ハントスル者ハ其工事又ハ物品ノ供給ニ二年以來從事スルコトヲ證明スヘシ

各省大臣ハ工事又ハ物品ノ性質ニ依リ必要アルトキハ前項ノ外特ニ省令ヲ以テ其競争者ノ資格ヲ定ムルコトヲ得(二十六年勅令第百十號ヲ以テ本項追加)

工事又ハ物品賣買ノ競争ニ加ハラントシ若クハ其契約ヲ結ハントスル者ハ現金又ハ公債證書ヲ以テ保證金ヲ納ムヘシ(二十六年勅令第百十二號ヲ以テ本項中物品供給ヲ物品賣買ト改ム)

第六十九條ノ二 各省大臣ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スト認メタル者ハ爾後二箇年間工事又ハ物品賣買ノ競争ニ加ハルコトヲ得ス其之ヲ代理人支配人番頭又ハ手代トシテ使用シタル者亦同シ

(三十五年勅令第二百號ヲ以テ本條追加)

- 一 工事又ハ物品供給ノ契約ヲ履行スルニ當リ故意ニ工事又ハ物品ヲ粗雜ニシタル者
- 一 競争ニ際シ漫ニ價格ヲ競上ケ若クハ競下クルノ目的ヲ以テ連合ヲ爲シタル者
- 一 競争ノ加入ヲ妨害シ若クハ競落者ノ契約履行ヲ妨害シタル者
- 一 工事又ハ物品ノ検査監督ニ際シ掛員ノ職務執行ヲ妨ケタル者
- 一 前各號ニ該當スト認メラレタル後二箇年ヲ經過セサル者ヲ工事請負又ハ物品賣買ニ際シ代

理人支配人番頭又ハ手代トシテ使用スル者

第六十九條ノ三 前條ニ該當シタル者ヲ入札代理人トシテ使用スル者ハ競争ニ加ハルコトヲ得

(同上)

第七十條 前條ノ保證金ハ左ノ制限ニ據リ各省大臣之ヲ定ムヘシ

第一 競争ニ加ハラントスル者ハ其事項ノ見積代金ノ百分ノ五以上

第二 契約ヲ結ハントスル者ハ其事項ノ代金ノ百分ノ十以上

第七十一條 競争ノ落札者請負又ハ賣買ノ契約ヲ結ハサルトキハ其保證金ハ政府ノ所得トス(二十六年勅令第百十二號ヲ以テ請負ノ下又ハ賣買ノ四字ヲ加フ)

勅令第百十二號ヲ以テ請負ノ下又ハ賣買ノ四字ヲ加フ

第二款 競争契約

第七十二條 競争ハ總テ入札ノ方法ヲ以テ之ヲ行フヘシ

第七十三條 入札ノ方法ヲ以テ工事又ハ物件ノ賣買貸借ヲ契約セントスルトキハ其入札期日ヨリ

少ナクモ十五日以前ヨリ揭示又ハ官報新聞紙其他ノ方法ヲ以テ成ルヘク廣ク公告スヘシ但シ要

急ノ場合ニ於テハ公告期間ヲ七日迄ニ短縮スルコトヲ得(三十五年勅令第二百號ヲ以テ但書追加)

第七十四條 前條ノ公告ニハ左ノ事項ヲ示スヘシ

第一 競争入札ニ附スル事項

第二 契約書案ヲ示ス場所及其契約ノ取結ヲ擔任スル官吏ノ官氏名

第三 競争執行ノ場所日限及時刻



第四 入札ノ保證金額

第七十五條 各省大臣若クハ其委任ヲ受ケタル官吏ハ其競争入札ニ付シタル工事又ハ物件ノ價格ヲ豫定シ其豫定價格ヲ封書トシ開札ノトキ之ヲ開札場所ニ置クヘシ

第七十六條 開札ハ公告ニ示シタル場所日限時刻ニ入札人ノ面前ニ於テ之ヲ行フヘシ但入札人出席セサルカ又ハ出席セサル者アルトキハ入札ニ關係ナキ官吏ヲシテ開札ニ立會ハシムヘシ(三十五年勅令第二百號ヲ以テ修正第二項ヲ追加ス)

勅令第二百號ヲ以テ修正第二項ヲ追加ス

入札人ハ一旦提出シタル入札書ノ引換變更又ハ取消ヲ爲スコトヲ得ス

競争加入ノ資格ナクシテ爲シタル者ノ入札ハ無効トス

第七十七條 開札ノ上ニテ各人ノ入札中一モ第七十五條ニ據リ豫定シタル價格ノ制限ニ達セサルトキハ直ニ出席入札人ヲシテ再度ノ入札ヲ爲サシムルコトヲ得(三十五年勅令第二百號ヲ以テ修正)

第七十八條 落札トナルヘキ同價ノ入札ヲ爲シタル者數名アルトキハ直ニ抽籤ヲ以テ落札人ヲ定ムヘシ(三十五年勅令第二百號ヲ以テ修正)

第七十九條 競争ノ落札者請負又ハ賣買貸借ノ契約ヲ結ハサルトキハ更ニ競争ヲ行フヘシ但本條ノ場合ニ於テハ第七十三條ノ期限ヲ七日マテニ短縮スルコトヲ得(二十六年勅令第百十二號ヲ以テ請負ノ下又ハ賣買貸借ノ六字並ニ但書ヲ加)

第八十條 工事及物件ノ賣買貸借契約書ニハ其契約セントスル事項ノ細密ナル設計、仕譯、落成期限、受渡期限、保證金額、契約違背ノトキ保證金ニ對スル處分、其他一切必要ナル條件ヲ揭

クヘシ

第八十一條 契約ハ各省大臣若クハ特ニ其委任ヲ受ケタル官吏其契約書ニ署名捺印スルニアラサレハ確定セサルモノトス

第三款 隨意契約

第八十二條 隨意契約書ハ第八十條及第八十一條ニ準據シ之ヲ作ルヘシ但一口千圓未満ノ隨意契約ノ場合ニ於テハ本文ノ契約書ヲ省畧スルコトヲ得(二十六年勅令第百十二號ヲ以テ但書以下改正三十五年同第百號ヲ以テ修正)

第八十三條 隨意契約ノ場合ニ於テハ各省大臣ノ見込ニヨリ第六十九條ノ規定ニ據ラサルコトヲ得(三十五年勅令第二百號ヲ以テ修正)

第八章 出納官吏

第一款 收入官吏、現金前渡ヲ受ケタル官吏(二十六年勅令第百十二號ヲ以テ修正)

第八十四條 出納官吏ハ其責任ニ屬スル會計ニ付自身ニ事務ヲ執ラサルヲ理由トシテ其責任ヲ免

ルコトヲ得ス但各省大臣ノ命令ヲ以テ特ニ其代理官若クハ分任官ヲ定メタルトキ其代理官若クハ分任官ノ所爲ニ付テハ本條ノ限ニアラス(二十六年勅令第百十二號ヲ以テ但書改正)

前項代理官ハ出納官吏ノ事務ノ全部ヲ代理シ分任官ハ其一部ヲ分掌スルモノトス(二十六年勅令第百十二號ヲ以テ追加)

第八十五條 各省大臣ノ命シタル出納官吏代理官若クハ分任官ハ其所爲ニ付會計法第二十六條ノ責任ヲ免ル、コトヲ得ス(二十六年勅令第百十二號ヲ以テ修正)

二十二年大藏省令第十號ヲ以テ現行規則ニ出納官吏ノ金取規則



第八十六條 出納官吏ハ現金前渡及現金收入ニ關シ大藏大臣ノ指揮監督ヲ受ク(二十六年勅令第百一十二號ヲ以テ改正)

第八十七條 (二十六年勅令第百一十二號ヲ以テ削除)

第八十八條 各省大臣ハ所屬出納官吏ノ所爲ニ由リ政府ノ損失ヲ生シタリト認ムル場合ニ於テハ會計検査院ノ判決以前ト雖モ其出納官吏ニ向テ辨償ヲ命スルコトヲ得

第八十九條 前條ノ場合ニ於テ其辨償ヲ命セラレタル出納官吏負擔ノ責ヲ免ルヘキ理由アリト信スルトキハ計算書ヲ作り證憑書類ヲ添へ本屬大臣ヲ經由シテ之ヲ會計検査院ニ送付シ其判決ヲ

求ムルコトヲ得

各省大臣ハ前項ノ場合ト雖モ其命シタル損失金ノ辨償ヲ猶豫セス

會計検査院ニ於テ其出納官吏ニ向テ辨償ノ責ナシト判決シタルトキハ其既納ニ係ル辨償金ハ直

ニ之ヲ還付ス

第九十條 (二十六年勅令第百一十二號ヲ以テ削除)

第九十一條 收入官吏及現金前渡ヲ受ケタル官吏ノ帳簿金櫃ハ毎年三月三十一日若クハ該官吏轉免死亡停職ノトキ本屬大臣検査員ヲ命シテ之ヲ検査セシムヘシ但臨時ニ現金前渡ヲ受ケタル官

吏ノ帳簿金櫃ハ定時ノ検査ヲ要セス(三十三年勅令第百二十七號ヲ以テ本項中削除)

大藏大臣又ハ各省大臣ハ必要ト認ムルトキハ臨時ニ検査員ヲ命シテ現金ヲ領收スル收入官吏及

現金前渡ヲ受ケタル官吏ノ帳簿金櫃ヲ検査セシムルコトアルヘシ

第九十二條 前條ノ検査ヲ執行スルニ當リ主務ノ出納官吏事故ニ由リ自身検査ヲ受ル能ハサルト

キハ其代理者若クハ特ニ本屬大臣ノ命シタル官吏ニ於テ立會ヲ爲スヘシ

第九十三條 收入官吏及現金前渡ヲ受ケタル官吏ノ帳簿金櫃ヲ検査シタルトキハ其檢定書二通ヲ

製シ検査員及主務ノ出納官吏若クハ立會人之ニ署名シ一通ハ該官吏若クハ立會人ニ交付シ一通

ハ本屬大臣ニ提出スヘシ(三十三年勅令第百二十七號ヲ以テ條中削除)

第九十四條 收入官吏及現金前渡ヲ受ケタル官吏他ノ公金ノ出納ヲ兼掌スルトキハ別ニ検査ノ方

法アルニ拘ハラス金櫃ノ検査ヲ執行スル場合ニ於テハ他ノ公金ヲ併セテ検査ヲ行フヘシ(同上)

第九十五條 (三十三年勅令第百二十七號ヲ以テ本條削除)

第九十六條 (同上)

第九十七條 收入官吏ハ會計検査院ノ検査判決ヲ受クル爲メ一年度内ニ執行シタル出納ノ計算書

ヲ調製シ證憑書類ヲ添へ歳入ヲ徵收スル官吏ニ送附シ歳入ヲ徵收スル官吏ハ其下検査ヲ執行シ

下検査書ヲ添へ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ(三十三年勅令第百二十七號ヲ以テ改正)

第九十八條 現金前渡ヲ受ケタル官吏ハ會計検査院ノ検査判決ヲ受クル爲メ毎月仕拂計算書ヲ調

製シ證憑書類ヲ添へ仕拂命令官ニ送付シ仕拂命令官ハ其下検査ヲ執行シ下検査書ヲ添へ之ヲ會

計検査院ニ送付スヘシ但行軍費航海費ノ如キハ行軍若クハ航海ノ終リタルトキハ本條ノ手續ヲ

爲スコトヲ得(三十五年勅令第百二十七號ヲ以テ條中改正)

第九十八條ノ二 分任出納官吏ノ出納ハ總テ主任出納官吏ノ計算トシテ取扱ヒ其報告書及計算書

ハ各別ニ提出ヲ要セス但各省大臣若クハ會計検査院ニ於テ必要ト認ムルトキハ特ニ分任出納官



吏ヲシテ報告書又ハ計算書ヲ提出セシムルコトアルヘシ(二十六年勅令第百十號ヲ以テ本條追加)

第九十九條 出納官吏交替ヲ爲シタルトキハ其在職期限間ニ執行シタル會計ノ計算書ヲ調製シ第

九十七條第九十八條ノ手續ヲ爲スヘシ(三十五年勅令第二百號ヲ以テ條中改正)

第百條 出納官吏死亡其他ノ事故ニ由リ自身ニ計算書ヲ調製スル能ハサルトキハ各省大臣特ニ命

シタル官吏ヲシテ之ヲ調製セシムヘシ

出納官吏定期内ニ計算書ヲ送付セザルトキハ各省大臣ハ他ノ官吏ニ命シテ之ヲ調製セシムヘシ

本條ニ據リ調製シタル計算書ハ出納官吏ノ自身ニ調製シタルモノト見做シ會計検査院ニ於テ檢

査判決ヲ爲スヘシ

第百一條 出納官吏ノ計算書ハ提出ノ後修正變更スルコトヲ得ス

第百二條 會計法第二十八條ニ據リ出納官吏ノ納ムヘキ身元保證金額ハ各省大臣之ヲ定メ會計檢

査院ニ通知スヘシ(三十五年勅令第二百號ヲ以テ條中改正)

出納官吏相當ノ資産アル者二人以上ヲ以テ保證人ト爲ストキハ各省大臣前項ノ身元保證金ノ全

部若クハ一部ヲ免除スルコトヲ得此場合ニ於テハ各省大臣ヨリ其保證人ノ住所氏名職業ヲ會計

検査院ニ通知スヘシ但保證人ノ責任ハ免除シタル保證金額ニ止ルモノトス(二十六年勅令第百十二號ヲ以テ本項中ヲ削除シ三

十二年勅令第百二十七號ヲ以テ但書ヲ追加ス) 第百三條 身元保證金ハ現金ヲ以テ納ムヘシ但公債證書若クハ土地ヲ以テ現金ニ代用スルコトヲ

得

第百四條 身元保證ノ現金ハ大藏省「預金局」通常預金ノ利子ヲ付スヘシ

身元保證ニ供スル公債證書若クハ土地ハ出納官吏ヨリ各省大臣若クハ各省大臣ノ指定シタル官

吏ニ書入トシ其土地ハ出納官吏ノ私費ヲ以テ登記ヲ受クヘシ(二十六年勅令第百十二號三十五

年勅令第百二十五號ヲ以テ條中改正) 第百五條 會計検査院ノ判決ニ依リ各省大臣出納官吏ノ損失金辨償ヲ命シタル場合ニ於テ其指定

シタル期限内ニ出納官吏ヨリ損失金ノ辨償ヲ爲サ、ルトキハ其身元保證金ヲ以テ辨償ニ充ツヘシ

前項ノ場合ニ於テ身元保證金ニ代用シタル公債證書若クハ土地ハ各省大臣之ヲ公賣ニ付シ其代

價ヨリ公賣ニ關スル費用及損失金額ヲ差引シ剩餘アルトキハ出納官吏ニ返付スヘシ(二十六年勅令

十五年勅令第二百號ヲ以テ條中改正)

保證人ヲ以テ身元保證金ノ免除ヲ得タル官吏損失金ノ辨償ヲ命セラレタル場合ニ於テ辨償スル

コトヲ能ハサルトキハ其保證人ヲシテ損失金ヲ辨償セシムヘシ

第百六條 前條ノ場合ニ於テ出納官吏ノ身元保證金ヲ以テ損失金ノ辨償ニ充ルニ足ラザルトキハ

其不足ハ出納官吏ヨリ徴收スヘシ(三十三年勅令第百二十號ヲ以テ條中削除)

第百七條 出納官吏數職ヲ兼務シタルカ爲メ各職毎ニ身元保證ヲ爲シタルトキト雖モ身元保證金

ハ出納官吏ノ責任其何職ヲ行ヒタルヨリ生シタルヲ問ハス流用シテ辨償ニ充ツヘシ

第百八條 (三十五年勅令第百號ヲ以テ削除)



第一百九條 (上同)

第一百十條 出納官吏ノ身元保證金ハ其解職後會計検査院ニ於テ其官吏ノ執行シタル會計事務ニ付責任解除ヲ與ヘタル後ニ非サレハ之ヲ還付セス

第二款 金庫出納役

第一百十一條 會計法第三十一條ニ據リ國庫金ノ取扱ヲ日本銀行ニ命シタル場合ニ於テハ日本銀行總裁ハ金庫出納役トシテ金庫ノ出納ヲ掌ルヘシ(三十五年勅令第二百一號ヲ以テ條中改正)  
金庫出納役ハ會計検査院ノ検査判決ヲ受クル爲メ一年度内ニ執行シタル出納ノ計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ(二十六年勅令第二百一十二號ヲ以テ本項中ヲ改正ス)  
金庫出納役ハ會計検査院ノ検査ヲ受クル爲メ毎月各金庫出納内譯書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ大藏大臣ニ送付スヘシ(二十六年勅令第二百一十二號ヲ以テ次項共追加)

大藏大臣ハ前各項ノ出納計算書及内譯書ヲ調査シ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

第九章 帳簿

第一百十二條 大藏省ハ日記簿原簿補助簿ヲ備ヘ國庫ノ計算ニ入ルヘキ一切現金ノ出納ヲ登記スヘシ

第一百十三條 大藏省ハ歳入歳出ノ主計簿ヲ備ヘ總テ歳入ノ豫算額、調定濟額、收入濟額、不納缺損額、收入未濟額、歳出ノ豫算額、豫算決定後増加額、仕拂命令濟額、翌年度繰越額、殘額ヲ登記スヘシ(三十五年勅令第二百一號ヲ以テ本條改正)

第一百十四條 歳入ヲ徵收スル官吏ハ徵收簿ヲ備ヘ歳入ノ種類ヲ區分シ調定濟額、收入濟額、不納缺損額、收入未濟額ヲ登記スヘシ(三十三年勅令第二百一十七號ヲ以テ改正)

第一百十五條 歳入ノ事務管理廳ハ歳入簿ヲ備ヘ歳入ノ種類ヲ區分シ歳入ノ豫算額、調定濟額、收入濟額、不納缺損額、收入未濟額ヲ登記スヘシ(三十五年勅令第二百一號ヲ以テ條中改正)

第一百十六條 金庫出納役ハ支出簿ヲ備ヘ歳出ノ科目ヲ區分シ仕拂豫算額、仕拂命令受領濟額ヲ登記スヘシ(二十六年勅令第二百一號ヲ以テ條中改正)

第一百十七條 (二十六年勅令第二百一號ヲ以テ削除)

第一百十八條 收入官吏、現金前渡ヲ受ケタル官吏及金庫出納役ハ現金出納簿ヲ備ヘ現金ノ出納ヲ登記スヘシ(三十三年勅令第二百一十七號ヲ以テ條中改正)

第一百十九條 各年度經過後七箇月ノ末日ニ於テ大藏大臣ハ會計検査官立會ノ上ニテ大藏省ニ備ヘタル主計簿ヲ締切ルヘシ(三十五年勅令第二百一號ヲ以テ條中改正)

第十章 雜則

第一百二十條 本規則ニ據リ當該官吏及金庫出納役ヨリ會計検査院ニ提出スル所ノ證明書ニ關スル規程様式ハ會計検査院ニ於テ之ヲ定ムヘシ(二十六年勅令第二百一號ヲ以テ條中改正)

第一百二十一條 前條ノ外本規則ニ掲クル諸計算書仕拂命令領收證ノ様式ハ大藏大臣之ヲ定ムヘシ

第一百二十二條 帳簿ノ様式及記入ノ方法ハ大藏大臣之ヲ定ムヘシ



第二百二十三條 本規則ハ明治二十三年四月一日ヨリ施行ス  
本規則ト牴觸スル命令ハ本規則施行ノ日ヨリ總テ廢止ス

●會計年度開始前現金支出規則明治二十二年七月  
勅令第九十五號

朕會計年度開始前現金支出規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

會計年度開始前現金支出規則

第一條 各省大臣ハ會計法第十五條第二項ニ依リ現金前渡ヲナスニ當リ該年度ノ未タ開始セサルトキハ其前渡ヲ要スル經費ヲ算定シ其計算書ヲ作り大藏大臣及會計検査院ニ送付スヘシ(二十六年勅令第二  
百三號ヲ以テ本條  
中ヲ改  
正ス)

第二條 大藏大臣前條計算書ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ヲ金庫ニ令達スヘシ(二十六年勅令第二  
百三號ヲ以テ改正)

第三條 前各條ニ定メタルモノノ外仕拂命令發付ノ方法及該仕拂命令ニ對スル仕拂ノ手續ハ總テ會計規則ニ依ル

●仕拂命令委任規程明治二十二年七月  
勅令第八十九號

朕仕拂命令委任規程ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

仕拂命令委任規程

第一條 各省大臣ハ他ノ官吏ニ委任シテ其所管定額ノ仕拂命令ヲ發セシムルトキハ會計規則第十一條

ニ據リ仕拂豫算額ヲ定メテ之ヲ委任スヘシ

第二條 委任ヲ受タル仕拂命令官ハ其發シタル仕拂命令ニ付責任ヲ有ス

●陸軍給與ニ關スル委任經理明治二十三年三月  
法律第二十七號

朕陸軍給與ニ關スル委任經理ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 陸軍軍隊ノ糧食被服消耗品陣營具及馬匹ニ係ル給與ハ其定額ヲ各隊ニ交付シ隊長ニ經理ヲ委任スルコトヲ得

第二條 陸軍諸學校生徒ニ屬スル給與其他軍隊ニ準據スヘキ必要アルモノハ勅令ヲ以テ之ヲ定メ經理ヲ委任スルコトヲ得

第三條 委任經理ニ係ル給與ノ殘金ハ各々其費目ニ屬スル積立金ト爲シ便宜之ヲ使用スルコトヲ得

第四條 委任經理ニ屬スル廢物賣却代及損壞遺失等ノ補償金ハ各々其經理費ニ充ルコトヲ得

第五條 委任經理ニ係ル會計ノ検査ハ會計検査院法第十六條ニ依ル

第六條 此法律ハ明治二十三年四月一日ヨリ施行ス

●出納官吏身元保證金明治三十五年八月  
勅令第二百五號

朕出納官吏身元保證金ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 各省大臣ハ必要ト認ムル場合ニ於テ現金若ハ物品ノ出納ヲ掌ル所ノ官吏ニ身元保證金納付ヲ



命スルコトヲ得

第二條 各省大臣ハ相當ト認ムル期間内ニ於テ身元保證金ノ分納ヲ許可スルコトヲ得

第三條 身元保證金ニ代用セムトスル公債證書及土地ノ價格ハ各省大臣ニ於テ相當ト認メタル時價ニ依ルヘシ

附則

第四條 本令施行前身元保證金ヲ納付シタル者ニシテ其ノ必要ヲ認メサルトキハ之ヲ拂戻スヘシ

第五條 明治二十三年勅令第四號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

●郵便爲替金及貯金ノ出納官吏身元保證金明治二十三年六月勅令第四百五號

朕郵便爲替金及郵便貯金ヲ取扱フ出納官吏ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 郵便爲替金及貯金ヲ取扱フ出納官吏ハ「明治二十三年勅令第四號第一條」ノ制限ニ依ラス身元保證金ヲ納ムヘシ

第二條 三等郵便電信局及三等郵便局ノ前條出納官吏ニハ「明治二十三年勅令第四號第二條」ノ但書ヲ適用セス

第三條 會計規則第四百四條第五百條及「明治二十三年勅令第四號第六條」ニ依リ大藏大臣ノ爲スヘキ職務ハ遞信大臣之ヲ行フヘシ

●勸業債券ヲ保證金ニ使用スルノ件明治三十三年十一月勅令第四百三十三號

朕勸業債券ヲ會計規則第六十九條及第三百三條ノ保證金ニ使用スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

日本勸業銀行法第三十四條ニ依リ發行シタル勸業債券ハ會計規則第六十九條及第三百三條ノ保證金ニ使用スルコトヲ得

身元保證金ニ代用セムトスル勸業債券ノ價格ハ「明治二十三年勅令第四號第三條」ノ例ニ依ル

●歳入歳出外現金出納取扱官吏ノ準則明治二十三年三月勅令第三十五號

朕政府ニ屬スル歳入歳出外ノ現金ヲ取扱フ出納官吏ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

政府ニ屬スル歳入歳出外ノ現金ヲ取扱フ出納官吏ニ關スル規則ハ會計規則第八章及第九章中現金ヲ領收スル收入官吏ニ關スル各條ニ準據ス

●出納官吏現金取扱規則二十二年十月大藏省令第十三號

出納官吏現金取扱規則左ノ通相定ム

出納官吏現金取扱規則

第一章 義務委託

第一條 金庫所在地ノ出納官吏ハ其取扱フ所ノ現金ヲ保管ノ爲メ其地ノ金庫ニ委託スヘシ

第二條 前條ニ據リ委託ヲ爲シタルトキハ出納官吏ハ其資格氏名ヲ記シタル印鑑ヲ金庫ニ送付スヘシ(二十三年大藏省令第四十一號ヲ以テ改正)

第十五類 郵便爲替金及貯金ノ出納官吏身元保證金 勸業債券ヲ保證金ニ使用スルノ件 出納官吏 二一九九

現金取扱規則



第三條 出納官吏ヨリ保管金ノ拂込ヲナストキハ金庫ハ其保管證書ヲ製シ保管金引出切符用紙ヲ添ヘ現金ト引換ニ之ヲ出納官吏ニ交付スヘシ(二十三年大藏省令第四十一號ヲ以テ改正)

第四條 出納官吏ノ職務ヲ任命シタル當該官ハ其義務委託ヲナスヘキ出納官吏ノ資格氏名ヲ金庫ヘ通知スヘシ(二十三年大藏省令第四十一號ヲ以テ改正)

但書追加) 但陸軍省海軍省ノ出納官吏資格氏名ハ其所屬長官ヨリ通知スヘシ

第五條 金庫ハ前條出納官吏資格氏名ノ通知ヲ受クルニ非サレハ現金ノ仕拂ヲナスヘカラス(二十三年大藏省令第四十一號ヲ以テ改正)

第六條 出納官吏ハ保管金ノ支拂ヲ金庫ニ請求セントスルトキハ總テ引出切符ヲ以テスヘシ

第七條 出納官吏ハ其委託シタル保管金ト同種ノ貨幣ヲ以テ仕拂ヲ請ハントスルトキハ拂込ノ際特ニ之ヲ金庫ニ求ムヘシ拂込ノ際特別ノ請求ナキモノハ總テ有合ノ通貨ヲ以テ仕拂フヘシ

第八條 出納官吏ハ其委託シタル保管金ヲ以テ收入又ハ返納ノ爲メ金庫ニ拂込ヲサントスルトキハ引出切符ヲ以テ拂込ヲナスヘシ

第九條 陸海軍隊費ニシテ現金仕拂ヲ要スル場合及廳中雜費工事費ニシテ小口ノ現金仕拂ヲ要スル場合ニ於テハ金庫所在地ニアリテモ所要ノ金額ニ限リ本規則第二章ニ據リ現金ヲ保管スルコトヲ得(三十一年大藏省令第六號ヲ以テ第十條第九條ニ改ム)

前項所要ノ金額ハ仕拂命令官ノ決定ム

第十條 出納官吏在勤地外ニ於テ取扱フ所ノ現金ハ本章ニ準シ便宜其地ノ金庫ニ委託スルコトヲ得(三十一年大藏省令第六號ヲ以テ本條追加)

第二章 隨意保管

第十一條 金庫ノ設ナキ場所ニ於テ現金ヲ保管スル所ノ出納官吏ハ堅牢ナル函ヲ備ヘ之ニ其保管ニ係ル現金及ヒ出納ノ帳簿ヲ藏置スヘシ

二人以上共同責任ヲ以テ現金ヲ保管スル場合ニ於テハ二箇以上ノ鎖鑰ヲ有スル堅牢ノ函ヲ備ヘ出納官吏其鎖鑰ヲ分管スヘシ

出納官吏現金ヲ攜帶シテ旅行スル場合ニ於テハ前二項ニ據ラス相當ノ保護法ヲ設クルコトヲ得

第十二條 出納官吏ノ保管ニ係ル現金ハ私有金ト混スルヲ得ス

第十三條 出納官吏他ノ公金ノ出納ヲ兼掌スルトキハ其現金ヲ官金ト同一ノ函中ニ藏置スルコトヲ得

第十四條 出納官吏ハ第十一條ニ據リ現金保管ヲナシ難キ場合ニ於テハ自己ノ責任ヲ以テ確實ナル銀行又ハ身代ノ確實ナル一私人ニ其保管スヘキ現金ノ保管ヲ托スルコトヲ得

第三章 拂込

前項ノ場合ニ於テハ私金ト區別シ其計算ヲ混スヘカラス

第十五條 金庫所在地ノ收入官吏租稅其他ノ收入金ヲ領收シタルトキハ毎日之ヲ取纏メ拂込書ヲ添ヘテ翌日マテニ金庫ニ拂込ムヘシ但收入金額五拾圓未満ナルトキハ每一ヶ月取纏メ金庫ニ拂込ムコトヲ得(三十四年大藏省令第二)

第十六條 金庫ノ設置ナキ地方ノ收入官吏租稅其他ノ收入金ヲ領收シタルトキハ左ノ制限ニ從ヒ之ヲ取纏メ拂込書ヲ添ヘテ其在勤地ヲ出納區域トスル金庫若クハ歳入徵收官ノ指定シタル金庫ニ拂込ムヘシ但次條ニ定メタル場合ハ此限ニアラス(三十四年大藏省令第二十條改正)

第一 收入金高五拾圓未満ハ 每一箇月

第二 收入金高百圓未満ハ 毎十日

第三 同參百圓未満ハ 毎五日

第四 同參百圓以上ハ 翌日限

金庫所在地ノ收入官吏ニシテ金庫設置ナキ地方ニ於テ租稅其他ノ收入金ヲ領收シタル場合ハ前項ニ準ス

第十七條 運輸通信ノ不便ナル地方ニシテ金庫ノ設置ナキ場合ニ於テ收入官吏租稅其他ノ收入金ヲ領收シタルトキハ其金額ノ監守證ヲ作り最近便ヲ以テ其在勤地ヲ出納區域トスル金庫ニ送付スヘシ(上)

但外國ニ於テ領收シタル收入金ノ監守證ハ中央金庫ヘ送付スヘシ

第十八條 金庫ハ前條ノ場合ニ於テ收入官吏ト同場所又ハ其場所ト爲替送金ノ便アル地方ニ於テ仕拂フヘキ仕拂命令ヲ受ルトキハ收入官吏ノ監守證ニ領收證ヲ添ヘテ之ヲ受取人ニ送付スヘシ(二十六年大藏省令第二十五號ヲ以テ監守證ニノ下ノ別符付ノノ四字ヲ削ル)

但仕拂命令ノ金額ニシテ監守證ノ金額ヨリ小額ナルトキハ領收證金額ノ右方ニ何年何月何日第何號監守證金何圓ノ内下附記シ受取人ニ送付シ監守證ノ金額盡キタルトキニ其監守證ヲ收入官吏ニ送付スヘシ(三十三年大藏省令第四號ヲ以テ但書追加)

第十九條 收入官吏ハ前條ノ受取人ヨリ監守證ニ領收證ヲ添ヘ若クハ但書ノ領收證ヲ以テ現金ノ拂込ヲ請求セラルトキハ之ト引換ニ現金ヲ交付スヘシ(三十三年大藏省令第四號ヲ以テ本條改正)

雜則

第二十條 本規則ハ收入官吏現金前渡ヲ受タル官吏特別會計ニ係ル官金出納官吏ニ適用ス

第二十一條 本規則ハ明治二十三年四月會計法施行ノ日ヨリ施行ス



●國庫金出納上一時貸借方明治二十七年六月法律第十六號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル國庫金出納上一時貸借ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 政府ハ國庫金出納上一會計年度間餘裕アルトキハ相當ノ利子ヲ徵シテ之ヲ當座預又ハ定期預トシテ日本銀行ニ預ケ入ル、コトヲ得

第二條 政府ハ國庫金出納上一會計年度間一時不足ヲ生スルトキハ相當ノ利子ヲ附シ日本銀行ヨリ借入ヲ爲スコトヲ得

第三條 前條ニ依リ政府ノ借入ル、コトヲ得ヘキ金額ハ大藏省證券發行額ト合セテ當該年度該證券ノ發行最高額ヲ超過スルコトヲ得ス

●在外公館ニ於テ會計規則ニ定メタル手續省略方明治三十年三月勅令第五十八號

朕在外公館ニ於テ會計規則ニ定メタル手續ヲ省略スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 公使館領事館及貿易事務館收入官吏ノ領收シタル現金ヲ金庫ニ拂込ムヘキ期限及收入報告調製ノ期限ハ每三箇月一回若ハ數回ト爲スコトヲ得

第二條 公使館領事館及貿易事務館出納官吏ノ仕拂ヒタル現金ノ計算書調製及其ノ證憑書類送付ノ期限ハ外務大臣ニ於テ每三箇月一回若ハ數回ト爲スコトヲ得

第三條 公使館領事館及貿易事務館ニ於テ工事又ハ物件ノ賣買貸借ヲ爲スニ當リ隨意契約ニ依ルトキ

ハ一口二千圓未滿ニ限リ會計規則第八十二條ノ契約書ヲ省略スルコトヲ得

●前金渡

●在外公館經費中前金拂ノ費目明治二十三年三月勅令第三十二號

朕在外公館經費中前金拂ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

在外公館經費中左ノ費目ハ前金拂ヲ爲スコトヲ得

租 稅 區費其他雜稅 公館借料

●在外海軍用地租稅前金拂ノ件明治二十四年三月勅令第二十四號

朕在外海軍用地租稅前金拂ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍省所管經費中左ノ費目ハ前金拂ヲ爲スコトヲ得

在外海軍用地租稅

●艦船經費一時繰替支辨方明治三十年四月勅令第二百二十七號

朕艦船經費一時繰替支辨ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍省所管機動費ノ現金前渡ヲ受ケタル出納官吏ハ其ノ現金ヲ以テ艦船經費ニ限リ一時繰替支辨

第十五類

國庫金出納上一時貸借方 在外公館ニ於テ會計規則ニ定メタル手續省略方 在外公館經費  
中前金拂ノ費目 在外海軍用地租稅前金拂ノ件 艦船經費一時繰替支辨方



スルコトヲ得

●在外國難民貸與金一時繰替支辨方明治二十四年一月勅令第一號

朕在外國難民貸與金一時繰替支辨ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
帝國公使館若ハ領事館ニ於テ現金前渡ヲ受ケタル出納官吏ハ其現金ヲ以テ最初前渡ヲ受ケタル目  
的ノ外難民貸與金ニ限リ一時繰替支辨スルコトヲ得

●陸軍武官外國駐在手當馬飼料前金渡方明治二十九年四月勅令第五十八號

朕外國駐在視察陸軍武官駐在手當馬飼料前金渡ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
外國駐在視察陸軍武官ノ駐在手當及馬飼料ハ六箇月分以内ニ於テ前金渡ヲ爲スコトヲ得

●海軍將校生徒及機關生徒手當金前金渡方明治二十九年三月勅令第二十三號

朕海軍將校生徒及機關生徒手當金前金渡ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
海軍將校生徒及機關生徒ノ手當金ハ入校ノ時及遠洋航海出發ノ時ニ限リ六箇月分以内ノ前金渡ヲ  
爲スコトヲ得

●艦船ノ乘員俸給前渡ノ場合明治二十三年七月勅令第五十號

朕艦船ノ乘員俸給前渡及糧食料前渡ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

艦船ノ乘員三箇月以上ノ航海ヲ爲ストキハ出航ノ際翌月マテノ俸給ヲ前金渡スルコトヲ得(三十四年勅令  
第百八十三號ヲ以テ次項削除)

●海軍望樓在勤官吏俸給前金渡方明治二十五年九月勅令第七十四號

朕海軍望樓在勤官吏俸給前金渡ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

三箇月以上通信杜絶ノ地方ニ在ル「海軍炭庫」及海軍望樓在勤官吏ノ俸給ハ半箇年分以内ニ於テ前  
金渡スルコトヲ得(三十五年勅令第百九十  
九號ヲ以テ本令中改正)

●旅費其外概算渡前金渡方明治二十二年十一月勅令第百二十一號

朕旅費其外概算渡前金渡ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 内國及外國出張ヲ命シタル者ノ旅費ハ旅行ノ見積リ行程及日數ニ依リ概算渡ヲ爲スコト  
ヲ得

第二條 外國留學ヲ命シタル者ニ支給スル學資金及諸手當ハ給額半箇年分以内ニ於テ前金渡ヲ爲  
スコトヲ得

第三條 府縣稅又ハ地方稅ノ補助トシテ國庫ヨリ支出スル府縣警察費連帶支辨金、府縣傳染病豫

第十五類

在外國難民貸與金一時繰替支辨方 陸軍武官外國駐在手當馬飼料前金渡方 海軍將校生徒  
及機關生徒手當金前金渡方 艦船ノ乘員俸給及糧食料前渡ノ場合 海軍炭庫在勤官吏俸給  
前金渡方 旅費其外概算渡前金渡方



防費蠶種検査費國庫補助金及北海道沖繩縣ニ於ケル區町村間切傳染病豫防費國庫補助金ハ豫算ニ依リ概算渡ヲ爲スコトヲ得(三十二年勅令第百九十七號ヲ以テ改正)

第四條 本令ハ明治二十三年四月一日ヨリ施行ス

●海軍々人軍屬旅費前金渡方明治三十一年三月勅令第四十六號

朕海軍々人軍屬ニ旅費前金渡ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍軍人軍屬ニシテ左ノ事項ニ該當スル者ニハ出發ノ際順路ノ行程ニ應シ旅費前金渡ヲ爲スコトヲ得

- 一 准士官以上及下士卒豫備後備退役若ハ免官免役歸休兵ト爲リ歸郷スルトキ
- 二 准士官以上及下士卒並ニ歸休兵ニシテ海軍召集令ニ依リ召集地ニ旅行シ若ハ召集地ヨリ歸住スルトキ及准士官以上召集中ニ死亡シ居住地迄旅費ヲ支給スルトキ
- 三 下士卒及軍艦乗組備人艦船團其ノ他各部ノ勤務ヲ命免セラレ旅行スルトキ若ハ傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ入院退院シ若ハ施療場所ヲ移轉セシムルトキ
- 四 下士卒刑期滿限ニ依リ所轄艦船團其ノ他各部ニ復歸スルトキ
- 五 軍艦乗組備人解備ト爲リ備入地マテ旅行スルトキ

附 則

本令ハ明治三十一年四月一日ヨリ施行ス

●陸軍召集旅費支給方明治三十年三月法律第十三號

沿革略記

明治二十七年九月法律第二十三號ヲ以テ陸軍召集旅費支給ノ件ヲ制定ス●三十年三月法律第十三號ヲ以テ前令ヲ廢シ更ニ陸軍召集旅費支給方ヲ定ム

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル明治二十七年法律第二十三號改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

戰時若ハ事變ニ際シ召集スル在郷ノ陸軍軍人及兵役義務アル者並之ヲ引率スヘキ者ニ支給スヘキ旅費召集諸費ニ付テハ市町村長市ノ區長並戸長及之ニ準スヘキ者ニ現金仕拂ヲ爲サシムル爲現金前渡ノ仕拂命令ヲ發スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ市町村長市ノ區長並戸長及之ニ準スヘキ者ニ對シ會計法第九章ニ定ムル出納官吏ニ關スル規定ヲ適用ス

平時在郷ノ陸軍軍人及兵役義務アル者ヲ召集スル場合ニ在テモ前諸項ヲ適用スルコトヲ得

●前金渡概算渡ノ返納金ヲ定額ニ戻入スル取扱規程明治二十二年十二月會計法第二十三條但書ニ依リ前金渡概算渡ノ返納金ヲ定額ニ戻入スルノ取扱規程ヲ定ム

前金渡概算渡ノ返納金ヲ定額ニ戻入スル取扱規程

第一條 前金渡概算渡ノ返納金ニシテ經費ノ定額ニ戻入ヲ要スルモノアルトキハ仕拂命令官ヨリ返納人ニ對シ返納告知書ヲ發シ同時ニ通知書ヲ金庫ニ送付スヘシ(二十六年大藏省令第二十六號ヲ以テ條中改正)

第二條 返納人ハ返納告知書ニ現金ヲ添ヘ其返納告知書ニ指定シタル金庫ニ之ヲ拂込ムヘシ(上同)

第十五類 海軍軍人軍屬旅費前金渡方 陸軍召集旅費支給方 前金渡概算渡ノ返納金ヲ定額ニ戻入ス 二二〇七

ル取扱規程



第三條 金庫ハ現金ヲ領收シタルトキハ其領收證書ヲ返納人ニ交付シ其通知書ハ直チニ當該任拂命令官ニ送付スヘシ(二十六年大藏省令第二十六號ヲ以テ本條改正)

第四條 前金渡概算渡ノ返納金ニシテ經費ノ定額ニ戻入ヲ要セサルモノハ通常歲入金取扱手續ニ依リ返納人チシテ金庫又ハ收入官吏ニ納入セシムヘシ

第五條 本規程ニ依リ發スル返納告知書ハ左ノ書式ニ依リ調製スヘシ(書式略)

●郵便局經費渡切規則明治三十六年三月 勅令第四十四號

朕郵便局經費渡切規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

郵便局經費渡切規則

第一條 遞信大臣ハ其ノ特ニ指定シタル郵便局ニ限リ經費ノ一部ヲ渡切ヲ以テ當該局長ニ交付スルコトヲ得其ノ歲出科目ノ區分ハ大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

第二條 渡切經費金ハ年額ヲ十二分シテ毎月之ヲ交付ス但シ土地ノ狀況ニ依リ必要ト認ムルトキハ數月分ヲ交付スルコトヲ得

附則

本令ハ明治三十六年度分ヨリ之ヲ施行ス

●國債ニ關スル支拂及收入金決算方明治二十三年三月 勅令第二十號

朕國債ニ關スル支拂及收入金決算ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 會計法第十五條第二項ニ依リ國債元利金仕拂ノ爲メ銀行ニ現金ノ前渡ヲ爲シタルトキハ會計規則第九十八條ニ準シ銀行ヲシテ其仕拂ヲ會計検査院ニ證明セシムヘシ

第二條 法律命令ニ依リ日本銀行ヲシテ國債ノ募集又ハ借入ヲ取扱ハシムルトキハ日本銀行ハ大藏大臣定ムル所ノ期限ニ出納ノ計算書ヲ製シ會計検査院ノ検査判決ヲ受ル爲メ之ヲ大藏省ニ送付スヘシ

第三條 大藏省國債局長ハ前條計算書ノ下検査ヲ施行シ其下検査書ヲ添ヘ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

●歲入歲出豫算概定順序二十二年三月 閣令第十二號

第一條 歲入ノ事務管理廳ハ毎年度歲入概算書ヲ調製シ前年度五月三十一日マテニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ(二十六年閣令第二號ニ送付スヘシ)(二十六年閣令第二號ニ送付スヘシ)

第二條 歲入概算書ハ經常ト臨時トニ大別シ更ニ之ヲ款項目ニ區分シ前年度ノ豫算ニ比シ増減ノ理由ヲ説明スヘシ

第三條 各省大臣ハ毎年度歲出概算書ヲ調製シ前年度五月三十一日マテニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ(二十六年閣令第二號ニ送付スヘシ)(二十六年閣令第二號ニ送付スヘシ)

第四條 歲出概算書ハ各省ノ所管經費ヲ經常ト臨時トニ大別シ更ニ之ヲ款項ニ區分シ前年度ノ豫算ニ比シ増減ノ理由ヲ説明スヘシ

第五條 大藏大臣ハ各廳ノ歲入概算書及歲出概算書ヲ檢案シ歲入出ヲ對照調理シ歲入出總概算書



ヲ調製シ前年度六月三十日マテニ之ヲ閣議ニ提出スヘシ(二十六年閣令第二號  
ヲ以テ條中ヲ改正ス)

第六條 歳入出總概算書ハ歳入出共ニ經常ト臨時トニ大別シ更ニ之ヲ款項ニ區分シ前年度ニ比シ増減ノ理由ヲ説明スヘシ

第七條 内閣ニ於テハ前年度七月十五日マテニ歳入出總概算書ヲ決定スヘシ(二十六年閣令第二號  
ヲ以テ條中ヲ改正ス)

第八條 各省大臣ハ内閣ニ於テ決定シタル各省所管經費毎項ノ概算額以内ニ於テ節約ヲ旨トシ毎年度ノ各省豫定經費要求書ヲ調製シ前年度八月三十一日マテニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

(二十六年閣令第二號  
ヲ以テ條中ヲ改正ス)

第九條 歳入概算書及歳出概算書ノ様式ハ大藏大臣之ヲ定ムヘシ

第十條 明治二十三年度豫算ニ限り前各條ノ期限ヲ一箇月間延スコトヲ得

●豫定經費算出概則二十二年六月  
閣令第十九號

豫定經費算出概則

第一條 經費ヲ算出スルニハ其必要ヲ生スル法律命令契約其他經費ヲ請求スル確實ノ理由ヲ示スヘシ

第二條 經費中其給與ニ屬スルモノハ一人當リノ給額ヨリ積算シ又其物件ニ屬スルモノハ一箇當リノ費用ヨリ積算スヘシ

第三條 一人當リノ給額ヲ算出スルニハ規定ノ給額アルモノハ其規定ノ額ヲ基トシ又規定ノ給額

ナキモノハ各々其據ル所ヲ示スヘシ

第四條 一箇當リノ費用ヲ算出スルニハ規定ノ價格アルモノハ其價額ヲ基トシ又規定ノ價格ナキモノハ時々ノ相場ニ據リ其據ル所ヲ示スヘシ

第五條 給與ニ屬スル經費ヲ積算スルニハ定員アルモノハ定員ヲ限度トシ定員ナキモノハ前年度四月一日ノ現員ヲ標準トスヘシ但事務ノ繁閑ニ隨ヒ臨時傭入及解傭ヲナス人員ハ前々年度以前三箇年度ノ人員ノ平均ヲ標準トスヘシ

第六條 物件ニ屬スル經費ヲ積算スルニハ規定ノ箇數アルモノハ規定ノ箇數ヲ限度トシ規定ノ箇數ナキモノハ前々年度以前三箇年度間ニ實際使用ニ供シタル箇數ノ平均ヲ標準トスヘシ

第七條 國債償還ノ金額(定期アルモノヲ除ク)ハ財政ノ都合ニ依リ其利子及手数料ハ規定ニ據リ之ヲ豫算スヘシ

第八條 常例ノ旅行ニ屬スル旅費ハ各用務毎ニ人員ニ依リ旅費等級、里程及滞在日數ヲ概定シテ豫算スヘシ

第九條 法律命令契約ニ據リ支出スヘキ總金額ノ定リタルモノハ其總金額ヲ以テ豫算額トスヘシ

第十條 前各條ニ據ルヘカラサル經費ハ最モ適實ノ方法ヲ以テ豫算シ其計算ノ基ク所ヲ示スヘシ

●特別會計ノ第一豫備金支出方明治三十年四月  
勅令第百十八號

朕特別會計ノ第一豫備金支出ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム



特別會計ノ豫算中ニ設ケタル第一豫備金ノ支出ヲ要スルトキハ其ノ豫算ヲ所管スル主務大臣ニ於テ會計規則第十八條ノ勅令ニ基キ支出ヲナシ其ノ金額理由ヲ示ス所ノ計算書ヲ作り大藏大臣ニ通知シ大藏大臣ハ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

●物品會計規則明治二十二年六月勅令第八十四號

朕物品會計規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

物品會計規則

- 第一條 此ノ規則ニ於テ物品ト稱スルハ政府ニ屬スル器具器械備品消耗品動物其ノ他一切ノ動産ヲ云フ但シ陸海軍ノ兵備ニ關ルモノハ各其ノ規則ニ依ル
- 政府ノ保管ニ屬スル物品ニシテ各省大臣ニ於テ特ニ指定スルモノハ本規則ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ各省大臣ヨリ會計検査院ヘ通知スヘシ(三十三年勅令第三百十八號本項追加)
- 第二條 物品ノ會計ハ總テ年度ヲ以テ區分シ毎年四月一日ヨリ翌年三月三十一日ニ至ル十二箇月ヲ以テ一年度トス
- 第三條 物品ノ會計ハ現ニ其ノ出納ヲ執行シタル日ヲ以テ年度ノ所屬ヲ區分スヘシ
- 第四條 物品ヲ保管シ之カ出納ヲ掌ル者ヲ物品會計官吏トス
- 第五條 總テ物品ハ責任アル官吏ノ保管ニ付スヘシ
- 第六條 物品會計官吏ハ各省大臣ノ定メタル規程ニ據リタル命令アルニアラサレハ物品ヲ出納スルコトヲ得ス

ルコトヲ得ス

第七條 物品會計官吏ハ其ノ故意怠惰ニ由リ保管ノ物品ヲ亡失毀損シタルトキハ辨償ノ責ニ任スヘシ

第八條 各省大臣ノ定メタル規程ニ據リ各官吏以下ノ使用ニ供シタル物品ノ亡失毀損ニ就テハ物品會計官吏ハ合規ノ監督ヲ怠リタル場合ノ外ハ其ノ責任ヲ免ルコトヲ得

第九條 物品會計官吏ハ各省大臣ノ命シタル代理官ノ所爲ニ就テハ其ノ責任ヲ免ルコトヲ得

第十條 物品會計官吏ハ其ノ代理セル所爲ニ就テハ物品會計官吏タルノ責任ヲ免ルコトヲ得

物品ノ消耗賣拂亡失毀損生産ノ爲メノ消費及其ノ他物品會計官吏ノ保管ヲ離ル、ヲ出トシ買入生産及ヒ其ノ他其ノ保管ニ屬スルヲ納トス

第十條ノ二 各省大臣ハ検査ノ官吏ヲ命シ四年以内ヲ以テ一期トシ物品會計官吏ノ保管スル物品ノ全部ヲ精細ニ検査セシメ其ノ調書ヲ作ラシムヘシ但シ應費ニ屬スル物品ハ各省大臣適宜ニ検査ノ方法ヲ設クヘシ(三十三年勅令第三百十八號ヲ以テ本條追加)

第十一條 常時出納ヲナサル倉庫若クハ貯藏所ノ物品ハ各省大臣ヨリ毎年一回若クハ物品會計官吏交替ノ際検査ノ官吏ヲ命シ目録ト現在品ノ照合ヲナサシメ其ノ調書ヲ作ラシムヘシ

第十二條 在外各廳其ノ他特ニ主任ノ官吏ヲ置ク能ハサル支部局ニアル物品ハ各省大臣ヨリ毎年一回若クハ物品會計官吏交替ノ際検査ノ官吏ヲ命シテ現在品及出納ノ實況ヲ調査セシメ其ノ調



書ヲ作ラシムヘシ

第十三條 第十條ノ二、第十一條第十二條ノ調書ニハ検査官吏及検査ヲ受タル物品會計官吏若クハ特ニ命セラレタル立會人之ニ署名スヘシ(三十三年勅令第三百十  
八號ヲ以テ條中追加)

第十四條 (二十四年勅令第七  
十七號ヲ以テ削除)

第十五條 物品會計官吏ハ會計検査院ノ検査判決ヲ受ル爲メ毎年度間ニ執行シタル物品出納ノ計算書ヲ製シ會計検査院所定ノ期限内ニ證憑書類ヲ添ヘ之ヲ本屬大臣ニ差出スヘシ(三十三年勅令第  
三百十八號ヲ以テ條中  
改正)

物品會計官吏交替ヲナシタルトキ前任官吏ハ前項ニ準シテ計算書ヲ差出スヘシ但シ前任官吏死亡其ノ他ノ事故ニ由リ自身計算書ヲ調製スル能ハサル場合ニ於テハ各省大臣ハ他ノ官吏ニ命シテ之ヲ調製セシムヘシ

第十六條 前條第二項但書ニ據リ調製シタル計算書ハ責任ヲ有スル物品會計官吏ノ自身ニ調製シタルモノト同一ニ見做シ會計検査院ニ於テ検査判決ヲナスヘシ

第十七條 各省ノ部長若ハ特ニ監督ノ任アル官吏ハ第十五條計算書ノ下検査ヲ執行シ其下検査書ヲ添付シテ之ヲ會計検査院ヘ送付スヘシ

第十八條 常時出納ヲナサル倉庫若ハ貯藏所ノ物品又ハ在外各廳其ノ他特ニ主任ノ官吏ヲ置ク能ハサル支部局ノ物品ヲ保管スル物品會計官吏ハ第十一條又ハ第十二條ノ調書ヲ以テ第十五條ノ計算書ニ代ヘ責任ノ解除ヲ會計検査院ニ求ムルコトヲ得

第十八條ノ二 會計検査院法第十六條ニ依リ委托検査ニ付シタル物品ニ對シテハ帳簿ヲ以テ出納ヲ證明セシメ第十五條ノ計算書ヲ省略スルコトヲ得(三十三年勅令第三百十  
八號ヲ以テ本條追加)

第十九條 會計規則第八十四條第八十五條第八十八條第八十九條第九十八條ノ二及第二百二條乃至第一百十條ハ物品會計官吏ニ準用ス(三十三年勅令第三百十  
八號ヲ以テ本條改正)

第二十條 物品ノ保管出納ニ關スル規定及帳簿ノ様式ハ各省大臣之ヲ定メ發布前會計検査院ヘ通知スヘシ(同上)

第二十一條 官吏ノ執務上必要ナル物品ノ交付及其交付ヲ受タル官吏ノ責任ニ就テハ各省大臣之ヲ規定スヘシ

第二十二條 此ノ規則ハ明治二十二年十月一日ヨリ施行ス

### ● 隨意契約

● 政府ノ工事又ハ物件ノ賣買貸借ニ關スル隨意契約方明治二十三年九月  
勅令第九十三號  
朕政府ノ工事又ハ物件ノ賣買貸借ニ關スル隨意契約ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
政府ノ工事又ハ物件ノ賣買貸借ニシテ競争ニ付スルモノ入札者ナキトキ又ハ會計規則第七十七條ニ依リ再度ノ入札ニ付スルモノ尙ホ豫定價格ノ制限ニ達セサルトキハ隨意契約ヲナスコトヲ得但之カ爲メ最初競争ニ付スルトキ定メタル價格及其他ノ條件ヲ變更スルコトヲ得ス



●政府ノ工事又ハ物件ノ購入ニ關スル指名競争方明治三十三年六月  
勅令第二百八十號  
朕政府ノ工事又ハ物件ノ購入ニ關スル指名競争ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
政府ノ工事又ハ物件ノ購入ニシテ無制限ノ競争ニ付スルヲ不利トスルトキハ指名競争ニ付スルコ  
トヲ得

前項ニ依リ契約ヲ爲シタルトキハ事由ヲ詳具シ直ニ各省大臣ヨリ會計検査院ニ通知スヘシ

●政府ニ於テ直接ニ従事スル事業ニ要スル職工人夫雇傭ノ請負ニ關スル隨意契約明治三十四年二月  
勅令第八號  
朕政府ニ於テ直接ニ従事スル事業ニ要スル職工人夫雇傭ノ請負ニ關スル隨意契約ノ件ヲ裁可シ茲  
ニ之ヲ公布セシム

政府ニ於テ直接ニ従事スル事業ニ要スル職工人夫雇傭ノ請負ハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

附 則

明治二十九年勅令第二百八號同年勅令第二百八十號明治三十年勅令第四百六十號及明治三十三年  
勅令第四百號ハ之ヲ廢止ス

●外國公使館敷地ノ爲官有地ヲ貸渡ス場合ニ於テノ隨意契約明治二十四年七月  
勅令第七十五號  
朕外國公使館敷地ノ爲官有地ヲ貸渡ス場合ニ競争ヲ要セサル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

外國公使館敷地トシテ官有地ヲ貸渡ス場合ニ於テハ競争ニ附セス隨意ノ約定ニ依ルコトヲ得

●工事ニ要スル機械器具鐵軌車輛船舶建物其ノ他附屬物材料素品ニ關スル隨意契約明治二十九年七月  
勅令第二百零八號  
朕工事ニ要スル機械器具鐵軌車輛船舶建物及其ノ附屬物其ノ他材料素品ニ關スル隨意契約ノ件ヲ  
裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

政府ニ於テ工事ニ要スル機械器具鐵軌車輛船舶建物及其ノ附屬物其ノ他材料素品ヲ府縣都市町村  
及公共組合ヨリ買上ケ借入レ又ハ官有ノ機械器具鐵軌車輛船舶及其ノ附屬物其ノ他材料素品ヲ工  
事ノ爲メ府縣都市町村及公共組合ニ賣渡シ貸渡ストキハ競争ニ付セス隨意契約ニ依ルコトヲ得

●痘苗製造所ニ於テ犢牛ノ購入隨意契約明治二十九年十一月  
勅令第三百七十三號  
朕痘苗製造所ニ於テ隨意契約ニ依リ犢牛ノ購入ヲ爲スノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
東京及大阪痘苗製造所ニ於テ痘苗製造ニ要スル犢牛ノ購入ハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

●工事ノ爲メ買収又ハ收用シタル土地ヲ隨意契約ヲ以テ貸付方明治三十年二月  
勅令第十五號  
朕工事ノ爲メ買収又ハ收用シタル土地貸付ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
國ノ起業ニ係ル工事ニ要スル土地ニシテ買収又ハ收用ノ後未タ其ノ土地ニ工事ヲ施行セサルモノ  
ハ其ノ施行ニ至ル迄隨意契約ヲ以テ之ヲ其ノ舊所有者ニ貸付スルコトヲ得

第十五類 政府ノ工事又ハ物件ノ購入ニ關スル指名競争方 政府ニ於テ直接ニ従事スル事業ニ要スル  
職工人夫雇傭ノ請負ニ關スル隨意契約 外國公使館敷地ノ爲官有地ヲ貸渡ス場合ニ於テノ  
隨意契約 二二一七



●北海道森林ノ產物ヲ賣渡ストキ又ハ北海道廳直接從事ノ工事材料ヲ御料局ヨリ買受クルトキ隨  
意契約明治三十年二月  
勅令第二十一號

朕公益事業ノ工事ニ要スル北海道森林ノ主副產物ヲ賣渡ストキ又ハ北海道廳ニ於テ直接ニ從事ス  
ル各種工事ノ材料ヲ御料局ヨリ買受クルトキ隨意契約ニ依ルコトヲ得ルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公  
布セシム

公益事業ノ工事ニ要スル北海道森林ノ主副產物ヲ賣渡ストキ又ハ北海道廳ニ於テ直接ニ從事スル  
各種工事ノ材料ヲ御料局ヨリ買受クルトキハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

●北海道鐵道部ニ於テ鐵道工事ニ要スル用品ヲ買入借入又ハ賣渡貸渡隨意契約明治三十二年六月  
勅令第三百五號

朕明治二十九年勅令第八十八號改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
北海道鐵道部ニ於テ鐵道事業ニ要スル車輛器具機械其ノ他鐵道用品ヲ官廳若ハ私設鐵道會社ヨリ  
買入借入又ハ官廳若ハ私設鐵道會社ニ賣渡貸渡ストキハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

●北海道道路橋梁排水工事隨意契約明治三十一年三月  
勅令第三百七號

朕北海道殖民地ニ於ケル道路橋梁排水ノ工事請負ハ隨意契約ニ依ルコトヲ得ルノ件ヲ裁可シ茲ニ  
之ヲ公布セシム

北海道廳ニ於テ殖民地トシテ選定シタル區域内ニ於ケル道路橋梁排水工事ハ其ノ區域内ノ移住民  
二十人以上ノ共同請負ニ限り隨意契約ヲ以テ請負ハシムルコトヲ得

●北海道國有森林原野ニ關スル特別處分明治三十五年八月  
勅令第二百七號

朕北海道國有森林原野ニ關スル特別處分ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 北海道ニ於テ製絲業、礪寸軸木製造業又ハ「タンニン」製造業ヲ營ム者ニハ北海道廳長官  
ハ隨意契約ヲ以テ國有森林ヲ貸渡シ又ハ國有森林原野ノ主副產物ヲ賣渡スコトヲ得

第二條 森林ノ貸與ハ工業ニ直接附隨シ必要缺クヘカラスト認メタル建物、道路又ハ材料置場等  
ノ敷地ニ供スルモノニ限ル

第三條 主副產物ノ賣渡ハ工業ノ原料又ハ燃料ニ供スルモノニ限ル

第四條 森林ノ貸渡期間ハ十箇年ヲ超ユルコトヲ得ス

第五條 主副產物ノ賣渡ハ工業者ノ使用スル機械ノ馬力ヲ標準トシテ定ムル一箇年ノ需用額ノ十  
倍ヲ超ユルコトヲ得ス

第六條 工業者一箇年以上休業シタルトキハ契約ヲ解除スルコトアルヘシ

第七條 工業者主副產物ヲ目的以外ニ處分シ又ハ森林ヲ目的以外ニ使用シタルトキハ契約ヲ解除  
スルコトアルヘシ

此ノ場合ニ於テハ違約金トシテ代價又ハ貸渡料金ノ五倍ニ相當スル金額ヲ徵收ス

第十五類

北海道森林ノ產物ヲ賣渡ストキ又ハ北海道廳直接從事ノ工事材料ヲ御料局ヨリ買受クルト  
キ隨意契約 北海道鐵道部ニ於テ鐵道工事ニ要スル用品ヲ買入借入又ハ賣渡貸渡隨意契  
約 北海道道路橋梁排水工事隨意契約 北海道國有森林原野ニ關スル特別處分



第八條 前二條ノ場合ニ於テ契約ノ解除ヲ爲シタルトキハ其ノ解除ハ將來ニ向テノミ其ノ效力ヲ生ス

第九條 工業者廢業シタルトキハ契約ハ其ノ効力ヲ失フ  
第十條 工業者ノ具備スヘキ要件及契約ニ關シ必要ナル規程ハ内務大臣之ヲ定ム

●埋藏物ヲ宮内省ニ讓渡ストキ隨意契約明治三十二年十一月 勅令第四百二十四號

朕遺失物法第十三條第二項ニ依ル埋藏物ヲ宮内省ニ讓渡ストキハ隨意契約ニ依ルコトヲ得ルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

遺失物法第十三條第二項ニ依リ國庫ニ歸屬シタル埋藏物ヲ宮内省ニ讓渡ストキハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

●貨幣鑄造ニ要スル地金買入方明治二十三年六月 勅令第四百四號

朕貨幣鑄造ニ要スル地金買入ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

貨幣鑄造ニ要スル地金銀ノ買入ハ日本銀行ヲシテ之ヲ取扱ハシム此場合ニ於テハ競争ニ付セサルコトヲ得(三十一年勅令第九十九號ヲ以テ銅白銅ノ三字ヲ削ル)

●府縣稅若クハ市町村稅又ハ水利組合費ヲ以テ施行スヘキ工事ニ關聯スル政府ノ工事隨意契約

明治二十六年五月 勅令第五十一號

朕府縣稅若クハ地方稅市町村稅又ハ水利組合費ヲ以テ施行スヘキ工事ニ關聯スル政府ノ工事ニ係ル隨意契約ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

府縣稅若クハ地方稅市町村稅又ハ水利組合費ヲ以テ施行スヘキ工事ニ關聯スル政府ノ工事ニシテ其分割施行ヲ爲スヲ不利トスル場合ニ於テ政府ハ其工事ノ受負又ハ之ニ要スル物品ノ供給ヲ隨意契約ヲ以テ府縣市町村又ハ組合工事ノ受負人又ハ物品供給者ニ命スルコトヲ得

●官有ノ建物及其ノ附屬物ノ賣渡貸渡ニ關スル隨意契約明治二十六年十二月 勅令第二百二十八號

朕官有ノ建物及其ノ附屬物ヲ府縣郡市町村及公共組合ニ賣渡貸渡スルトキハ隨意契約ニ依ルコトヲ得ルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

官有ノ建物及其ノ附屬物ヲ公用ニ供スル爲メ府縣郡市町村及公共組合ニ賣渡シ又ハ貸渡ストキハ競争ニ付セス隨意ノ契約ニ依ルコトヲ得

●在外各廳ニ於テ隨意契約ニ依リ工事又ハ物件ノ賣買貸借方明治二十七年四月 勅令第四十號

朕在外各廳ニ於テ隨意契約ニ依リ工事又ハ物件ノ賣買貸借ヲ爲スノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

在外各廳ニ於テ工事又ハ物件ノ賣買貸借ヲ爲ストキハ隨意ノ契約ニ依ルコトヲ得

第十五類

埋藏物ヲ宮内省ニ讓渡ストキ隨意契約 貨幣鑄造ニ要スル地金買入方 府縣稅若クハ市町村稅又ハ水利組合費ヲ以テ施行スヘキ工事ニ關聯スル政府ノ工事隨意契約 官有ノ建物及其ノ附屬物ノ賣渡貸渡ニ關スル隨意契約



●葉煙草ノ賣渡ヲ爲ストキ契約書省略方明治三十一年二月勅令第二十五號  
朕葉煙草專賣所ニ於テ葉煙草ノ賣渡ヲ爲ストキ契約書省略ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

「葉煙草專賣所」ニ於テ葉煙草ノ賣渡ヲ爲ストキハ會計規則第八十二條ノ契約書ヲ省略スルコトヲ得

●政府ニ於テ輸入ノ爲葉煙草ヲ買入ル、トキ隨意契約明治三十二年六月勅令第二百二十一號

朕政府ニ於テ輸入ノ爲葉煙草ヲ買入ルルトキハ競争ニ付セス隨意契約ニ依ルコトヲ得ルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

政府ニ於テ輸入ノ爲葉煙草ヲ買入ルルトキハ競争ニ付セス隨意契約ニ依ルコトヲ得

●政府ニ於テ施行スル海水ニ觸接スル工事及水道工事ニ要スル「セメント」ノ購入隨意契約明治三十一年勅令第四百三十七號

朕政府ニ於テ施行スル海水ニ觸接スル工事及水道工事ニ要スル「セメント」ノ購入ハ隨意契約ニ依ルコトヲ得ルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

政府ニ於テ施行スル海水ニ觸接スル工事及水道工事ニ要スル「セメント」ノ購入ハ隨意契約ニ依ル

コトヲ得

●軍事上緊急ノ必要ニ因リ購入シタル物件貸付賣渡隨意契約明治二十七年六月勅令第七十六號

朕軍事上緊急ノ必要ニ因リ購入シタル政府ノ物件ノ貸付及賣渡ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

軍事上緊急ノ必要ニ因リ購入シタル政府ノ物件ハ隨意契約ヲ以テ貸付ケ又ハ賣渡スコトヲ得

●陸軍乘馬本分ノ將校ヘ官馬拂下明治二十三年七月勅令第百十八號

朕陸軍乘馬本分ノ將校ヘ官馬拂下ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍乘馬飼養條例ニ定ムル乘馬本分ノ將校ヘハ會計法第二十四條ニ規定スル競争ノ方法ヲ用ヒス官馬ヲ拂下ルコトヲ得

●兵營ノ建築材料ヲ御料局ヨリ買受クルトキ隨意契約明治二十九年十月勅令第三百十七號

朕兵營及葉煙草取扱所ノ建築材料ヲ御料局ヨリ買受クルトキ隨意契約ニ依ルコトヲ得ルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍兵營及葉煙草取扱所ノ建築材料ヲ御料局ヨリ買受クルトキハ隨意契約ニ依ルコトヲ得



●北海道ニ於ケル陸軍管理ノ工事隨意契約明治三十一年三月勅令第三十八號  
朕北海道ニ於ケル陸軍管理ノ工事隨意契約ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
北海道ニ於ケル陸軍管理ノ工事ハ運輸交通不便ノ地ニ建設スルモノニ限り隨意契約ニ依ルコトヲ得

●陸軍用地ノ生産物ヲ賣渡ストキ隨意契約明治三十二年五月勅令第二百六號  
朕陸軍用地ノ生産物ヲ賣渡ストキ隨意契約ニ依ルコトヲ得ルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
陸軍用地ニ産スル薪炭材下草秣小柴ヲ從來ノ慣行ニ依リ地元人民ニ賣渡ストキハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

●海軍艦船用石炭ヲ外國軍艦ニ讓渡方明治二十三年十二月勅令第二百九十五號  
朕海軍艦船用石炭ヲ外國軍艦ニ讓渡スノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
外國軍艦ニ於テ石炭缺乏ノ際其供給ヲ請フトキハ相當代價ヲ以テ海軍省貯藏ノ石炭ヲ讓渡スコトヲ得

●海軍炭礦採掘ノ請負及粗惡炭並粉炭拂下隨意契約明治三十二年六月勅令第二百二十九號  
朕海軍炭礦採掘ノ請負及粗惡炭並粉炭拂下ハ隨意契約ニ依ルコトヲ得ルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公

布セシム

海軍炭礦採掘ノ請負及採掘ヨリ生スル粗惡炭並粉炭ノ拂下ハ競争ニ付セス隨意契約ニ依ルコトヲ得

●帝國大學文部省直轄諸學校及帝國圖書館資金所屬不動産ヲ隨意契約ヲ以テ貸渡方明治三十三年八月十二號勅令第三百四號

朕帝國大學文部省直轄諸學校及帝國圖書館資金所屬ノ不動産ニシテ一時使用セサルモノヲ貸渡ストキハ隨意ノ契約ニ依ルヲ得ルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
帝國大學、文部省直轄諸學校及帝國圖書館資金所屬ノ不動産ニシテ一時使用セサルモノヲ貸渡ストキハ競争ニ付セス隨意契約ニ依ルコトヲ得

●札幌農學校資金ニ屬スル北海道ノ土地貸付隨意契約明治二十八年七月勅令第四百四號

朕札幌農學校ノ資金ニ屬スル北海道ノ土地ヲ貸付スルトキハ隨意契約ニ依ルコトヲ得ルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
札幌農學校ノ資金ニ屬スル北海道ノ土地ノ貸付ハ左ノ場合ニ限り隨意契約ニ依ルコトヲ得  
一 一人ニ付宅地ノ面積四百五坪以内ヲ貸付スルトキ  
二 一人ニ付耕地及未開地ノ面積三萬坪以内ヲ貸付スルトキ



未開地ヲ貸付スル場合ニ於テハ貸付料ヲ徵收セサルコトヲ得

●測地學委員會基線尺室兼振子室新營ニ要スル工事物件隨意契約明治三十五年十月  
勅令第二百三十六號

朕測地學委員會基線尺室兼振子室新營ニ要スル工事及物件ノ買入ハ隨意契約ニ依ルコトヲ得ルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

測地學委員會基線尺室兼振子室新營ニ要スル工事及物件ノ買入ハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

●北海道廳ニ於テ種畜貸渡ノ隨意契約明治二十四年七月  
勅令第六十三號

朕北海道廳ニ於テ種畜ヲ貸渡ストキハ隨意契約ニ依ルコトヲ得ルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

北海道廳ニ於テ殖産獎勵ニ要スル種畜ヲ貸渡ストキハ隨意ノ契約ニ依ルコトヲ得

●農商務省ニ於テ馬匹改良ニ要スル馬匹ノ購入及貸渡隨意契約明治二十九年五月  
勅令第二百三十四號

朕農商務省ニ於テ隨意契約ニ依リ馬匹ノ購入及貸渡ヲ爲スノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

●聖路易萬國博覽會ニ關スル工事物件賣買貸借及工事請負隨意契約明治三十六年七月  
勅令第一百八號

朕聖路易萬國博覽會ニ關スル工事物件賣買貸借及工事請負ハ隨意契約ニ依ルコトヲ得ルノ件ヲ裁可

シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治三十七年北亞米利加合衆國「ミソリー」州聖路易市ニ於テ開設スル萬國博覽會ニ關スル工事物件ノ賣買貸借及工事請負ハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

●製鐵所ニ於テ物件ヲ購入スル隨意契約明治二十九年十二月  
勅令第三百七十八號

朕製鐵所ニ於テ隨意契約ニ依リ物件ヲ購入スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

製鐵所ニ於テ製鐵事業設備完了ニ至ル迄ニ必要トスル器具機械其ノ他物件ヲ外國ニ於テ購入スルトキ又ハ内國ニ於テ製鐵原料ヲ購入スルトキハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

●製鐵所用地地先浚渫及荷揚場設置工事請負ノ隨意契約明治三十二年二月  
勅令第二十五號

朕製鐵所用地地先浚渫及荷揚場設置工事請負ノ隨意契約ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

●製鐵所ノ鑛山採掘及骸炭製造ノ請負並不用生産物拂下隨意契約明治三十三年二月  
勅令第三十九號

朕製鐵所ノ鑛山採掘及骸炭製造ノ請負並不用生産物拂下ハ隨意契約ニ依ルコトヲ得ルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第十五類

測地學委員會基線尺室兼振子室新營ニ要スル工事物件隨意契約  
農商務省ニ於テ馬匹改良ニ要スル馬匹ノ購入及貸渡隨意契約  
聖路易萬國博覽會ニ關スル工事物件賣買貸借及工事請負隨意契約



製鐵所ノ鑛山採掘及骸炭製造ノ請負並採掘ヨリ生スル不用生産物拂下ハ競争ニ付セス隨意契約ニ依ルコトヲ得(三十二年勅令第三號ヲ以テ本令中改正)

●國有林野產物ヲ隨意契約ヲ以テ賣拂方明治三十二年八月勅令第三百六十三號

朕國有林野產物ノ隨意契約ニ依ル賣拂ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

國有林野產物ハ左ノ場合ニ限り隨意契約ヲ以テ賣拂フコトヲ得

- 一 公用又ハ公益事業ノ爲必要アルトキ
- 二 非常ノ災害アリタル場合ニ於テ其ノ罹災者ニ建築營繕又ハ薪炭ノ材料ヲ賣拂フトキ
- 三 從來ノ慣行ニ因リ薪炭材又ハ副產物ヲ地元人民ニ賣拂フトキ
- 四 委託林野ノ產物ヲ受託者ニ賣拂フトキ
- 五 部分林ノ產物ヲ造林者ニ賣拂フトキ
- 六 社寺ノ建築營繕ノ材料トシテ社寺土地ノ森林ノ產物ヲ其ノ社寺ニ賣拂フトキ
- 七 國有林野ノ事業請負人又ハ國有林野ノ產物買受人ニ其ノ事業ニ必要ナル產物ヲ賣拂フトキ
- 八 採取ノ季節アル副產物ヲ賣拂フトキ
- 九 鑛業ニ必要ナル產物ヲ鑛業人ニ賣拂フトキ
- 十 國有林野法第三條、第八條、第十一條及第十五條ニ依リ組換、賣拂、貸付又ハ讓與ヲ爲シタル林野ノ產物ヲ其ノ土地ノ管理者、買受人、借受人又ハ讓受人ニ賣拂フトキ

十一 民地官木林ノ產物ヲ其ノ土地ノ所有者ニ賣拂フトキ

十二 建築其ノ他ノ用ニ供スヘキ土石ヲ發見シタル場合ニ於テ之ヲ其ノ發見人ニ賣拂フトキ

十三 見積價格三百圓ヲ超エサル產物ヲ賣拂フトキ

附則

官有森林原野及產物特別處分規則ハ之ヲ廢止ス

●政府ニ於テ施行スル造林事業ニ要スル種苗供給ノ受負隨意契約明治三十二年十月勅令第四百十三號

朕政府ニ於テ施行スル造林及伐木事業ニ要スル人夫雇傭並種苗供給ノ受負ハ隨意契約ニ依ルコトヲ得ルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

政府ニ於テ施行スル造林及伐木事業ニ要スル人夫雇傭並種苗供給ノ受負ハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

●官設鐵道ニ屬スル土地家屋ヲ私設鐵道會社ニ賣渡又ハ貸渡ニ關スル隨意契約明治二十九年六月勅令第二百四十號

朕官設鐵道ニ屬スル土地家屋ヲ私設鐵道會社ニ賣渡又ハ貸渡ストキ隨意契約ニ依ルコトヲ得ルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

官設鐵道及私設鐵道ノ連絡營業ノ爲メ必要アル場合ニ於テ官設鐵道ニ屬スル土地家屋ヲ私設鐵道會社ニ賣渡又ハ貸渡ストキハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

第十五類 國有林野產物ヲ隨意契約ヲ以テ賣拂方 政府ニ於テ施行スル造林事業ニ要スル種苗供給ノ受負隨意契約 官設鐵道ニ屬スル土地家屋ヲ私設鐵道會社ニ賣渡又ハ貸渡ニ關スル隨意契約 二二二九







第三條 各作業所特別會計ノ歲出額ハ豫算定額内ニ於テ實際ノ歲入及据置運轉資本ノ合計額ヲ超過スルヲ許サス

第四條 固定資本ノ維持修理及補充ハ作業所特別會計ノ歲入ヲ以テ支辨スヘシ

第五條 作業所ノ純益及固定資本ニ屬スル物件ノ賣拂代金ハ總テ一般ノ歲入ニ編入スヘシ

第六條 政府ハ毎年各作業所特別會計ノ歲入歲出豫算ヲ調製シ歲入歲出ノ總豫算ト俱ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ

第七條 各作業所特別會計ノ收入支出ニ關スル規程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八條 本法ハ明治二十三年度ヨリ施行ス其帝國議會ニ關涉スルモノハ帝國議會開會後ノ會計年度ヨリ施行ス

●官設鐵道會計法明治二十三年三月法律第二十號

朕官設鐵道會計法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

官設鐵道會計法

第一條 鐵道事業ヲ經營スル爲メ固定資本据置運轉資本ヲ置キ營業上ノ收入及其附屬雜收入ハ鐵道事業ノ費用ニ充ルコトヲ許シ特別ノ會計ヲ立テシム

第二條 鐵道事業ノ爲メ從來使用シ及將來増加スル所ノ土地軌道車輛停車場工場家屋機械其他重要ナル器具ハ其固定資本トシ從來ノ流動資本ハ其据置運轉資本トス

第三十一年法律第三號ヲ以テ本法ハ鐵道官設ニハ適用ス

第三條 鐵道營業ニ要スル費用固定資本ノ維持修理及補充費並ニ損失金ヲ鐵道事業ノ歲出トス

第四條 鐵道事業ノ純益及固定資本ニ屬スル物件ノ賣拂代金ハ總テ一般ノ歲入ニ編入スヘシ

第五條 政府ハ毎年鐵道事業ノ歲入歲出豫算ヲ調製シ歲入歲出ノ總豫算ト俱ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ

第六條 鐵道事業ノ歲出額ハ豫算定額内ニ於テ實際ノ歲入及据置運轉資本ノ合計額ヲ超過スルヲ許サス

第七條 災害事變ニ因リ鐵道財產ニ大破損ヲ生シ豫算定額ヲ以テ修理スルニ足ラサル場合ニ於テ其費用ヲ補フ爲メ鐵道事業ノ歲出豫算ニ豫備費ヲ設ルコトヲ得

第八條 鐵道事業ノ收入支出ニ關スル規程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第九條 本法ハ明治二十三年度ヨリ施行ス其帝國議會ニ關涉スルモノハ帝國議會開會後ノ會計年度ヨリ施行ス

●作業及鐵道會計規則明治二十三年三月勅令第三十三號

朕作業及鐵道會計規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

作業及鐵道會計規則

第一章 歲入歲出

第一條 左ノ諸收入ヲ以テ作業所ノ歲入トス



- 第一 作業上ノ收入
- 第二 附屬雜收入
- 第二條 造幣局、印刷局、製鐵所、電信燈臺用品製造所、廣島鑛山ニ於テハ左ノ諸費ヲ以テ歲出トス(三十二年勅令第百九號ヲ以テ條中改正)
  - 第一 事務員技術員ノ俸給諸給旅費(三十年勅令第百二十六號ヲ以テ改正)
  - 第二 事務所費(テ追加シ第二以下順次繰下ク)
  - 第三 職工人夫ニ給スル諸費
  - 第四 作業用器具機械ノ維持修理及補充費
  - 第五 材料素品購入代
  - 第六 動力費
  - 第七 作業場用備品消耗品費
  - 第八 建物築造道路船舶ノ維持修理及補充費
  - 第九 損失金
- 第三條 東京砲兵工廠、大阪砲兵工廠ニ於テハ左ノ諸費ヲ以テ歲出トス
  - 第一 職工人夫ニ給スル諸費
  - 第二 作業用器具機械ノ維持修理及補充費
  - 第三 材料素品購入代

- 第四 機械運轉用品購入代
- 第五 作業場用備品消耗品費
- 第六 建物其ノ他工作物、船舶ノ維持修理及補充費(三十五年勅令第百三十四號ヲ以テ追加)
- 第七 損失金
- 第四條 千住製絨所ニ於テハ左ノ諸費ヲ以テ歲出トス
  - 第一 事務員技術員ノ俸給諸給旅費
  - 第二 事務所費
  - 第三 職工人夫ニ給スル諸費
  - 第四 作業用器具機械ノ維持修理及補充費
  - 第五 材料素品購入代
  - 第六 機械運轉用品購入代
  - 第七 作業場用備品消耗品費
  - 第八 生産品販賣諸費
  - 第九 土地建物其ノ他工作物ノ維持修理及補充費(三十五年勅令第百三十四號ヲ以テ追加)
  - 第十 損失金
- 第五條 鐵道事業ニ於テハ左ノ諸費ヲ以テ歲出トス
  - 第一 營業ニ従事スル職員ノ俸給諸給旅費



- 第二 職工人夫ニ給スル諸費
- 第三 鐵道築造物建物車輛器具機械ノ維持修理及補充費
- 第四 材料素品購入代
- 第五 汽車及機械運轉用品購入代
- 第六 營業事務所停車場機械場客車用備品消耗品費
- 第七 損害賠償金
- 第八 訴訟費
- 第九 手數料保險料借料廣告料謝金外國注文品監查費其他營業上ノ雜費
- 第十 運輸收入割戻金
- 第十一 損失金

第二章 豫算決算

- 第六條 歲入歲出ノ豫定計算書ハ所管大臣之ヲ調製シ前年度八月三十一日マテニ各省豫定經費要  
求書ト俱ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ(二十六年勅令第二百二十四號ヲ以テ六月三十日ヲ八月三十一日ト改ム)
- 第七條 歲入歲出ノ豫定計算書ハ科目ヲ分チ成ルヘク歲入ノ性質歲出ノ用途ヲ明示スヘシ
- 第八條 所管大臣ハ其年三月三十一日ニ終リタル會計年度ノ受拂勘定表及固定資本價格増減表ヲ  
調製シ歲入歲出ノ豫定計算書ニ添付スヘシ
- 第九條 歲入歲出ノ決定計算書ハ所管大臣之ヲ調製シ翌年度八月三十一日マテニ之ヲ大藏大臣ニ

送付スヘシ

作業事務長又ハ作業支部局長ハ會計検査院ニ證明ノ爲メ毎年度歲入徵收額計算書ヲ調製シ證憑  
書類ヲ添ヘ其ノ歲入事務管理廳ニ送付シ歲入事務管理廳ハ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ(二十年  
令第二百二十四號ヲ以テ本項以下三項ヲ追加ス三十三年勅  
令第二百二十八號三十五年勅令第二百二號ヲ以テ項中改正)

作業事務長又ハ作業支部局長ハ會計検査院ニ證明ノ爲メ毎月支出ノ計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ  
添ヘ其ノ所管大臣ニ送付シ所管大臣ハ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ(三十五年勅令第二百二  
號ヲ以テ本項中改正)

本條第二項第三項ノ計算書ハ特ニ監督ノ任アル官吏若クハ特ニ所管大臣ヨリ委任ヲ受ケタル官  
吏ヨリ直ニ會計検査院ニ送付セシムルコトヲ得

第三章 收入支出

- 第十條 歲入歲出ノ豫算ハ決定ノ後豫備費ヲ除キ所管大臣各作業事務長ニ命シテ之ヲ執行セシム  
ヘシ
- 各省大臣ハ作業支部局長ヲシテ歲出豫算ノ一部ヲ執行セシメントスルトキハ仕拂豫算ヲ以テ之  
ヲ命スヘシ
- 仕拂豫算ニ關スル規定ハ會計規則第十一條第十二條第十三條ニ依ルヘシ
- 第十一條 豫備費ノ支出ハ會計規則第十九條第二十條第二十四條ニ依ルヘシ
- 第十二條 作業所ノ收入官吏ハ會計規則第二十五條第二十六條ノ手續ニ依リ收入ヲ取扱フヘシ

(二十六年勅令第二百二  
十四號ヲ以テ條中刪除)



第十三條 作業所ハ据置運轉資本ニ屬スル現金ノ持越高及當該年度ノ收入濟歲入額ヲ以テ仕拂元受高トシ歳出ヲ支出スルハ此仕拂元受高ヲ超過スルヲ得ス

第十四條 作業事務長又ハ作業支部局長ハ歳出ヲ支出スル爲メ金庫ニ向テ仕拂請求書ヲ發スヘシ

第十五條 仕拂請求書ヲ發スル官吏ハ正當債主若クハ其代理人ノ爲ニスルニアラサレハ仕拂請求書ヲ發スルヲ得ス但支部局及派出工場ニ於テ仕拂ヲナス經費外國ニ於テ仕拂ヲナス經費職工人夫ノ給料諸手當ハ仕拂請求書ヲ發シ主任ノ官吏又ハ外國派出ノ官吏ヲ仕拂官吏トシテ現金ノ前渡ヲナスコトヲ得(三十年勅令第二百三十號ヲ以テ但書中ヲ削ル)

第十六條 仕拂請求書ヲ發スル官吏ハ總テ仕拂請求書ヲ發スル前其支出ハ正當ニシテ必要ナルヤヲ調査シ其金額ヲ算定シ又其支出ハ豫算ノ目的ニ違フコトナキヤ金額ハ豫算定額及仕拂元受高ニ超過スルコトナキヤヲ調査スヘシ

第十七條 仕拂請求書ニハ債主若クハ其代理人ノ氏名仕拂ヲ請求スル金額支出科目年度番號ヲ記載スヘシ但支出科目ノ同一ナルモノハ集合仕拂請求書ヲ發シ別ニ各受取人ノ金額氏名表ヲ添ユルコトヲ得(二十六年勅令第二百二十四號ヲ以テ條中改正)

第十八條 仕拂請求書ニハ前渡ヲ受クヘキ官吏ノ資格氏名前渡ヲナスヘキ金額支出科目年度番號ヲ記載スヘシ

第十八條 仕拂請求書取扱ノ手續ハ會計規則第三十五條第三十六條仕拂命令取扱ノ例ニ依ル(二十年)

勅令第二百二十四號ヲ以テ條中刪除

第十九條 各年度ノ歳出ニ屬スル仕拂請求書ヲ發スルハ毎年度三月三十一日ヲ限リトス

第十九條ノ二 定額戻入ニ關スル規程ハ會計規則第六十三條第六十四條ノ例ニ依ル(二十六年勅令第二百二十四號ヲ以テ追加)

第二十條 現金前渡ヲ受タル官吏監督ノ規則ハ大藏大臣所管大臣ニ協議シテ之ヲ定ムヘシ

第二十一條 金庫ハ案内仕拂請求書集合仕拂請求書若クハ金庫所在地外ニ在ル債主ニ仕拂ヲ要スル仕拂請求書ヲ受ケタルトキ其ノ仕拂請求書合式ニシテ且豫算各項ノ金額及仕拂元受高ニ超過セサルトキハ仕拂ヲ爲スヘシ(三十三年勅令第二百二十八號ヲ以テ本項中改正)

第二十二條 現金前渡ニ於テ仕拂請求書ニ對シテ仕拂ヲ執行シ又ハ之ヲ拒絕スルハ會計規則第四十三條第四十五條第二項第四十六條仕拂命令取扱ノ例ニ依ル(二十六年勅令第二百二十四號ヲ以テ改正)

第二十二條 毎年度内ニ收入ヲナスヘキ權利ヲ得テ當該年度内ニ收入濟トナラサルモノハ收入未濟トシテ順次翌年度ヘ繰越シ現ニ收入ヲナシタル年度ノ歳入ニ組入ルヘシ

第二十三條 毎年度内ニ仕拂ヲナスヘキ義務ヲ生シ當該年度内ニ仕拂請求書ヲ發セサルモノハ支出未濟トシテ順次翌年度ヘ繰越シ當該年度經過後滿五箇年内ハ支出ノ請求アル毎ニ仕拂請求書ヲ發スヘシ但支出未濟ノ繰越額ハ支出濟額ト合シテ豫算定額ヲ超過スルヲ得ス(二十六年勅令第二百二十四號ヲ以テ本條中ヲ改正ス)

第二十四條 毎年度内ニ於テ仕拂請求書ヲ發シ金庫ニ於テ仕拂ノ請求ヲ受ケサルモノハ仕拂未濟



トシテ之ニ相當スル資金ヲ翌年度へ繰越シ第十八條ノ規程ニ依リ仕拂ヲナスヘシ

第二十五條 前條ノ仕拂未済金ハ會計法第十八條ニ依リ仕拂義務ヲ免レタルトキハ其期滿免除トナリタル年度ノ一般ノ歳入ニ組入ルヘシ

第二十六條 歳入ヲ徵收スル官吏ハ其徵收簿ノ結果ニヨリ毎月徵收報告書ヲ調製シ參照書類ヲ添ヘ翌月十五日迄ニ所管大臣ヲ經由シテ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ但作業支部局ノ歳入ヲ徵收スル官吏ハ其徵收報告書ヲ翌月七日迄ニ作業事務本局ノ歳入ヲ徵收スル官吏ニ送付スヘシ(三十二年勅令第二百二十八號ヲ以テ改正)

第二十七條 作業事務本局ノ歳入ヲ徵收スル官吏ハ作業全部ノ徵收合計表ヲ調製シ本局及支局ノ歳入ヲ徵收スル官吏ノ徵收報告書ニ添付シ前條ノ手續ニ依リ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ(同上)

第二十八條 金庫出納役ハ毎月仕拂請求書受領濟額報告書ヲ調製シ其ノ翌月中ニ大藏省ニ送付スヘシ(二十六年勅令第二百二十四號ヲ以テ改正)

第二十九條 (二十六年勅令第二百二十四號ヲ以テ刪除)

第四章 資本  
第三十條 資本ハ總テ價格ヲ付シテ計算スヘシ

第三十一條 資本ノ價格ハ左ノ方法ニ依テ之ヲ定ム(三十五年勅令第二百二號ヲ以テ第一號ニ但書追加)  
一 土地ハ近隣地ノ賣買價格五箇年間ノ平均ニ依ル近隣ニ比較スヘキ相當ノ土地ナキトキハ五人以上ノ評價人ヲ定メ其評定價格ノ平均ニ依ル但新ニ購入又ハ交換シタルトキハ購入價格

又ハ交換價格ニ依ル

二 建物鐵道其他築造道路船舶機械器具其他ノ物品ハ建築費又ハ購入價格ニ依ル建築費又ハ購入價格ノ不明ナルモノハ物件ノ輕重ニ依リ二人以上ノ評價人ヲ定メ其評定價格ノ平均ニ依ル

三 材料素品器械ノ運轉用品ハ購入價格ニ依ル

四 生産品ハ生産費ニ依ル但賣買ノ契約濟トナリタルモノハ其賣渡代價ニ依ル  
第三十二條 土地ノ價格ハ前條ノ方法ニ依リ毎五年ニ之ヲ改定スヘシ  
第三十三條 (三十三年勅令第三百四十九號ヲ以テ本條刪除)

第三十四條 建物公衆ノ用ニ供セサル鐵道其他築造道路船舶機械器具其他ノ物品ハ永遠保存品ヲ除キ總テ保存期限ヲ定メ其期限ニ應シテ毎年價格ヲ遞減スヘシ

前項中固定資本ニ屬スル物件ヲ修理シタルトキハ其修理費ヲ以テ現年ノ價格ニ加ヘ再ヒ保存年限ニ應シテ價格ヲ遞減スヘシ

第三十五條 前條ノ物件ヲ修理シタルトキハ保存年限ヲ改定シテ之ヲ延フルコトヲ得  
第三十六條 材料素品機械ノ運轉用品ノ年度内未消費ニ屬スルモノハ市價ノ低落又ハ毀損變質等ニ由リ其價格ヲ減スルトキハ毎年度ノ終リ當時ノ市價ニ依リ其價格ヲ改定スヘシ

第三十七條 生産品ノ年度内未販賣ニ屬スルモノ需用ノ變動生産法ノ改良又ハ毀損變質等ニ由リ其價格ヲ減シ實際ノ市價生産費以下ナルトキハ毎年度ノ終リ當時ノ市價又ハ當年度ノ生産費



ニ依リ其價格ヲ改定スヘシ

第三十八條 材料素品機械ノ運轉用品生産品其他ノ物品ニシテ不用ニ歸シタルモノハ總テ損失トシ其價格ヲ削除シテ不用物品ニ組入レ之ヲ賣拂フヘシ

第五章 受拂勘定

第三十九條 受入ニ屬スルモノ左ノ如シ

第一 歳入ノ收入濟額

第二 收入未濟額

第三 据置運轉資本ニ屬スル現金ノ持越高

第四 總生産品ノ價格

第五 總材料及素品ノ價格

第六 總機械運轉用品ノ價格

第七 作業場用總備品ノ價格

第八 代價支出濟未收物品ノ價格

第四十條 拂出ニ屬スルモノ左ノ如シ

第一 歳出ノ支出濟額(二十六勅令第二百二十四號ヲ以テ支出調定濟額ヲ支出濟額ト改ム)

第二 支出未濟額

第三 据置運轉資本額

第四 賣拂代價收入濟物品ノ價格

第五 賣拂代價收入未濟既出物品ノ價格

第六 消費シタル材料及素品ノ價格

第七 消費シタル機械運轉用品ノ價格

第八 損失ニ歸シタル物品ノ價格

第九 損失金

第四十一條 作業所ハ受入ノ總額ヨリ拂出ノ總額ヲ控除シ殘餘アルトキハ作業ノ益金トシテ其事業ヲ營ミタル年度ノ一般ノ歳入ニ納付スヘシ

第六章 工事及物件ノ賣買貸借

第四十二條 工事及物件ノ賣買貸借ニ關スル規則ハ總テ會計規則第七章ノ例ニ依ル

第七章 出納官吏

第四十三條 出納官吏ニ關スル規則ハ總テ會計規則第八章ノ例ニ依ル(三十五年勅令第二百二號ヲ以テ條中改正)

第四十四條 (三十二年勅令第二百二十八號ヲ以テ本條削除)

第八章 帳簿

第四十五條 大藏省ハ各作業會計ノ主計簿ヲ備ヘ歳入ノ豫算額確定額收入濟額不納缺損額收入未濟額歳出ノ豫算額豫算決定後増加額仕拂元受高支出濟額翌年度繰越額殘額ヲ登記スヘシ(二十六勅令第二百二十四號ヲ以テ條中削除三十五年勅令第二百二號ヲ以テ條中追加)



第四十六條 作業所ハ日記簿原簿補助簿ヲ備ヘ其事業ニ關スル一切ノ計算ヲ登記スヘシ

第四十七條 歳入ヲ徵收スル官吏ハ徵收簿ヲ備ヘ歳入ノ豫算額、確定額、收入濟額、不納缺損額、收入未濟額ヲ登記スヘシ(三十三年勅令第百二十八號ヲ以テ改正)

第四十八條 金庫出納役ハ支出簿ヲ備ヘ歳出ノ豫算額支拂請求書受領濟額ヲ登記シ又支拂元受高差引簿ヲ備ヘ仕拂元受高仕拂請求書受領濟額仕拂額ヲ登記スヘシ(二十六年勅令第百二十四號ヲ以テ改正)

第四十九條 收入官吏現金前渡ヲ受ケタル官吏ハ現金出納簿ヲ備ヘ其出納ヲ登記スヘシ(三十三年勅令第百二十八號ヲ以テ本條中削除)

第九章 雜則

第五十條 本規則ニ依リ當該官吏ヨリ會計検査院ニ提出スル所ノ證明書ニ關スル規程様式ハ會計検査院ニ於テ之ヲ定ムヘシ(二十六年勅令第百二十四號ヲ以テ出納官吏ヲ當該官吏ト改ム)

第五十一條 前條ノ外本規則ニ掲クル諸書類帳簿ノ様式ハ大藏大臣之ヲ定ムヘシ

第五十二條 此規則ニ於テ作業所トハ造幣局、印刷局、製鐵所、電信燈臺用品製造所、廣島鑛山、東京砲兵工廠、大阪砲兵工廠、千住製絨所及鐵道ヲ謂フ(三十二年勅令第百九號ヲ以テ條中改正)

第五十三條 此規則ニ於テ作業事務長トハ鐵道局長、造幣局長、印刷局事務長、製鐵所長官、東京砲兵工廠提理、大阪砲兵工廠提理、千住製絨所長ヲ謂フ(二十六年勅令第百二十四號三十二年勅令第百九號ヲ以テ條中改正)

第五十四條 本規則ハ明治二十三年度ヨリ施行ス

電信燈臺用品製造所及廣島鑛山ニ於テハ其事務管理長ヲ以テ作業事務長トス

●製鐵所製品賣拂代金延納ノ件(明治三十五年九月勅令第百一十一號)

朕製鐵所製品賣拂代金延納ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

製鐵所ノ製品ヲ賣拂フトキハ六箇月以内ヲ限リ代金延納ヲ許可スルコトヲ得前項ノ場合ニ於テハ相當ノ擔保ヲ提供セシムヘシ

●專賣局作業會計規則(明治三十三年二月勅令第二十號)

朕專賣局作業會計規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

專賣局作業會計規則

第一條 歳入歳出ノ豫定計算書ハ所管大臣之ヲ調製シ前年度八月三十一日迄ニ各省豫定經費要求書ト俱ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第二條 所管大臣ハ其ノ年三月三十一日ニ終リタル會計年度ノ受拂勘定表及固定資本價額増減表ヲ調製シ歳入歳出ノ豫定計算書ニ添附スヘシ

第三條 歳入歳出ノ決定計算書ハ所管大臣之ヲ調製シ翌年度十一月三十日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ(三十五年勅令第百三號ヲ以テ條中改正)

專賣局長又ハ專賣支局長ハ會計検査院ニ證明ノ爲毎年度歳入徵收額計算書ヲ調製シ證據書類ヲ添ヘ其ノ歳入事務管理應ニ送付シ歳入事務管理應ハ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ(三十三年勅令第百三十三號三十四號)



年勅令第二百二十八號ヲ以テ條中改正)

專賣局長又ハ專賣支局長ハ會計検査院ニ證明ノ爲毎月支出ノ計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ其ノ所管大臣ニ送付シ所管大臣ハ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ  
本條第二項第三項ノ計算書ハ特ニ所管大臣ヨリ委任ヲ受ケタル官吏ヨリ直ニ會計検査院ニ送付セシムルコトヲ得

第四條 歳入歳出ノ豫算ハ決定ノ後所管大臣之ヲ專賣局長及專賣支局長ニ命シテ施行セシムヘシ

第五條 專賣局長又ハ專賣支局長ハ歳出ヲ支出スル爲金庫ニ向テ支拂請求書ヲ發スヘシ

第六條 仕拂請求書ヲ發スル官吏ハ煙葉草ノ賠償及購買費、外國ニ於テ仕拂ヲ爲ス經費及支部局ノ經費ニ限り專賣局又ハ專賣支局ノ出納官吏ニ現金ノ前渡ヲ爲スコトヲ得

第七條 各年度ノ歳出ニ屬スル仕拂請求書ヲ發スルハ毎年度三月三十一日限リトス  
仕拂請求書發行及取扱ノ手續ハ仕拂命令ノ例ニ依ル

第八條 各年度ニ屬スル定額戻入ヲ爲スハ毎年度三月三十一日限リトス

第九條 毎年度内ニ收入ヲ爲スヘキ權利ヲ得テ當該年度内ニ收入濟トナラサルモノハ收入未濟トシテ順次翌年度ニ繰越シ現ニ收入ヲナシタル年度ノ歳入ニ組入ルヘシ但シ明治三十年勅令第三百七十五號ニ依リ延納ヲ許可シタル葉煙草ノ代金ニ限り翌年度七月三十一日迄ハ當該年度ノ歳入ニ組入ルヘシ

第十條 毎年度内ニ支拂ヲ爲スヘキ義務ヲ生シ當該年度内ニ仕拂請求書ヲ發セサルモノハ支出未

濟トシテ順次翌年度ニ繰越シ當該年度經過後滿五箇年内ハ支出ノ請求アル毎ニ仕拂請求書ヲ發スヘシ但シ支出未濟ノ繰越額ハ支出濟額ト合シテ豫算定額ヲ超過スルヲ得ス

第十一條 毎年度内ニ於テ仕拂請求書ヲ發シ金庫ニ於テ仕拂ノ請求ヲ受ケサルモノハ仕拂未濟トシテ之ニ相當スル資金ヲ翌年度ニ繰越シ仕拂ノ請求アル毎ニ仕拂ヲ爲スヘシ

第十二條 前條ノ仕拂未濟金ハ會計法第十八條ニ依リ支拂義務ヲ免レタルトキハ其ノ期滿免除トナリタル年度ノ一般ノ歳入ニ繰入ルヘシ

第十三條 仕拂請求書ノ執行ニ關シテハ支拂命令執行ノ例ニ依ル

第十四條 歳入ヲ徵收スル官吏ハ其徵收簿ノ結果ニヨリ毎月徵收報告書ヲ調製シ参照書類ヲ添ヘ翌月十五日迄ニ專賣局ニ送付スヘシ(三十三年勅令第三百三十號ヲ以テ改正)

專賣局ハ作業全部ノ毎月徵收總報告書ヲ調製シ参照書類ヲ添ヘ其ノ翌月中ニ所管大臣ヲ經由シテ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第十五條 金庫出納役ハ毎月仕拂請求書受領濟報告書ヲ調製シ其ノ翌月中ニ大藏省ニ送付スヘシ

第十六條 資本ハ總テ價格ヲ付シテ計算スヘシ

第十七條 資本ノ價格ハ左ノ方法ニ依テ之ヲ定ム(三十四年勅令第二百二十八號ヲ以テ第一號但書ヲ加フ)  
一 土地ハ近鄰地ノ賣買價格五箇年間ノ平均ニ依ル近隣ニ比較スヘキ相當ノ土地ヲキトキハ五



人以上ノ評價人ヲ定メ其ノ評定價格ノ平均ニ依ル

但シ新ニ購入又ハ交換シタルトキハ購入價格又ハ交換價格ニ依ル

二 建造物及其ノ他ノ工作物機械器具及其ノ他ノ物品ハ建築費又ハ購入價格ニ依ル建築費又ハ購入價格ノ不明ナルモノハ物件ノ輕重ニ依リ二人以上ノ評價人ヲ定メ其ノ評定價格ノ平均ニ依ル

ニ依ル

三 葉煙草ハ賠償又ハ購買價格ニ依ル其ノ沒收等ニ係ルモノハ其ノ比準價格ニ依ル

第十八條 土地ノ價格ハ前條ノ方法ニ依リ毎五年ニ之ヲ改定スヘシ

第十九條 建造物及其ノ他ノ工作物機械器具及其ノ他ノ物品ハ永遠保存品ヲ除キ總テ保存期限ヲ定メ其ノ期限ニ應シテ毎年價格ヲ遞減スヘシ

前項中固定資本ニ屬スル物件ヲ修理シタルトキハ其ノ修理費ヲ以テ現年ノ價格ニ加ヘ再ヒ保存年限ニ應シテ價格ヲ遞減スヘシ

第二十條 前條ノ物件ヲ修理シタルトキハ保存年限ヲ改定シテ之ヲ延フルコトヲ得

第二十一條 毎年度ノ終リニ現在スル葉煙草ニシテ毀損又ハ變質ニ因リ其ノ價格減少スルトキハ當時ノ賠償又ハ購買價格ニ比準シテ改定スヘシ

第二十二條 歳入ノ收入濟額、收入未濟額、据置運轉資本ニ屬スル現金ノ持越高、總葉煙草ノ價格、總備品ノ價格ヲ以テ受入トシ歳出ノ支出濟額、支出未濟額、据置運轉資本額、賣拂代價收入濟物品ノ價格、賣拂代價收入未濟物品ノ價格、損失ニ歸シタル物品ノ價格ヲ以テ拂出トシ受

入ノ總額ヨリ拂出ノ總額ヲ控除シ殘餘アリタルトキハ作業ノ益金トシテ其ノ事業ヲ營ミタル年度ノ一般ノ歳入ニ納付スヘシ

第二十三條 大藏省ハ專賣局作業會計ノ主計簿ヲ備ヘ歳入ノ豫算額、確定額、收入濟額、不納缺損額、收入未濟額、歳出ノ豫算額、豫算決定後増加額、支出濟額、翌年度繰越額、殘額ヲ登記スヘシ(三十五年勅令第二百三號ヲ以テ條中追加)

第二十四條 專賣局ハ日記簿、原簿、補助簿ヲ備ヘ其ノ事業ニ關スル一切ノ計算ヲ登記スヘシ

第二十五條 歳入ヲ徵收スル官吏ハ徵收簿ヲ備ヘ歳入ノ種類ヲ區分シ確定額、收入濟額、不納缺損額、收入未濟額ヲ登記スヘシ(三十三年勅令第百三十三號ヲ以テ改正)

第二十六條 專賣局ハ歳入簿ヲ備ヘ歳入ノ種類ヲ區分シ歳入ノ豫算額、確定額、收入濟額、不納缺損額、收入未濟額ヲ登記スヘシ(三十五年勅令第二百三號ヲ以テ條中追加)

第二十七條 金庫出納役ハ支出簿ヲ備ヘ歳出ノ豫算額、仕拂請求書受領濟額ヲ登記スヘシ

第二十八條 此ノ規則ニ規定セサルモノハ總テ會計規則ノ各條項ヲ適用ス

附 則

本令ハ明治三十三年度ヨリ施行ス

●官設鐵道用品資金會計法明治二十六年一月法律第二號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル官設鐵道用品資金會計法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第十五類 官設鐵道用品資金會計法

二二四九



官設鐵道用品資金會計法

- 第一條 鐵道用品ヲ購入貯藏シ官設鐵道運輸營業並ニ建設事業ノ需用ニ應スル爲メ官設鐵道用品資金ヲ置キ特別ノ會計ヲ立テシム
- 第二條 官設鐵道用品資金ハ官設鐵道會計ノ据置運轉資本ノ内金百八十萬圓ヲ以テ之ニ充ツ
- 第三條 官設鐵道用品資金ヲ以テ購入貯藏シタル物品ノ製作改製及修理ノ費用ハ該資金ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ
- 第四條 官設鐵道用品資金會計ニ屬スル諸品ノ賣拂價格ハ其ノ自然ノ損減歩合、製作、改製及修理費並ニ其ノ附屬費用及購入ニ附隨スル諸費ヲ其ノ購入原價ニ加算シテ之ヲ定ムヘシ
- 第五條 官設鐵道用品資金特別會計ノ決算上該資金額ニ過剩ヲ生スルトキハ其ノ過剩金ヲ同年度一般ノ歲入ニ編入スヘシ
- 第六條 政府ハ毎年官設鐵道用品資金特別會計ノ歲入歲出豫算ヲ調製シ歲入歲出ノ總豫算ト俱ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ
- 第七條 官設鐵道用品資金特別會計ノ收入支出ニ關スル規程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第八條 本法ハ明治二十七年ヨリ施行ス

●官設鐵道用品資金會計規則明治二十六年七月 勅令第七十一號

朕官設鐵道用品資金會計規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

官設鐵道用品資金會計規則

- 第一條 官設鐵道用品資金ハ貯藏物品賣拂代金並ニ附屬雜收入ヲ以テ歲入トシ物品購入代製作費改製費修理費並ニ附屬諸費ヲ以テ歲出トス(二十七年勅令第九十一號ヲ以テ條中改正)
- 第二條 官設鐵道用品資金ノ歲出ハ實際ノ歲入額及資金ニ屬スル現金ノ持越高ヲ以テ支辨スヘシ
- 第三條 歲入歲出ノ豫算決算ハ作業及鐵道會計規則第二章ノ例ニ依ル
- 第四條 收入支出ノ取扱ハ作業及鐵道會計規則第三章ノ例ニ依ル
- 第五條 貯藏物品ノ購入原價ニシテ自然ノ腐朽又ハ毀損變質減量等ニ依リ其價格減少シタルトキハ毎年度ノ終リニ於テ之ヲ改定スヘシ
- 第六條 貯藏物品ノ損減歩合ハ自然ノ腐朽又ハ不用ニ歸シタルニ依リ生シタル既往ノ損減高及亡失毀損變質減量等ヲ參酌シテ之ヲ定ムルモノトス
- 第七條 受拂勘定ノ受入ニ屬スルモノ左ノ如シ
  - 第一 歲入ノ收入濟額
  - 第二 收入未濟額
  - 第三 資金ニ屬スル現金ノ持越高
  - 第四 總貯藏物品ノ價格
  - 第五 代價支出濟未收物品ノ價格



第八條 受拂勘定ノ拂出ニ屬スルモノ左ノ如シ

第一 歳出ノ支出濟額(二十六年勅令第二百二十七號ヲ以テ改正)

第二 支出未濟額

第三 資金額

第四 前受金

第五 代價收入濟物品ノ價格

第六 代價收入未濟既出物品ノ價格

第七 損失ニ歸シタル物品ノ價格

第八 損失金

第九條 受入ノ總額ヨリ拂出ノ總額ヲ控除シ過剩アルトキハ益金トシテ之ヲ同年度ノ一般ノ歳入ニ納付スヘシ

第十條 物品ノ買入不用物品賣拂ノ規程ハ會計規則第七章ノ例ニ依ル

第十一條 出納官吏ニ關スル規則ハ作業及鐵道會計規則第七章ノ例ニ依ル

第十二條 帳簿ニ關スル規則ハ作業及鐵道會計規則第八章ノ例ニ依ル

第十三條 本規則ニ依リ當該官吏ヨリ會計検査院ニ提出スル所ノ證明書ニ關スル規程様式ハ會計検査院ノ定ムル所ニ依ル(二十六年勅令第二百二十七號ヲ以テ條中改正)

第十四條 前條ノ外本規則ニ掲クル諸書類帳簿ノ様式ハ大藏大臣之ヲ定ムヘシ

第十五條 本規則ハ明治二十七年ヨリ施行ス

●官設鐵道用品ヲ官設鐵道用品資金ヨリ買入ルルトキ前金拂概算渡方明治二十九年二月法律第二號  
朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル官設鐵道用品ヲ官設鐵道用品資金ヨリ買入ル、トキ前金拂概算渡ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
官設鐵道用品ヲ官設鐵道用品資金會計ヨリ買入ル、トキ前金拂並概算渡ヲ爲スコトヲ得

●北海道官設鐵道用品資金會計法明治三十二年二月法律第十號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル北海道官設鐵道用品資金會計法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

北海道官設鐵道用品資金會計法

第一條 北海道官設鐵道ノ用品ヲ購入貯藏シ其ノ運輸營業並建設事業ノ需用ニ應スル爲北海道官設鐵道用品資金ヲ置キ特別ノ會計ヲ立テシム

第二條 北海道官設鐵道用品資金ハ五拾萬圓トシ必要ニ應シ漸次一般會計ヨリ繰入ス

第三條 北海道官設鐵道用品資金ノ會計ニ關シテハ明治二十六年法律第二號官設鐵道用品資金會計法ヲ適用ス

附 則

此ノ法律ハ明治三十二年ヨリ施行ス



●北海道官設鐵道用品ヲ北海道官設鐵道用品資金會計ヨリ買入ルルトキ前金拂概算渡方明治三十二年十二月法

律第百八號 朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル北海道官設鐵道用品買入手續ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

ム 北海道官設鐵道用品ヲ北海道官設鐵道用品資金會計ヨリ買入ルルトキハ前金拂並概算渡ヲ爲スコトヲ得

●北海道鐵道部支部局及派出工場現金前渡方明治三十四年四月法律第十五號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル北海道鐵道部支部局及派出工場現金前渡官吏設置ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

シ茲ニ之ヲ公布セシム 北海道鐵道部ノ支部局及派出工場ニ於テ仕拂ヲ爲ス經費ハ主任ノ官吏ニ委任シテ仕拂ヲ爲サシムル爲現金ノ前渡ヲ爲スコトヲ得

●事業公債及鐵道公債特別會計法明治三十二年二月法律第十三號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル事業公債及鐵道公債特別會計法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム 事業公債及鐵道公債特別會計法

第一條 鐵道敷設法、事業公債條例、北海道鐵道敷設法及臺灣事業公債法ニ依ル公債金ノ會計ハ特別トシ一般ノ歲入歲出ト區分スヘシ(三十二年法律第七十八號ヲ以テ改正)

第二條 公債募集金ヲ使用セントスルトキハ其ノ金額ヲ一般ノ歲入ニ組入レ一般ノ歲出トシテ之ヲ拂出スヘシ 但シ償金特別會計資金ノ一時繰替金ヲ返償スル場合ニハ直ニ償金特別會計ノ資金ニ繰入シ又臺灣事業公債法第五條ニ依ル一時借入金ヲ償還スル場合ニハ直ニ臺灣銀行ニ仕拂フヘシ(三十四年法律第二十

第三條 公債募集金ノ毎年度内ニ使用セサルモノハ翌年度へ繰越スヘシ九號ヲ以テ但書改正)

第四條 公債ヲ以テ支辨スル事業完了ノ上公債募集金ニ剩餘アルトキハ一般ノ歲入ニ繰入スヘシ

第五條 政府ハ毎年公債特別會計ノ歲入歲出豫算ヲ調整シ歲入歲出ノ總豫算ト共ニ帝國議會ニ提出スヘシ

附 則

第六條 本法ハ明治三十二年度ヨリ施行ス

第七條 鐵道公債會計法ハ明治三十一年度限り廢止ス

●貨幣整理資金特別會計法明治三十年三月法律第十七號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル貨幣整理資金特別會計法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム 貨幣整理資金特別會計法

第十五類 北海道官設鐵道用品ヲ北海道官設鐵道用品資金會計ヨリ買入ルルトキ前金拂概算渡方北 海道鐵道部支部局及派出工場現金前渡方 事業公債及鐵道公債特別會計法 貨幣整理資金 特別會計法



第一條 一圓銀貨幣及流通不便ノ貨幣引揚交換ノ爲貨幣整理資金ヲ置キ其ノ歳入歳出ハ一般會計ト區分シ特別ノ會計ヲ設置ス

第二條 明治三十年度以後造幣局特別會計作業益金ハ貨幣整理資金ニ充ツヘシ

第三條 交換ノ上引揚タル一圓銀貨幣及流通不便ノ貨幣ヲ地金トシテ賣却スルトキハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

第四條 毎會計年度ニ於テ貨幣整理資金特別會計ノ決算上該資金額ニ過剰ヲ生スルトキハ其ノ過剰金ヲ該資金ニ編入スヘシ

第五條 政府ハ毎年貨幣整理資金特別會計ノ歳入歳出豫算ヲ調製シ帝國議會ニ提出スヘシ

第六條 貨幣整理資金ノ收入支出ニ關スル規定ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

●貨幣整理資金特別會計規則 明治三十年四月 勅令第二百二十八號

朕貨幣整理資金特別會計規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

貨幣整理資金特別會計規則

第一條 貨幣整理資金ハ地金賣拂代ヲ以テ歳入トシ貨幣交換金、貨幣交換及地金賣拂ニ伴フ諸費ヲ以テ歳出トス(三十一年勅令第七十號ヲ以テ本條ヲ改正ス)

第二條 歳入歳出ノ豫定計算書及決定計算書ハ大藏大臣之ヲ調製シ帝國議會ニ提出ノ手續ヲ爲スヘシ

第三條 各年度ニ於テ歳入ヲ收入シ歳出ノ仕拂命令ヲ發スルハ毎年度三月三十一日ヲ限リトス

第四條 大藏大臣ハ其ノ年三月三十一日ニ終リタル會計年度ノ受拂勘定表ヲ調製シ歳入歳出ノ豫定計算書ニ添付スヘシ

第五條 受拂勘定ノ受入ニ屬スルモノ左ノ如シ

第一 歳入ノ收入濟額

第二 收入未濟額

第三 資金ニ屬スル現金ノ持越高

第四 造幣局作業益金ノ受入額

第五 總地金ノ價格

第六條 受拂勘定ノ拂出ニ屬スルモノ左ノ如シ

第一 歳出ノ支出濟額

第二 資金額

第三 代價收入濟地金ノ價格

第四 代價收入未濟地金ノ價格

第七條 受入ノ總額ヨリ拂出ノ總額ヲ控除シ過剩アルトキハ資金ニ編入シ不足ヲ生スルトキハ資金ノ減額ト爲スヘシ

第八條 此ノ規則ニ規定セサルモノハ總テ一般會計規則ノ各條項ヲ適用ス



●紙幣交換基金特別會計法明治二十三年三月法律第二十四號  
朕紙幣交換基金特別會計法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

紙幣交換基金特別會計法

- 第一條 從來政府ニ於テ發行シタル紙幣ヲ廢止スル爲メ紙幣交換基金ヲ置キ漸次之ヲ交換セシム
- 第二條 政府所有ノ準備金壹千萬圓ハ之ヲ紙幣交換基金ニ組入ルヘシ(二十三年法律第五十六號ヲ以テ本項政府ハ金貳千貳百萬圓ヲ限リ日本銀行ヨリ借入ヲ爲シ前項ノ交換基金ニ組入ルヘシ)
- 加進第三條 紙幣交換基金ノ會計ハ特別トシテ一般ノ歲入歲出ト區分スヘシ
- 第四條 毎年度ニ於テ紙幣交換基金ノ交換未済トナリタルモノハ漸次之ヲ翌年度ヘ繰越スヘシ
- 第五條 紙幣交換基金ノ收入支出ニ關スル規則ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第六條 本法ハ明治二十三年四月一日ヨリ施行ス

●鎖店銀行紙幣交換基金特別會計法明治二十三年三月法律第二十五號

朕鎖店銀行紙幣交換基金特別會計法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

鎖店銀行紙幣交換基金特別會計法

- 第一條 國立銀行條例第九十八條ニ於テ定メタル鎖店銀行紙幣交換基金ノ會計ハ特別トシテ一般ノ歲

入歲出ト區分スヘシ

- 第二條 毎年度ニ於テ鎖店銀行紙幣交換基金ノ交換未済トナリタルモノハ漸次之ヲ翌年度ヘ繰越スヘシ
- 第三條 鎖店銀行紙幣交換基金ノ收入支出ニ關スル規則ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第四條 本法ハ明治二十三年四月一日ヨリ施行ス
- 第五條 本法ハ平穩鎖店ヲ爲シ又ハ營業滿期ニ至リタル國立銀行紙幣並ニ營業滿期前ニ特別處分ヲ爲シタル國立銀行紙幣交換基金ノ會計ニモ之ヲ適用ス(二十八年法律第十六號ヲ以テ本條追加二十九法律第十二號ヲ以テ條中改正)

●整理公債條例ニ依リ募集又ハ償還スル公債金政府紙幣交換基金鎖店銀行紙幣交換基金特別會計ノ規程明治二十三年四月勅令第六十八號

- 朕整理公債條例ニ依リ募集又ハ償還スル公債金政府紙幣交換基金鎖店銀行紙幣交換基金特別會計ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
- 整理公債條例ニ依リ募集又ハ償還スル公債金政府紙幣交換基金鎖店銀行紙幣交換基金特別會計ノ規定ハ左ニ掲クルモノノ外總テ明治二十二年勅令第六十號會計規則ニ準據スヘシ
- 第一 大藏大臣ハ毎年公債整理金政府紙幣交換基金鎖店銀行紙幣交換基金ノ歲入歲出豫定計算書ヲ調製シ歲入歲出總豫算ト共ニ帝國議會ニ提出ノ手續ヲナスヘシ
- 第二 大藏大臣ハ公債整理金政府紙幣交換基金鎖店銀行紙幣交換基金ノ歲入歲出決定計算書ヲ

第十五類 紙幣交換基金特別會計法 鎖店銀行紙幣交換基金特別會計法 整理公債條例ニ依リ募集又ハ償還スル公債金政府紙幣交換基金鎖店銀行紙幣交換基金特別會計ノ規程 二二五九



調製シ歳入歳出總決算ト共ニ帝國議會ニ提出ノ手續ヲナスヘシ

第三 紙幣交換基金ハ仕拂命令ヲ發シテ現金ヲ日本銀行ニ前渡スルコトヲ得此場合ニ於ケル仕拂ノ證明ハ明治二十三年勅令第二十號ニ準據スヘシ

第四 毎年度ニ於テ仕拂命令ヲ發スルハ毎年三月三十一日ヲ限リトス

第五 收入官吏ノ會計検査院ニ提出スヘキ計算書ヲ大藏大臣ニ送付スルハ毎年度經過後二箇月以内トス(二十六年勅令第二百五號ヲ以テ本文中刪除)

第六 大藏省ハ公債整理金政府紙幣交換基金鑛店銀行紙幣交換基金會計ノ主計簿ヲ備フヘシ

●陸軍作業會計法明治二十三年三月法律第十八號

朕陸軍作業會計法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍作業會計法

第一條 東京砲兵工廠大阪砲兵工廠及千住製絨所ハ其事業ヲ經營スル爲メ固定資本据置運轉資本ヲ置キ作業上ノ收入及其附屬雜收入ハ作業ノ費用ニ充ルコトヲ許シ特別ノ會計ヲ立テシム

第二條 東京砲兵工廠大阪砲兵工廠ニ於テハ從來使用シ及將來増加スル所ノ建物其他工作物船舶機械及重要ナル器具ヲ以テ固定資本トシ從來ノ營業資本額ヲ以テ据置運轉資本トス(三十五年法律第四十六號ヲ以テ條中改正)

千住製絨所ニ於テハ從來使用シ及將來増加スル所ノ土地建物其他工業物機械及重要ナル器具ヲ以テ固定資本トシ從來ノ營業資本額ヲ以テ据置運轉資本トス

第三條 東京及大阪砲兵工廠ハ職工人夫ノ諸費材料素品及機械運轉用品ノ購入費建物其他工作物船舶機械器具ノ維持修理及補充費工場ノ雜費並ニ損失金ヲ作業ノ歳出トス(上同)

千住製絨所ハ俸給諸旅費廳費生産品販賣ノ諸費職工人夫ノ諸費材料素品及機械運轉用品ノ購入費土地建物其他工作物機械器具ノ維持修理及補充費工場ノ雜費並ニ損失金ヲ作業ノ歳出トス

第四條 各作業所特別會計ノ歳出額ハ豫算定額内ニ於テ實際ノ歳入及据置運轉資本ノ合計額ヲ超過スルヲ許サス

第五條 作業所ノ純益及固定資本ニ屬スル物件ノ賣拂代金ハ總テ一般ノ歳入ニ編入スヘシ

第六條 政府ハ毎年各作業所特別會計ノ歳入歳出豫算ヲ調製シ歳入歳出ノ總豫算ト俱ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ

第七條 豫算外ニ軍用品ノ製作修理ヲ要スル場合ニ於テ其費用ヲ補フ爲メ各作業所ノ歳出豫算ニ豫備費ヲ設クルコトヲ得

第八條 各作業所ニ於テ機械器具材料素品及機械運轉用品ヲ外國ヨリ買入ル、トキハ前金拂ヲ爲スコトヲ得

第九條 各作業所特別會計ノ收入支出ニ關スル規程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 本法ハ明治二十三年度ヨリ施行ス其帝國議會ニ關涉スルモノハ帝國議會開會後ノ會計年度ヨリ施行ス



●陸軍兵備品會計規則明治二十四年三月  
勅令第二十二號

陸軍兵備品會計規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍兵備品會計規則

- 第一條 陸軍兵備品ハ分テ出師準備品通常兵備品ノ二類トス
- 第二條 出師準備品トハ左ニ掲クル諸品ヲ云フ(三十四年勅令第九號  
ヲ以テ十號ヲ追加ス)
  - 一 兵器彈藥及各兵器具並材料
  - 二 秘密圖書
  - 三 馬匹及戰時之ニ要スル器具
  - 四 戰用糧秣及炊爨具
  - 五 戰用被服及裁縫具
  - 六 戰用衛生材料
  - 七 戰用獸醫材料
  - 八 戰用天幕
  - 九 陣中事務用品
  - 十 軍隊輸送用補助物件
- 第三條 通常兵備品トハ左ニ掲クル諸品ヲ云フ
  - 一 圖書
  - 二 糧秣
  - 三 被服及裁縫具
  - 四 衛生材料
  - 五 獸醫材料
  - 六 兵營備付陣營具

二 糧秣

三 被服及裁縫具

四 衛生材料

五 獸醫材料

六 兵營備付陣營具

- 第四條 出師準備品ノ品目數量ハ陸軍大臣參謀總長ト協議ノ上上裁ヲ經テ之ヲ定ム
- 第五條 出師準備品ハ其保存ヲ全カラシムル爲メ通常兵備品ト新陳交換スルヲ例トス
- 第六條 出師準備品ハ「近衛都督」各師團長及當該長官之ヲ管理ス
- 第七條 出師準備品及其數量ニ關スル書類ハ主任者ノ外關與スルコトヲ得ス
- 第八條 通常兵備品中軍隊其他委任經理ニ係ル糧食被服消耗品陣營具ニシテ特ニ保管ノ方法ヲ定メタルモノニアリテハ各保管者聯帶シテ其責ニ任ス
- 第九條 通常兵備品ノ會計ハ明治二十二年勅令第八十四號物品會計規則ニ依ル
- 第十條 出師準備品ノ保管出納及檢査ノ方法其他細則ハ陸軍大臣之ヲ定ム

●戰用品取扱規則明治三十一年七月  
陸達第六十八號

戰用品糧秣、炊具、被服裁縫具、天取扱規則左ノ通定ム  
 戰用品糧秣、馬匹手入具、事務用品  
 戰用品糧秣、炊具、被服裁縫具、天取扱規則  
 戰用品幕、馬匹手入具、事務用品



第一章 總則

第一條 本規則ハ陸軍兵備品會計規則第二條第三項(馬匹手入具)第四項第五項第八項第九項ニ掲クル戦用品ノ保管出納及検査ノ方法ヲ規定ス

第二條 戦用品ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第二章 保管及出納

第三條 本規則ニ依リ規定シタル戦用品ハ左ノ區分ニ依リ當該師團長若クハ當該長官ニ於テ保管出納ノ擔任者ヲ定メ其行務ヲ規定シ之カ取扱ヲ爲サシムヘシ

其一 師團長ノ主管ニ係ル動員計畫ニ要スルモノ及特設部隊ニ要スルモノニ在テハ兵器被服糧食材料器具貯藏區分表ニ依リ其之ヲ貯藏スル部隊ヲ管轄スル師團長

其二 前項ノ外兵器被服糧食材料器具貯藏區分表ニ依リ官衙ニ貯藏スルモノニ在テハ當該長官

第四條 戦用品ノ出納命令ハ當該師團長若クハ當該長官之ヲ執行スヘシ但時宜ニ依リ部下ニ之ヲ分任セシムルコトヲ得

第五條 戦用品ハ第四條命令官ノ命令アルニ非レハ之ヲ出納スルコトヲ得ス

第六條 戦用品ト通常兵備品ト新陳交換スルノ方法ハ當該師團長若クハ當該長官之ヲ規畫シ勉メテ有利ノ手段ヲ執ルヘシ

第七條 戦用品ノ保管出納ヲ擔任スル者ハ該保管物品ニ就キ一切ノ責ニ任ス

第八條 戦用品中廢除若クハ損敗ニ屬スルモノハ當該師團長若クハ當該長官ニ申告シ其指揮ヲ受クヘシ

第九條 當該師團長若クハ當該長官前項ノ申告ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ其處分ヲ爲スヘシ

第十條 戦用品ノ保管出納ヲ擔任シタル者ノ責任ハ第三章通常検査ニ基キ検査官ノ検査ヲ完了スル後當該出納簿ニ検査済ヲ證明シ検査官署名捺印セル時期ニ於テ解除スルモノトス

第三章 検査  
第十一條 戦用品検査ノ方法ハ分テ左ノ二種トス  
其一 通常検査  
其二 臨時検査

第十二條 通常検査ハ毎年一回ニシテ師團長ニ在テハ臨時ニ検査官ヲ命シ之ヲ執行セシムルモノトス官衙長官ニ在テハ隨次之ヲ檢

第十三條

查シ若クハ部下ヲシテ其検査ヲ爲サシムルコトヲ得

第十四條 臨時検査ハ陸軍大臣臨時検査官ヲ命シ全國若クハ其一部ニ就テ施行セシムルモノトス

第十五條 検査ノ目的ハ專ラ戦用品ノ整齊ヲ檢シ其材料及製作ノ精粗並新陳交換貯藏保全又製式ノ適否ヲ閱視検査シ常ニ戦用ニ堪ヘシメ併テ各部隊齊一ノ方針ニ據ラシムルニ在リ

第十六條 通常検査官ハ検査終レハ其検査ノ成績ヲ師團長若クハ官衙長官ニ報告ス當該師團長若クハ當該官衙長官ハ之ニ意見ヲ附シ陸軍大臣ニ報告スヘシ

臨時検査官ハ検査終レハ其検査ノ成績ニ意見ヲ附シ陸軍大臣ニ報告スヘシ

附則  
第十六條 臺灣ニ在テハ本規則ニ準シ取扱フモノトス

第十七條 臺灣ニ在テハ本規則ニ準シ取扱フモノトス

第十八條 臺灣ニ在テハ本規則ニ準シ取扱フモノトス

第十九條 臺灣ニ在テハ本規則ニ準シ取扱フモノトス

第二十條 臺灣ニ在テハ本規則ニ準シ取扱フモノトス

第二十一條 臺灣ニ在テハ本規則ニ準シ取扱フモノトス

第二十二條 臺灣ニ在テハ本規則ニ準シ取扱フモノトス

第二十三條 臺灣ニ在テハ本規則ニ準シ取扱フモノトス

第二十四條 臺灣ニ在テハ本規則ニ準シ取扱フモノトス

第二十五條 臺灣ニ在テハ本規則ニ準シ取扱フモノトス

第二十六條 臺灣ニ在テハ本規則ニ準シ取扱フモノトス

第二十七條 臺灣ニ在テハ本規則ニ準シ取扱フモノトス

第二十八條 臺灣ニ在テハ本規則ニ準シ取扱フモノトス

第二十九條 臺灣ニ在テハ本規則ニ準シ取扱フモノトス

第三十條 臺灣ニ在テハ本規則ニ準シ取扱フモノトス

第三十一條 臺灣ニ在テハ本規則ニ準シ取扱フモノトス

第三十二條 臺灣ニ在テハ本規則ニ準シ取扱フモノトス

第三十三條 臺灣ニ在テハ本規則ニ準シ取扱フモノトス

第三十四條 臺灣ニ在テハ本規則ニ準シ取扱フモノトス

第三十五條 臺灣ニ在テハ本規則ニ準シ取扱フモノトス

第三十六條 臺灣ニ在テハ本規則ニ準シ取扱フモノトス

第三十七條 臺灣ニ在テハ本規則ニ準シ取扱フモノトス

第三十八條 臺灣ニ在テハ本規則ニ準シ取扱フモノトス

第三十九條 臺灣ニ在テハ本規則ニ準シ取扱フモノトス

第四十條 臺灣ニ在テハ本規則ニ準シ取扱フモノトス

第四十一條 臺灣ニ在テハ本規則ニ準シ取扱フモノトス

第四十二條 臺灣ニ在テハ本規則ニ準シ取扱フモノトス

第四十三條 臺灣ニ在テハ本規則ニ準シ取扱フモノトス

第四十四條 臺灣ニ在テハ本規則ニ準シ取扱フモノトス

第四十五條 臺灣ニ在テハ本規則ニ準シ取扱フモノトス

第四十六條 臺灣ニ在テハ本規則ニ準シ取扱フモノトス

第四十七條 臺灣ニ在テハ本規則ニ準シ取扱フモノトス

第四十八條 臺灣ニ在テハ本規則ニ準シ取扱フモノトス

第四十九條 臺灣ニ在テハ本規則ニ準シ取扱フモノトス

第五十條 臺灣ニ在テハ本規則ニ準シ取扱フモノトス

第五十一條 臺灣ニ在テハ本規則ニ準シ取扱フモノトス

第五十二條 臺灣ニ在テハ本規則ニ準シ取扱フモノトス

第五十三條 臺灣ニ在テハ本規則ニ準シ取扱フモノトス

第十五類 海軍兵備品會計規則

●海軍兵備品會計規則(明治二十三年三月勅令第六十四號)

朕海軍兵備品會計規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍兵備品會計規則

第一條 海軍兵備品トハ左ノ諸品ヲ云フ

一 兵器、彈藥、水雷及其附屬品

二 秘密圖書、測器海圖

三 艦營需品

四 被服、糧食

五 治療品



第二條 海軍兵備品ノ會計ハ本則ニ明文アルモノヲ除クノ外物品會計規則ニ依ル

第三條 (二十六年勅令第四十七號ヲ以テ削除)

第四條 物品會計規則第十五條第十七條ニ依リ會計検査院ニ送付スル計算書中兵器彈藥水雷及其附屬品並秘密圖書測器海圖ハ價格ノミヲ明記シ其數量ハ檢閲官ノ證明書ヲ以テ保證スヘシ(二十六年勅令第四十七號ヲ以テ改正)

第五條 本規則ハ明治三十三年四月一日ヨリ施行ス

●陸海軍出師準備ノ物品ハ會計検査院法ヲ適用セス明治二十三年八月法律第七十號

陸海軍出師準備ニ屬スル物品検査ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸海軍出師準備ニ屬スル物品ニ對シテハ陸海軍大臣其責ニ任シ會計検査院法ヲ適用スルノ限ニアラス

●軍事上緊急ノ必要ニ因リ購入シタル政府ノ物件貸付賣渡方明治二十七年七月勅令第九十二號

陸軍上緊急ノ必要ニ因リ購入シタル政府ノ物件ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
軍事上緊急ノ必要ニ因リ購入シタル政府ノ物件ヲ貸付ケ又ハ賣渡ス場合ニ於テハ官有財産管理規則第四條、第六條及第七條ニ依ラサルコトヲ得

●海軍造兵材料資金會計法明治三十三年一月法律第九號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル海軍造兵材料資金會計法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍造兵材料資金會計法

第一條 海軍造兵事業ノ需用ニ應スル爲材料貯蓄ノ資本トシテ海軍造兵材料資金ヲ置キ特別ノ會計ヲ立テシム

第二條 海軍造兵材料資金ハ明治三十三年四月一日現在ノ海軍造兵廠及鎮守府兵器部ニ於ケル貯蓄材料ヲ以テ之ニ充テ毎年第六條ノ過剰金ニ相當スル金額ヲ加ヘ漸次増加シテ三百萬圓トス

第三條 海軍造兵材料資金會計ニ屬スル造兵材料ヲ使用スルトキハ海軍省所管經費ヲ以テ之ヲ購入スヘシ此ノ場合ニ於テハ前金拂ヲ爲スコトヲ得

第四條 海軍造兵材料資金ヲ以テ貯蓄シタル材料ノ損減ハ豫メ歩合ヲ定メテ材料原價ニ加算スヘシ

第五條 造兵事業ニ使用シタル材料ノ殘材殘屑及廢兵器ニシテ造兵材料トシテ使用シ得ヘキモノハ海軍造兵材料資金會計ノ材料ニ組入ルコトヲ得

第六條 每會計年度ニ於テ海軍造兵材料資金特別會計ノ決算上該資金額ニ過剰ヲ生スルトキハ其ノ過剰金ヲ同年度一般ノ歳入ニ編入スヘシ

第七條 政府ハ毎年海軍造兵材料資金特別會計ノ歳入歳出豫算ヲ調製シ歳入歳出ノ總豫算ト俱ニ帝國議會ニ提出スヘシ

第十五類

陸海軍出師準備ノ物品ハ會計検査院法ヲ適用セス 軍事上緊急ノ必要ニ因リ購入シタル政府ノ物件貸付賣渡方 海軍造兵材料資金會計法 二二六七



第八條 海軍造兵材料資金ノ收入支出ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

本法ハ明治三十三年度ヨリ之ヲ施行ス

●海軍造船材料資金會計法明治三十五年三月法律第三十四號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル海軍造船材料資金會計法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍造船材料資金會計法

第一條 海軍造船事業ノ需要ニ應スル爲材料貯蓄ノ資本トシテ海軍造船材料資金ヲ置キ特別ノ會計ヲ立テシム

第二條 海軍造船材料資金ハ既定ノ鎮守府造船材料資金二百七十八萬圓ヲ以テ之ニ充テ毎年第六條ノ過剩金ニ相當スル金額ヲ加ヘ漸次増加シテ六百五十萬圓トス

第三條 海軍造船材料資金會計ニ屬スル造船材料ヲ使用スルトキハ海軍省所管經費ヲ以テ之ヲ購入スヘシ此ノ場合ニ於テハ前金拂ヲ爲スコトヲ得

第四條 海軍造船材料資金ヲ以テ貯蓄シタル材料ノ損減ハ豫メ歩合ヲ定メテ材料原價ニ加算スヘシ

第五條 造船事業ニ使用シタル材料ノ殘材、殘屑、艦船取外シ物品及廢船舟ニシテ造船材料トシテ使用シ得ヘキモノハ海軍造船材料資金會計ノ材料ニ組入ルルコトヲ得

第六條 每會計年度ニ於テ海軍造船材料資金特別會計ノ決算上該資金額ニ過剩ヲ生スルトキハ其ノ過

剩金ヲ同年度一般ノ歳入ニ編入スヘシ

第七條 政府ハ毎年海軍造船材料資金特別會計ノ歳入歳出豫算ヲ調製シ歳入歳出ノ總豫算ト俱ニ帝國議會ニ提出スヘシ

第八條 海軍造船材料資金ノ收入支出ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

本法ハ明治三十五年度ヨリ之ヲ施行ス

鎮守府造船材料資金會計法ハ明治三十四年度限り之ヲ廢止ス

●海軍造兵材料資金造船材料資金會計規則明治三十三年三月勅令第五十五號

朕海軍造兵材料資金會計規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍造兵材料資金及造船材料資金會計規則(三十五年勅令第五十號ヲ以テ改正)

第一條 造兵材料資金及造船材料資金ハ貯蓄材料賣拂代金ヲ以テ歳入トシ材料購入代、製作費、改製費、修理費並其ノ附屬諸費及損失金ヲ以テ歳出トス(三十五年勅令第五十號ヲ以テ條中追加)

第二條 造兵材料資金及造船材料資金ノ歳出ハ實際ノ歳入額及資金ニ屬スル現金ノ持越高ヲ以テ支辨スヘシ(上同)

第三條 歳入歳出ノ豫算決算ハ作業及鐵道會計規則第二章ノ例ニ依ル

第四條 收入支出ノ取扱ハ作業及鐵道會計規則第三章ノ例ニ依ル



第五條 貯蓄材料ノ原價ハ購入代價、製作費、改製費、修理費並其ノ附屬諸費ヲ以テ計算スヘシ但シ市價ノ低落又ハ毀損等ニ因リ其ノ實價減少シタルトキハ毎年度ノ終リ當時ノ市價ニ依リ其ノ價格ヲ改定スヘシ

第六條 貯蓄材料ヲ使用スルトキハ原價ニ損減歩合ヲ加ヘテ之ヲ賣拂フヘシ

第七條 貯蓄材料ノ損減歩合ハ前年度及前前年度ノ損減高ヲ參酌シテ之ヲ定ム

第八條 歳入額、收入未濟額、資金ニ屬スル現金ノ持越高總材料ノ價格及代價支出濟未收物品ノ價格ヲ以テ受入トシ歳出額、支出未濟額、資金額、前受金ノ精算未濟額、賣拂代收濟材料ノ價格、賣拂代收未濟既出材料ノ價格、損失ニ歸シタル材料ノ價格及損失金ヲ以テ拂出シト受入ノ總額ヨリ拂出ノ總額ヲ控除シ過剩アルトキハ造兵材料若ハ造船材料賣拂益金トシテ之ヲ同年度ノ一般ノ歳入ニ納付スヘシ(三十五年勅令第五十號ヲ以テ條中改正)

第九條 出納官吏ニ關スル規則ハ作業及鐵道會計規則第七章ノ例ニ依ル

第十條 帳簿ニ關スル規則ハ作業及鐵道會計規則第八章ノ例ニ依ル

第十一條 此ノ規則ニ規定セサルモノハ會計規則ノ各條項ヲ適用ス

附則

本令ハ明治三十三年度ヨリ之ヲ施行ス

●軍艦水雷艇補充基金特別會計法明治三十二年三月法律第七十九號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル軍艦水雷艇補充基金特別會計法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

軍艦水雷艇補充基金特別會計法

第一條 軍艦水雷艇補充基金ヲ置キ其ノ歳入歳出ハ一般會計ト區分シ特別會計ヲ設置ス

第二條 償金特別會計資金ノ内三千萬圓ハ軍艦水雷艇補充基金ニ組入ルヘシ

第三條 明治三十七年度以後各前年度末日ニ於テ艦籍ニ現在スル艦艇製造費ノ左ニ掲クル遞減歩率ニ相當スル金額ヲ毎年度一般會計ヨリ軍艦水雷艇補充基金ニ組入ルヘシ

防護軍艦 百分ノ三、九

無防護軍艦 百分ノ五、四

水雷艇 百分ノ六、五

第四條 軍艦水雷艇補充基金ニ前條ノ組入ヲ爲スニ當リ艦艇製造費ノ左ニ掲クル遞減年期ヲ過キタル艦艇ニ對シテハ翌年度ヨリ其ノ組入ヲ停止シ爾後艦艇ノ艦籍ヨリ除カレタルモノアルトキ其ノ遞減殘額ニ相當スル金額ヲ翌年度ニ於テ一般會計ヨリ基金ニ組入ルヘシ

防護軍艦 二十五箇年

無防護軍艦 十八箇年

水雷艇 十五箇年

第五條 軍艦水雷艇補充基金ハ大藏省預金ニ寄託シ其利子ハ之ヲ基金ニ編入スヘシ

第六條 軍艦水雷艇補充基金ハ軍艦水雷艇補充費ノ財源ニ充ツ但シ元資金三千萬圓ハ之ヲ費消スルコ



トヲ得ス

第七條 政府ハ毎年軍艦水雷艇補充基金特別會計ノ歲入歲出豫算ヲ調製シ歲入歲出ノ總豫算ト共ニ帝國議會ニ提出スヘシ

●償金特別會計法明治二十九年三月法律第六號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル償金特別會計法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

償金特別會計法

第一條 償金及其ノ利子ハ一般ノ歲入歲出ト區分シ特別ノ會計ヲ設置ス

第二條 償金ハ金銀地金及有價證券ヲ以テ之ヲ保有スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ日本銀行ヲシテ其ノ交換ヲ取扱ハシム

前項ノ交換ヨリ生スル差増減ハ本會計ノ歲入出ニ屬スルモノトス

第三條 國庫内現金融通ノ爲國庫ヨリハ償金ノ金地金ヲ以テ、日本銀行ヨリハ之ニ相當スル兌換銀行券ヲ以テ相互間ニ貸借勘定ヲ組成スルコトヲ得此ノ場合ニ於ケル利子ノ割合ハ大藏大臣之ヲ定ム

(三十二年法律第九號ヲ以テ第三項ヲ追加ス)

前項ノ金地金ハ日本銀行ニ於テ兌換銀行券ノ準備ニ供スヘキモノトス

償金ハ歲計上ノ都合ニ依リ國庫内他ノ會計部ヘ一時繰替運用ヲ爲スコトヲ得

第四條 政府ハ毎年償金特別會計ノ歲入歲出豫算ヲ調製シ歲入歲出ノ總豫算ト共ニ帝國議會ニ提出ス

ヘシ

●教育基金特別會計法明治三十二年三月法律第八十號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル教育基金特別會計法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

教育基金特別會計法

第一條 教育基金ヲ置キ其ノ歲入歲出ハ一般會計ト區分シ特別會計ヲ設置ス

第二條 償金特別會計資金ノ内千萬圓ハ教育基金ニ組入ルヘシ

第三條 教育基金ハ普通教育費ニ使用ス

前項普通教育費ノ使用ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 教育基金ヲ使用セントスルトキハ其ノ金額ヲ一般ノ歲入ニ組入レ一般ノ歲出トシテ拂出スヘシ但シ元資金千萬圓ハ之ヲ費消スルコトヲ得ス

第五條 教育基金ハ大藏省預金ニ寄託シ其ノ利子ハ之ヲ基金ニ編入スヘシ

第六條 政府ハ毎年教育基金特別會計ノ歲入歲出豫算ヲ調製シ歲入歲出ノ總豫算ト共ニ帝國議會ニ提出スヘシ

●官立學校及圖書館會計法明治二十三年三月法律第二十六號

朕官立學校及圖書館會計法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム



官立學校及圖書館會計法

第一條 文部省直轄學校及圖書館並「農商務省所管東京農林學校」ハ資金ヲ所有シ政府ノ支出金資金ヨリ生スル收入授業料寄附金及其他ノ收入ヲ以テ其歲出ニ充ツルコトヲ許シ特別ノ會計ヲ立テシム

第二條 學校及圖書館ノ資金ハ從來所有スル蓄積金政府ヨリ交付シ若クハ他ヨリ寄附シタル動産不動産及歲入殘餘ヨリ成ルモノトス

第三條 教員事務員ノ俸給諸給旅費器具器械圖書標本費授業費試驗費生徒ニ關スル諸費事務處費營繕費雜支出其他寄附者ノ指定シタル費途ヲ以テ學校及圖書館ノ歲出トス

第四條 學校及圖書館ノ寄附金ニシテ特ニ用途ヲ指定シタルモノハ其約束ニ從ヒ之ヲ使用シ其會計ハ別ニ之ヲ整理スヘシ

第五條 政府ハ毎年各學校及圖書館ノ歲入歲出豫算ヲ調製シ歲入歲出ノ總豫算ト俱ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ

第六條 學校及圖書館ノ收入支出ニ關スル規程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 本法ハ明治二十三年度ヨリ施行ス其帝國議會ニ關涉スルモノハ帝國議會開會後ノ會計年度ヨリ施行ス

●官立學校及圖書館會計規則明治二十三年三月勅令第五十三號  
朕官立學校及圖書館會計規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

官立學校及圖書館會計規則

第一章 資金

第一條 資金ヲ分テ左ノ二種トス

第一 維持資金

第二 特別資金

維持資金ヨリ生スル利子其他ノ收入ハ學校一般ノ經費ニ充ツルモノトス

特別資金ヨリ生スル利子其他ノ收入ハ特定ノ用途ニ充テ其殘餘ハ該資金ノ増殖ニ充ツルモノトス

第二條 資金ハ所管大臣之ヲ管理スヘシ

第三條 資金ハ之ヲ支消スルコトヲ得ス但特別資金ニ限り用途指定者ノ同意ヲ以テ元金ヲ使用スルコトヲ得

第四條 資金ニ屬スル現金ハ總テ「預金局」ニ寄托スヘシ

第五條 資金ニ屬スル現金ヲ以テ不動産公債證書其他ノ證券ニ換ヘ又ハ資金ニ屬スル不動産公債證書其他ノ證券ヲ離權シ又ハ他ノ不動産公債證書其他ノ證券ニ換ヘントスルトキハ所管大臣ハ大藏大臣ニ協議シテ之ヲ定ムヘシ但寄附ニ係ル不動産ハ寄附者ノ承諾ヲ得ルニアラサレハ離權スルコトヲ得ス

第六條 資金ニ屬スル現金ノ會計ハ別途ノ歲入歲出トシテ之ヲ整理スヘシ



第二章 歳入歳出

第七條 左ノ諸收入ヲ以テ學校ノ經常歳入トス

第一 政府ノ支出金

第二 授業料及試験料

第三 寄付金

第四 公債證書及諸證券ノ利子又ハ配當金

第五 土地家屋ノ貸付料

第六 實驗用生産品賣拂代

第七 雑收入

第八條 左ノ諸費ヲ以テ學校ノ經常歳出トス

第一 教員事務員ノ俸給諸給及旅費

第二 學術用器具機械圖書及標本費

第三 授業費及試験費

第四 獎學費

第五 生徒費

第六 事務所費

第七 營繕費

第八 雑支出

第九條 左ノ諸收入ヲ以テ圖書館ノ經常歳入トス

第一 政府ノ支出金

第二 書籍借覽料

第三 寄付金

第四 公債證書及諸證券ノ利子又ハ配當金

第五 土地家屋ノ貸付料

第六 雑收入

第十條 左ノ諸費ヲ以テ圖書館ノ經常歳出トス

第一 事務員ノ俸給諸給及旅費

第二 圖書費

第三 閱覽室費

第四 事務所費

第五 營繕費

第六 雑支出

第十一條 經常歳出ハ經常歳入ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ臨時ノ歳出ニ充ツル所ノ財源ハ其都度之ヲ定ム



第三章 豫算決算

第十二條 歳入歳出豫定計算書ハ所管大臣之ヲ調製シ前年度八月三十一日マテニ各省豫定經費要  
求書ト俱ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ(二十六年勅令第二百二十六號ヲ以テ)  
(六月三十日ヲ八月三十一日ト改ム)

第十三條 所管大臣ハ其年三月三十一日現在ノ資金明細目録ヲ調製シ毎年度ノ豫算ニ添付スヘシ

第十四條 歳入歳出ノ決定計算書ハ所管大臣之ヲ調製シ翌年度八月三十一日マテニ之ヲ大藏大臣  
ニ送付スヘシ(三十五年勅令第二百  
四號ヲ以テ條中改正)

學校長圖書館長又ハ其ノ支部長ハ會計検査院ニ證明ノ爲メ毎年度歳入確定額計算書ヲ調製シ證  
憑書類ヲ添ヘ歳入事務管理廳ニ送付シ歳入事務管理廳ハ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ(二十六年  
勅令第二  
百二十六號ヲ以テ  
本項以下三項追加)

學校長圖書館長又ハ其ノ支部長ハ會計検査院ニ證明ノ爲メ毎月支出ノ計算書ヲ調製シ證書書類ヲ  
添ヘ其ノ所管大臣ニ送付シ所管大臣ハ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

本條第二項第三項ノ計算書ハ特ニ所管大臣ヨリ委任ヲ受ケタル官吏ヨリ直ニ會計検査院ニ送付  
セシムルコトヲ得

第十五條 歳入歳出ノ豫定計算書及決定計算書ハ款項ニ區分シ更ニ各目ニ分チ成ルヘク歳入ノ性  
質歳出ノ用途ヲ明示スヘシ(三十年勅令第二百九十  
三號ヲ以テ條中改正)

第十六條 (三十年勅令第二百九  
十三號ヲ以テ削除)

第四章 收入支出

第十七條 歳入歳出ノ豫算ハ決定ノ後所管大臣學校長若クハ圖書館長ニ命シテ之ヲ執行セシムヘ  
シ

所管大臣ハ學校若クハ圖書館ノ支部長ヲシテ歳出豫算ノ一部ヲ執行セシメントスルトキハ仕拂  
豫算ヲ以テ之ヲ命スヘシ(二十六年勅令第二百二十六  
號ヲ以テ本項並次項追加)

仕拂豫算ニ關スル規程ハ會計規則第二章第三款ノ例ニ依ル

第十八條 學校及圖書館會計主任ノ官吏ハ收入官吏トシテ會計規則第二十五條第二十六條ノ手續  
ニ依リ學校又ハ圖書館ノ收入ヲ取扱ヒ學校長圖書館長又ハ其ノ支部長之ヲ監督スヘシ(二十六年  
勅令第二  
百二十六號ヲ  
以テ條中改正)

第十八條ノ二 學校又ハ圖書館ハ當該年度ノ收入濟歳入額ヲ以テ仕拂元受高トシ歳出ヲ支出スル  
ハ此ノ仕拂元受高ヲ超過スルコトヲ得ス(二十六年勅令第二百  
二十六號ヲ以テ追加)

第十九條 學校長圖書館長又ハ其ノ支部長ハ經費ヲ支出スル爲メ仕拂命令官ノ責任ヲ以テ金庫ニ  
向ヒテ仕拂請求書ヲ發スヘシ(二十六年勅令第二百二十六號ヲ以テ學校長又ハ圖書館  
長又ハ其ノ支部長ト改ム以下做之)

第二十條 學校長圖書館長又ハ其ノ支部長ハ正當債主若クハ其代理人ノ爲メニスルニアラサレハ  
仕拂請求書ヲ發スルコトヲ得ス

在外國人藝術家又ハ學術研究旅行者ニ物品ノ購買採集若クハ實驗ヲ委託スル場合ニ於テハ其ノ  
委託ヲ受ケタル在外國人藝術家又ハ學術研究旅行者ヲ受取人トシテ仕拂請求書ヲ發シ概算ヲ以  
テ現金ヲ交付スルコトヲ得(二十六年勅令第二百二  
十六號ヲ以テ本項改正)



學術試驗品標本品購入費獎學費生徒費事務所費ニ限り所管大臣ノ定ムル所ニ依リ身元保證金額ノ二倍ヲ極度トシ學校會計主任ノ官吏ニ現金ノ前渡ヲナスコトヲ得  
所管大臣ハ前項ニ依リ現金前渡ヲナスヘキ費目及金額ヲ定メタルトキハ之ヲ大藏大臣ニ通知ス  
ヘシ

第二十一條 學校長圖書館長又ハ其ノ支部長ハ總テ仕拂請求書ヲ發スル前其支出ハ正當ニシテ必要ナルヤヲ調査シ其金額ヲ算定シ又其支出ハ豫算ノ目的ニ違フコトナキヤ金額ハ豫算定額及仕拂元受高ニ超過スルコトナキヤ支出科目及所屬年度ヲ誤ルコトナキヤヲ調査スヘシ(二十六勅令第二百二十六號ヲ以テ本條中ヲ改正ス)

第二十二條 學校長圖書館長又ハ其ノ支部長ハ歲出豫算明細書ニ定メタル費目ノ彼是流用ヲ要スルトキハ所管大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十三條 仕拂請求書ニハ受取人ノ氏名(概算渡現金前渡ノ場合ニハ受取人ノ資格トモ)仕拂ヲ要スル金額支出科目年度番號ヲ記載スヘシ但支出科目ノ同一ナルモノハ集合仕拂請求書トシテ別ニ各受取人ノ金額氏名表ヲ添ユルコトヲ得(二十六勅令第二百二十六號ヲ以テ本條中ヲ改正ス)

第二十四條 學校長圖書館長又ハ其ノ支部長ノ發シタル仕拂請求書取扱ノ手續ハ會計規則第三十五條第三十六條仕拂命令取扱ノ例ニ依ル(二十六勅令第二百二十六號ヲ以テ本條中ヲ改正ス)

第二十五條 各年度ノ歲出ニ屬スル仕拂請求書ヲ發スルハ翌年度四月三十日ヲ限リトス

第二十五條ノ二 定額戻入ニ關スル規程ハ第二十五條ノ三ニ定メタル期限ノ外總テ會計規則第六

章第三款ノ例ニ依ル(二十六勅令第二百二十六號ヲ以テ本條及次ノ二條ヲ追加ス)

第二十五條ノ三 各年度ニ屬スル定額戻入ヲ爲スハ翌年度四月三十日ヲ過クルコトヲ得ス

第二十六條 現金前渡ヲ受ケタル官吏監督ノ規則ハ大藏大臣所管大臣ニ協議シテ之ヲ定ムヘシ

第二十七條 金庫ハ案内仕拂請求書集合仕拂請求書若クハ金庫所在地外ニ在ル債主ニ仕拂ヲ要スル仕拂請求書ヲ受ケタルトキ其ノ仕拂請求書合式ニシテ且豫算各項ノ金額及仕拂元受高ニ超過セサルトキハ仕拂ヲ爲スヘシ(三十三年勅令第二百二十九號ヲ以テ本項中改正)

前項ノ外金庫ニ於テ仕拂請求書ニ對シテ仕拂ヲ執行シ又ハ之ヲ拒絕スルハ會計規則第四十三條第四十五條第二項第四十六條仕拂命令取扱ノ例ニ依ル(二十六勅令第二百二十六號ヲ以テ改正)

第二十八條 歲入ヲ徵收スル官吏ハ其徵收簿ノ結果ニヨリ毎月徵收報告書ヲ調製シ参照書類ヲ添ヘ翌月五日迄ニ所管大臣ヲ經由シテ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ(三十三年勅令第二百二十九號ヲ以テ改正)

第二十九條 金庫出納役ハ毎月仕拂請求書受領濟額報告書ヲ調製シ其ノ翌月中ニ大藏省ニ送付スヘシ(二十六勅令第二百二十六號ヲ以テ改正)

第五章 年度繰越歲入殘餘

第三十條 毎年度内ニ於テ仕拂フヘキ義務ヲ生シ債主ノ支出請求ナキカ若クハ事故アリテ翌年度四月三十日マテニ仕拂請求書ヲ發セサルモノ及仕拂請求書ヲ發シタルモ同日マテニ金庫ニ於テ仕拂請求ヲ受ケサルモノハ支出未濟又ハ仕拂未濟トシテ翌年度ニ繰越シ計算ヲナスヘシ

第三十一條 工事又ハ製造費ニシテ年度内ニ仕拂義務ヲ生セス仕拂請求書ヲ發スルニ至ラザリシ



モノハ之ヲ翌年度ニ繰越スコトヲ得

第三十二條 所管大臣ハ學校又ハ圖書館ノ經費ヲ繰越サントスル時ハ翌年度四月三十日迄ニ繰越計算書ヲ作り必要ノ参照書類ヲ添ヘ大藏大臣ノ承認ヲ求ムヘシ(三十三年勅令第百二十九號ヲ以テ改正)

第三十三條 大藏大臣ハ前條繰越ヲ承認シタルトキハ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

第三十四條 特ニ用途ヲ指定シタル寄付金ニシテ別途整理ヲ要スルモノ、毎年度内ニ仕拂請求書ヲ發スルニ至ラサリシ殘額ハ總テ翌年度ヘ繰越シ使用スヘシ其仕拂請求書ヲ發シテ年度内ニ金庫ニ於テ仕拂ヲ終ラサリシモノハ第三十條仕拂未濟金整理ノ例ニ依ル但本條ノ支出殘額及仕拂未濟金ハ寄付者ノ同意ヲ得テ資金トナスコトヲ得

第三十五條 第三十條ニ依リ繰越シタル支出未濟及仕拂未濟ノ金額ニシテ會計法第十八條ニ依リ期滿免除トナリタルモノハ總テ資金ニ組入ルヘシ

第三十六條 毎年度ノ歲入中仕拂濟額及繰越額ヲ控除シタル殘餘ハ總テ資金ニ組入ルヘシ

第六章 工事及物件ノ賣買貸借

第三十七條 工事及物件ノ賣買貸借ニ關スル規則ハ會計規則第七章ノ例ニ依ル

第七章 出納官吏

第三十八條 出納官吏ニ關スル規則ハ會計規則第八章ノ例ニ依ル(三十三年勅令第百二十九號ヲ以テ改正)

第八章 帳簿

第三十九條 大藏省ハ各學校圖書館會計ノ主計簿ヲ備ヘ歲入ノ豫算額確定額收入濟額不納缺損額

收入未濟額歲出ノ豫算額豫算決定後増加額仕拂元受高支出濟額翌年度繰越額、殘額ヲ登記スヘシ(二十六年勅令第百二十六號三十五年勅令第百二十四號ヲ以テ本條中ヲ改正ス)

第四十條 歲入ヲ徵收スル官吏ハ徵收簿ヲ備ヘ歲入ノ豫算額、確定額、收入濟額、不納缺損額、收入未濟額ヲ登記スヘシ(三十三年勅令第百二十九號ヲ以テ改正)

第四十一條 金庫出納役ハ支出簿ヲ備ヘ歲出ノ豫算額支拂請求書受領濟額ヲ登記シ又仕拂元受高差引簿ヲ備ヘ仕拂元受高仕拂請求書受領濟額仕拂額ヲ登記スヘシ(二十六年勅令第百二十六號ヲ以テ改正)

第四十二條 會計主任ノ官吏ハ現金出納簿ヲ備ヘ一切其取扱タル現金ノ出納ヲ登記スヘシ

第九章 雜則

第四十三條 本規則ニ依リ當該官吏ヨリ會計検査院ニ提出スル所ノ證明書ニ關スル規定様式ハ會計検査院ニ於テ之ヲ定ムヘシ(二十六年勅令第百二十六號ヲ以テ本條中ヲ改正ス)

第四十四條 前條ノ外本規則ニ掲クル諸書類帳簿ノ様式ハ大藏大臣之ヲ定ムヘシ

第四十五條 所管大臣ハ部下ノ高等官ヲ以テ學校會計監督官トシ學校ノ會計ヲ監督セシムヘシ

第四十六條 本規則ハ明治二十三年四月會計法施行ノ日ヨリ施行ス

●文部省直轄學校收入金規則明治二十一年三月勅令第十九號

朕文部省直轄學校收入金規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム



文部省直轄學校收入金規則

第一條 文部省直轄學校ニ於テ徵收スル授業料試験料證明料其他ノ收入金ハ之ヲ蓄積シテ其基金ト爲スコトヲ得

第二條 已ムヲ得サル場合ニ限リ該年度收入額二分ノ一マテハ文部大臣ハ大藏大臣ノ承諾ヲ得テ其學校ノ經費ニ充ルコトヲ得

第三條 學校又ハ學校ニ屬スル事業ニシテ國庫金ニ依ラス專ラ其收入金ヲ以テ經費ニ充ルモノハ第一條第二條ノ例外トシ文部大臣ハ大藏大臣ノ承諾ヲ得テ其收入金ノ種類ヲ定メ之ヲ支消スルコトヲ得

第四條 收入金ノ蓄積及管理ノ方法ハ文部大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

第五條 收入金出納ノ検査ハ國庫金出納ノ検査法ニ依ル

第六條 文部省直轄圖書館、博物館又ハ學士會院ニ屬スル收入金ハ此規則ニ依リ蓄積及支辨スルコトヲ得

●預金郵便貯金郵便爲替金郵便取立金特別會計明治二十三年三月法律第二十一號

朕中央備荒儲蓄金預金局預金郵便貯金預所貯金郵便爲替金特別會計ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 「中央備荒儲蓄金預金局」預金、郵便貯金郵便爲替金郵便取立金ノ會計ハ特別トシテ一般ノ歲入歳出ト區分スヘシ(三十三年法律第五十條ヲ以テ條中改正)

第二條 「中央備荒儲蓄金」預金局ニ寄托シ其利子ハ之ヲ元金ニ編入スヘシ

三十二年法律第七十七號  
救災補助基金法ヲ以テ廢止スルニテ備荒儲蓄法ヲ廢止ス

第三條 「備荒儲蓄法」ニ依リ中央備荒儲蓄金ヲ使用セントスルトキハ其金額ヲ一般ノ歲入ニ組入レ一般ノ歲出トシテ之ヲ拂出スヘシ

第四條 「預金局」預金ハ日本銀行ヲシテ之レカ運用利殖ヲ取扱ハシメ其利殖金ヲ以テ利子ノ仕拂ニ充テ殘餘アルトキハ利子仕拂元金トシテ之ヲ積立預金ト共ニ運用利殖スヘシ

第五條 「預金局」預金ニ對シテ政府ヨリ仕拂フヘキ利子ハ其金額ヲ一般ノ歲入ニ組入レ一般ノ歲出トシテ之ヲ拂出スヘシ

第六條 郵便貯金ハ「預金局」ニ寄托シ其利子ヲ貯金利子ノ仕拂ニ充ツヘシ(三十三年法律第五十條ヲ以テ條中改正)

第七條 郵便爲替、郵便貯金、郵便取立金取扱ノ爲特ニ据置運轉資本ヲ置キ從來ノ爲替資本ヲ以テ之ニ充ツヘシ(三十三年法律第五十條ヲ以テ條中改正)

第八條 郵便爲替法第十三條郵便貯金條例第十一條及郵便法第十五條ニ依リ政府ノ所得ニ歸シタル郵便爲替金、郵便貯金及郵便取立金ハ之ヲ一般ノ歲入ニ組入ルヘシ(同上)

第九條 「預金局」預金、郵便貯金、郵便爲替金郵便取立金ノ收入支出ニ關スル規則ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム但勅令ヲ以テ之ヲ定ムルマテハ從前施行スル所ノ規程ニ依ルヘシ(三十三年法律第五十條ヲ以テ條中改正)

第十條 本法ハ明治二十三年度ヨリ施行ス

●官設鐵道郵便電信郵便爲替及郵便貯金ニ屬スル現金出納方明治三十三年三月法律第五十號  
朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル官設鐵道、郵便、電信、郵便爲替及郵便貯金ニ屬スル現金出納ニ關スル法

第十五類 預金局預金郵便貯金郵便爲替金郵便取立金特別會計 官設鐵道郵便電信郵便爲替及郵便貯金ニ屬スル現金出納方 二二八五



律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
官設鐵道、郵便、電信、郵便爲替及郵便貯金ニ屬スル現金ノ出納ハ鐵道、郵便、電信、電話官署ノ事務員ヲシテ分掌セシムルコトヲ得

前項事務員ニ對シテハ會計法第九章ニ定ムル出納官吏ニ關スル規定ヲ準用ス  
附則

本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●官設鐵道、郵便、電信、電話官署出納員現金出納ニ關スル件明治三十三年十一月勅令第四百八號

朕官設鐵道、郵便、電信、電話官署出納員現金出納ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 明治三十三年法律第五十號ニ依リ官設鐵道、郵便、電信、電話官署ニ於テ其ノ事務員ニ現金出納ヲ分掌セシムルトキハ主任出納官吏若ハ分任出納官吏ノ所屬出納員トシテ之ヲ取扱ハシムヘシ

第二條 出納員ノ領收シタル現金ハ之ヲ所屬出納官吏ニ拂込ムヘシ

第三條 出納員ノ出納事務ニ要スル帳簿及様式ハ遞信大臣之ヲ定ム

第四條 出納員ハ其ノ現金出納ニ關シ遞信大臣ノ指揮監督ヲ受ク

第五條 出納員ノ身元保證金及之ニ關スル規定ハ遞信大臣之ヲ定ム

第六條 本令中遞信大臣ニ屬スル職權ハ臺灣ニ在リテハ臺灣總督之ヲ行フ(三十四年勅令第七十號ヲ以テ本條追加)

●出納員現金取扱規則明治三十四年八月遞信省令第三十六號

出納員現金取扱規則  
出納員現金取扱規則

第一條 左ノ各局、部、所、驛ニ於テ取扱フ現金ハ出納員ナシテ取扱ハシムルコトヲ得(三十五年遞信省令第二十四號ヲ以テ條中改正)

鐵道作業局所屬各驛ニ於ケル收入金  
鐵道作業局所屬各驛ニ於ケル收入金

一 二等郵便及電信局、同支局、郵便及電信取扱所、郵便及電信受取所並吏員ヲ派出シテ事務ヲ取扱ハシムル三等郵便及電信局ニ於ケル收入金、郵便爲替金、郵便貯金、郵便取立金

電話交換局及同支局ニ於ケル收入金

第二條 出納員ハ前條ノ各局、部、所、驛ニ在勤スル書記書記補雇及郵便及電信受取取扱人ヲ以テ之ニ充ツ(上同)

第三條 出納員ノ領收シタル現金ハ其ノ事務ヲ終了シタル時ニ於テ之ヲ其ノ所屬主任出納官吏若ハ分任出納官吏ニ拂込ムヘシ但郵便及電信受取所ノ出納員ハ別ニ定ムル所ニ依リ現金ノ拂込ヲ爲スヘシ(上同)

第四條 出納員其ノ所屬主任出納官吏若ハ分任出納官吏ヨリ現金ヲ領收シタル時ハ領收證ヲ交付スヘシ

第五條 主任出納官吏若ハ分任出納官吏第三條ニ依リ出納員ヨリ現金ノ拂込ヲ受ケタル時ハ領收證ヲ交付スヘシ

第六條 出納員ハ規定ノ現金出納簿ヲ備ヘ現金ノ出納ヲ記載スヘシ  
第七條 特種ノ帳簿ニ依リ領收ヲ證シ得ルモノ及特種ノ帳簿ヲ以テ現金出納簿ニ代用シ得ルモノハ第四條及第五條ノ領收證ヲ交付シ又ハ第六條ノ現金出納簿ヲ備フルヲ要セス

第八條 出納員ノ身元保證金ハ一日ノ平均取扱金額ニ依リ別ニ之ヲ定ム

第九條 現金ヲ以テ身元保證金ヲ納ムルモノハ毎月十分ノ一以上ノ金額ヲ分納スルコトヲ得但郵便及電信受取所ノ出納員ハ此限ニ在ラス(三十五年遞信省令第二十四號ヲ以テ但書追加)



●郵便電信電話官署ノ現金受拂ニ關スル件明治三十六年三月勅令第二十三號

朕郵便電信電話官署ノ現金受拂ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
郵便電信電話官署ノ出納官吏ハ歳入金歳出金並歳入歳出外現金ノ交互振替及繰替受拂ヲ爲スコトヲ得  
其ノ取扱ニ關スル規程ハ遞信大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

附則

本令ハ明治三十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●郵便電信電話官署現金受拂規則三十六年三月遞信省令第十七號

郵便電信電話官署現金受拂規則左ノ通相定ム

- 第一條 郵便電信電話官署ノ受拂ニ係ル歳入金歳出金外現金並歳入歳出外現金ハ明治三十六年三月勅令第二十三號ニ依リ郵便電信電話官署ノ出納官吏交互振替及繰替計算ヲ以テ之ヲ受拂ヲ爲シ其ノ現金ハ一團トシテ之ヲ取扱ノヘシ
- 第二條 支出科目ノ同一ナルモノニシテ數人ノ債主ニ對シ同時ニ歳出ノ繰替拂ヲ要スルトキ又ハ仕拂命令官在勤務所在地外ニ在ル債主ニ對シ歳出金ノ繰替拂ヲ要スルトキハ第一號書式ノ歳出金繰替拂通知書ヲ發スヘシ
- 第三條 出納官吏ノ繰替拂ヲ爲シタル歳出金ニ對シテハ當該仕拂命令官仕拂命令又ハ集合仕拂命令ヲ發シ振替計算ヲ以テ其ノ代リ金ノ拂込ヲ爲スヘシ
- 前項ノ場合ニ於テ發スル集合仕拂命令ニ對シテハ債主ノ金額氏名表ヲ添附スルコトヲ要セス
- 第四條 出納官吏ノ取扱ニ係ル歳入金歳出金及歳入歳出外現金ノ受拂上殘金ヲ生シタルトキ又ハ歳出金及歳入歳出外現金ノ拂渡上現金ニ缺乏ノ告ケルトキハ別ニ定ムル所ノ手續ニ依リ郵便爲替貯金管理所長ニ對シ其ノ殘金ノ回納ヲ爲シ又ハ其ノ資金ノ交付ヲ受ケヘシ
- 第五條 出納官吏ハ毎日其ノ取扱ニ係ル歳入金歳出金及歳入歳出外現金ノ受拂高ヲ精算シ之ヲ郵便爲替貯金管理所長ニ報告スヘシ

- 第六條 郵便爲替貯金管理所長ハ郵便電信電話官署出納官吏ノ取扱ニ係ル歳入金歳出金並歳入歳出外現金ノ振替及繰替受拂高ヲ精算シ郵便爲替貯金管理所出納官吏ヲシテ中央金庫ニ對シ振替計算ヲ以テ毎日其ノ受拂ヲ爲サシムヘシ
- 前項ノ場合ニ於テ要スル歳入金振替拂込書ハ第二號書式ニ依ル
- 第七條 郵便電信電話官署ノ歳入金歳出金又ハ歳入歳出外現金ノ受拂ニ關シ特殊ノ事由アルモノニ對シテハ前各條ノ規定ヲ適用セサルコトアルヘシ此ノ場合ニ於テハ總テ一般ノ規定ニ依ル

附則

第八條 本令ハ明治三十六年四月一日ヨリ施行ス

第九條 明治三十五年度會計ニ屬スルモノノ計算整理ニ關シテハ總テ一般ノ規定ニ依ル

明治三十六年度會計ニ屬スルモノニシテ本令施行ノ際既ニ一般ノ規定ニ依リ取扱ヲ爲シタルモノノ計算整理ニ關シテハ前項ノ例ニ依ルコトヲ得

(書式略)

●災害準備基金特別會計法明治三十二年三月法律第八十一號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル災害準備基金特別會計法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

災害準備基金特別會計法

- 第一條 災害準備基金ヲ置キ其ノ歳入歳出ハ一般會計ト區分シ特別會計ヲ設置ス
- 第二條 償金特別會計資金ノ内千萬圓ハ災害準備基金ニ組入ルヘシ
- 第三條 災害準備基金ハ左ノ目的ニ使用ス
  - 一 非常災害ノ爲租稅特免トナリタル場合ニ於テ生スル歳入缺損ノ補充



- 一 各府縣災害土木費ノ補助ニ要スル財源ノ補充
- 前項土木費補助ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第四條 災害準備基金ハ大藏省預金ニ寄託シ其ノ利子ハ之ヲ基金ニ編入スヘシ
- 第五條 災害準備基金千萬圓以內ニ減少シタルトキハ一般會計ヨリ其ノ缺額ヲ補填スヘシ
- 第六條 政府ハ毎年災害準備基金特別會計ノ歲入歲出豫算ヲ調製シ歲入歲出ノ總豫算ト共ニ帝國議會ニ提出スヘシ

●官有財産管理規則明治二十三年十一月勅令第二百七十五號

朕官有財産管理規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

官有財産管理規則

- 第一條 此ノ規則ニ於テ官有財産ト稱スルハ國ノ所有ニ屬スル土地、森林、原野、營造物、家屋、船舶及其ノ附屬物トス
- 第二條 官有財産ハ主管ノ各省大臣之ヲ管理ス
- 第三條 官有財産ノ賣拂、讓與、交換及貸付ハ特別ノ規定アルモノヲ除ク外總テ此ノ規則ニ依ルヘシ
- 第四條 官有財産賣拂代金ハ其ノ財産引渡ノ際一時ニ納付セシムヘシ
- 第五條 官有財産ヲ貸付スルトキハ其ノ貸付料ヲ徵收スヘシ但シ公益ノ爲官有財産ヲ貸付シ又ハ森林經濟ノ爲森林ヲ貸付スルトキハ別ニ主管大臣ノ定ムル所ノ規則ニ依ル

第六條 官有財産ノ貸付料ハ每年前納セシムヘシ若シ前納スル能ハサルトキハ相當ノ保證ヲ出サシムヘシ

第七條 官有財産ノ修理其ノ他ノ費用ヲ負擔スル方法ハ貸付契約ヲ爲ストキ之ヲ定ムヘシ

- 第一 樹木培養ニ供スル土地ハ八十年以內
- 第二 農工其ノ他ノ營業及住居ニ供スル土地ハ三十年以內
- 第三 土地森林ノ使用權ハ十五年以內
- 第四 右ニ掲ケサル物件ハ三年以內

第八條 官有財産ノ貸付期限中政府ニ於テ之ヲ國ノ使用ニ供スルノ必要アルトキハ貸付ノ契約ヲ解キ之ヲ返還セシムヘシ

第九條 官有財産ノ借受人ニシテ主管大臣ノ許可ヲ得スシテ其ノ財産ノ原形ヲ變シ若ハ故意怠慢ニ由

第十條 官有財産ノ借受人ハ主管大臣ノ許可ヲ得ルニアラサレハ其ノ財産ヲ他人ニ轉貸スルコトヲ得ス

第十一條 官有財産ヲ以テ他人ノ所有物ト交換スルコトヲ得ルハ同一種類ノ財産ニシテ少クトモ評定價格相均キモノニ限ル



森林、原野、田畑ハ同一種類ノ財産ト見做スコトヲ得

營造物、家屋、船舶及其ノ附屬物ハ他人ノ所有物ト交換スルコトヲ得ス  
第十二條 府縣郡市町村公共ノ道路、公園、市場、河川並木敷、堤塘、溝渠等ノ用ニ供スル爲官有ノ土地森林ヲ必要トスルトキハ主管大臣ニ於テ之ヲ其ノ府縣郡市町村ニ讓與スルコトヲ得

第十三條 府縣郡市町村ニ於テ新ニ道路、公園、市場、河川並木敷、堤塘、溝渠等ヲ開設シ爲ニ不用ニ歸シタル官有ノ舊同種類ノ土地ハ内務大臣ニ於テ其ノ府縣郡市町村ニ讓與スルコトヲ得但シ官林内若ハ官廳使用地内ニ包含セルモノ又ハ他ノ官有財産保護上離權シ難キモノハ此ノ限ニアラス

第十四條 官有財産ヲ賣拂貸付若ハ交換スル場合ニ於テ其ノ財産ヲ管理シ若ハ其ノ取扱ヲ爲ス官吏ハ之ヲ買受ケ又ハ自己ノ所有物ト交換スルコトヲ得ス

第十五條 此ノ規則施行ノ前ニ官有財産ノ賣拂若ハ貸付ノ契約ヲ爲シタルモノハ其ノ契約ノ滿期マテ總テ舊契約ニ依ルヘシ

第十六條 各省大臣ハ每十年其ノ年三月三十一日ニ現在セル所管官有財産ノ目錄ヲ調製シ其ノ年開會ノ帝國議會ニ報告ノ手續ヲ爲スヘシ但シ國防用防禦營造物ハ此ノ限ニ在ラス(三十四年勅令第五十號ヲ以テ但書追加)

第十七條 各省大臣ハ每會計年度間ニ於ケル所管官有財産ノ増減異動報告書ヲ調製シ翌年度開會ノ帝國議會ニ報告ノ手續ヲ爲スヘシ但シ國防用防禦營造物ハ此ノ限ニ在ラス(同上)

第十八條 第十六條ノ目錄及第十七條ノ報告書ハ其ノ事由ニ依テ區別シ左ノ事項ヲ示スヘシ

明治三十二年勅令第三百九十一號  
參看

第一 買入ニ係ルモノハ其ノ代價

第二 賣拂ニ係ルモノハ各廳ニ於テ定メタル最低賣價、實際ノ賣拂代價及目錄價格アルモノハ其ノ價格

第三 讓與交換又ハ亡失毀損等ニ係ルモノハ其ノ目錄價格

第四 交換ニ係ルモノハ其ノ交換ニ由テ得タル財産

第五 買入又ハ賣拂ノ契約ニ特別ノ條件アルモノハ其ノ條件

第十九條 此ノ規則第十六條ニ掲クル官有財産ノ目錄ニシテ第一回ノモノハ明治二十四年三月三十一日ノ現在高ヲ以テ同年六月三十日マテニ之ヲ調製スヘシ但シ調査未済ノ官有財産ハ調査ヲ了ルマテ其ノ概算ヲ目錄ニ掲クヘシ

第二十條 此ノ規則ハ明治二十四年四月一日ヨリ施行ス

●官有財産管理規則及官有地特別處分規則中準用明治三十六年五月勅令第九十六號  
朕官有財産管理規則及官有地特別處分規則ノ準用ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
官有財産管理規則及官有地特別處分規則中府縣ニ關スル規定ハ北海道地方費ニ市ニ關スル規定ハ北海道、沖繩縣ノ區ニ町村ニ關スル規定ハ沖繩縣ノ間切島ニ準用ス

●官舍貸渡規則明治九年五月第五十三號達

第十五類 官有財産管理規則及官有地特別處分規則中準用 官舍貸渡規則



明治七年<sup>七月</sup>第九十三號同八年<sup>五月</sup>第八十八號達ヲ廢シ更ニ官舎貸渡規則別紙ノ通相設候條從來ノ官舎或ハ官廳附屬ノ家屋等貸渡候向ハ本年一月一日ヨリ宿代取立大藏省ヘ可相納尤元金建坪等取調ノ儀院省ハ大藏省廳府縣ハ内務省ヘ可申出此旨相達候事  
但借地料ノ儀ハ明治八年<sup>七月</sup>第百十四號布告官有地第二種但書ノ通可相心得事

(別紙)

官舎貸渡規則

- 第一條 官舎貸渡ス時ハ毎月宿代取立ツヘシ  
但獄舎懲役場倉庫定番見張番等並ニ鐵道各驛長各所燈明番等ハ此限ニアラス其他公務ノ都合ヲ以テ官舎貸渡ス者ト雖モ宿代取立ルハ勿論ナレトモ該官舎ノ内公用私用ニ供スル間席ヲ區劃シタル向ハ其私用ニ供スル間席ノミ宿代取立ツヘシ(十年第三十七號達及第八十七號達ヲ以テ條中改正)
- 第二條 宿代ハ元金ノ八分ヨリ一割迄ヲ制限トシ適宜斟酌シテ取立ツヘシ「右取立高ノ内七分ハ上納三分ハ其廳ニ備置修繕費ニ充ツヘシ」
- 第三條 官舎新營ノ分ハ其建築費ノ總額古家作ノ分ハ買上直段又ハ當時賣買スヘキ直段ヲ以滿三年ノ元金ト定メ爾後滿三年毎ニ一旦評價セシメテ元金ヲ改ムヘシ(十年第三十七號達既ニ滿三年ヲ過ルモノハ此節一旦評價セシメテ元金ヲ改ムヘシ(十年第三十七號達)ヲ以テ本條改正)  
但新營ノ分元金ハ石礎入費ヨリ計算スヘシ且貸渡ノ節修繕ノ分ハ其費額ヲ元金ニ加ヘ爾後修繕ノ費額ハ加ヘサルヘシ
- 第四條 宿代ハ年ヲ以計算スヘシト雖モ取立方ハ月割タルヘシ  
但十六日以後ニ貸渡タル時又ハ十五日以前ニ返却シタル時ハ半月分取立ヘシ
- 第五條 (二十二年法律第四號及勅令第六十號ニ依リ消滅)  
官舎外廻リ雨漏又ハ臨時大破ノ外一切ノ修繕ハ自費タルヘシ
- 第六條 拜借人自費建増等願出ル時ハ實地檢査ノ上差支無之分ハ允許スヘシ
- 第七條 拜借人交換ノ節ハ篤ト檢査ヲ遂ケ若シ毀損スル所アルカ又ハ附屬品等不足スル時ハ辨償セシムヘシ  
但自費建増等ノ存廢ハ新舊拜借人ノ示談ニ任スヘシ

●帝國議會用官有財產事務掌理方明治二十四年二月勅令第十五號

- 第一條 帝國議會ノ用ニ供スル官有財產ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
- 第二條 帝國議會ノ用ニ供スル官有財產ニ關スル行政事務ハ各院書記官長之ヲ掌ル
- 第三條 前條事務ノ指揮監督ハ大藏大臣之ヲ行フ(二十七年勅令第六十一號ヲ以テ内務大臣トアルナ大藏大臣ト改ム)

●森林資金特別會計法明治三十二年三月法律第八十六號  
朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル森林資金特別會計法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム



森林資金特別會計法

第一條 國有林野ノ處分國有林ノ實測、施行案編製、造林及森林買上ニ係ル特別經營ノ爲森林資金ヲ置キ其ノ歲入歳出ハ一般會計ト區分シ特別會計ヲ設置ス

第二條 森林資金ハ國有トシテ存置ノ必要ナキ林野賣拂代金ヲ以テ之ニ充ツ

第三條 森林資金ヲ使用セントスルトキハ其ノ金額ヲ一般ノ歳入ニ組入レ一般ノ歳出トシテ拂出スヘシ

第四條 森林資金ニシテ毎年度内ニ使用セサルモノハ翌年度ヘ繰越スヘシ

第五條 第一條ニ掲クル特別經營ノ事業完了ノ上森林資金ニ剩餘アルトキハ一般ノ歳入ニ繰入ルヘシ

第六條 政府ハ毎年森林資金特別會計ノ歳入歳出豫算ヲ調製シ歳入歳出ノ總豫算ト共ニ帝國議會ニ提出スヘシ

第七條 森林資金ノ收入支出ニ關スル規程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

第八條 本法ハ明治三十二年度ヨリ施行ス

●森林資金ノ收入支出明治三十二年四月勅令第百二十三號

朕森林資金ノ收入支出ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

森林資金ノ收入支出ニ關シテハ會計規則ヲ適用ス

●帝國大學資金所屬森林原野並產物特別處分規則明治三十一年五月勅令第九十二號

朕帝國大學資金所屬森林原野並產物特別處分規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

帝國大學資金所屬森林原野並產物特別處分規則

第一條 文部大臣ハ左ノ場合ニ限り隨意契約ヲ以テ帝國大學資金所屬森林原野ノ貸渡及其ノ產物ノ賣却ヲ爲スコトヲ得

一 官廳又ハ公共ノ用ニ供スル爲メ森林原野ヲ貸渡シ若ハ建築材料ヲ賣渡ストキ

二 見積借地料一箇年二百圓ヲ超エサル森林原野ヲ貸渡ストキ

三 從來ノ慣行ニ由リ地元人民ニ木竹薪炭材下草秣小柴若ハ土石ヲ賣渡ストキ

四 林業附帶ノ用ニ供スル爲メ森林原野ヲ貸渡ストキ

五 季節アル生産物ヲ賣拂フトキ

六 部分木ヲ其ノ仕付人ニ賣拂フトキ

第二條 文部大臣ハ競争入札ニ付シタル物件ノ豫定價格ニ達セス該入札ヲ取消シタル場合ニ於テ爾後三十日以内ニ豫定價格ヨリ低カラサル代價ヲ以テ同一物件ノ拂下ヲ望ム者アルトキハ隨意之ヲ賣拂フトコトヲ得

●官有地特別處分規則明治二十三年七月勅令第百三十五號

第十五類 森林資金ノ收入支出 帝國大學資金所屬森林原野並產物特別處分規則 官有地特別處分規則 二二九七